



**たちばなキッカーズ
創立 30 周年記念誌**

—子供が主役のたちばなサッカー三十年史—

たちばなキッカーズ

創立 30 周年記念誌

— 子供が主役のたちばなサッカー三十年史 —



1998.12

たちばなキッカーズ 監督・コーチ



前島 緒方 細井 村松 木村 新井 大島
永田 曾田



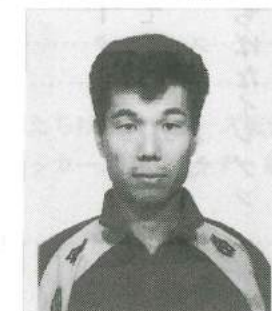
田辺



伊藤 堀内 五嶋



南間



鈴木



佐々木

目次

	ページ
・祝辞	1
たちばなキッカーズ創立 30 周年を祝って (社)横浜サッカー協会少年委員会 委員長 堀内 正明...	1
たちばなキッカーズと私 (社)横浜サッカー協会少年委員会 副委員長 池畑 健一郎	1
“創立 30 周年を祝して” 駒林サッカークラブ代表 常盤 利行	2
たちばなキッカーズ 30 周年に寄せて あざみ野 FC 代表 村上 源也	2
創立 30 周年を祝して 横浜市立下田小学校 校長 廣瀬 喜久恵	3
たちばなキッカーズ三十周年おめでとうございます 横浜市立高田小学校 校長 高橋 裕	3
創立 30 周年を祝して 横浜市立日吉台西中学校 校長 長谷 岑二郎	4
「お祝いの言葉」 横浜市立高田中学校 校長 芹田 公一	4
祝創立三十周年 下田町自治会会長 田辺 和男	5
祝創立三十周年 サンヴァリエ日吉自治会会長 若木 信子	5
祝創立三十周年 下田レインボー監督 道広 国昭	6
・創生期 (1 期～9 期)	7
“たちばな KC の誕生と揺らん期” たちばなキッカーズ監督 曾田 弘治	28
“たちばなキッカーズの皆さんへ” たちばなキッカーズ故佐野コーチ奥様 佐野 純子	30
・発展期 (10 期～19 期)	31
発展期のたちばなキッカーズ(第 10 期～19 期) たちばなキッカーズ代表 永田 欣也	58
祝 たちばなキッカーズ 30 周年 旧 LL 担当コーチ 末山 本村	59
・成熟期 (20 期～29 期)	61
成熟期のたちばなキッカーズ L 担当コーチ 南間 正次	95
たちばなキッカーズと重なる思いで 旧 LL 担当コーチ 横川 芳江	97
・飛躍期 (30 期～36 期)	99
過去、現在そして未来に向かって SL 担当コーチ 伊藤 直和	117
小学生におけるスポーツのあり方 L 担当コーチ 矢戸 正人	118
審判は何処へ行く? たちばなキッカーズ旧コーチ 旧二級審判員 中林 由行	119
・楽しい夏期合宿	120
・スポーツテスト記録	124
・歴代コーチの変遷	128
現役コーチ陣からのメッセージ	129
佐野さんとたちばなキッカーズ たちばなキッカーズ監督 曾田 弘治	131
薄木コーチを偲んで たちばなキッカーズ LL コーチ 前島 宏行	131
・クラブ規約の変遷	133
・たちばなキッカーズ指導方針	135
・主要大会の成績記録	141
・編集後記	147

たちばなイレブン

作詞 笠松文雄ほか
作曲 山室 紘一

1. むねに かがや く たちの ばな い ま ー ン ク す べ
2. おおぞら ひびー く た こ せ ない え ん に ち か

てのー ちかー らい だ た し か う き ゅ っ て き ファイ
らー いっぱい だ た し か う き ゅ っ て き ファイ

ト だ シュート だ ス ビ ー ド だ
F F#dim C Em7/bb A7 D7 G2 C

ぼくら たちば な たちば な イ レ ブ ン

胸に輝く たちばな マーク
すべての力 出しきって
ファイトだ シュートだ スピードだ
ぼくら たちばな たちばなイレブン

大空ひびく この声援に
ちから一ばい 闘う勇氣
ファイトだ シュートだ スピードだ
ぼくら たちばな たちばなイレブン

作詞 笠松文雄ほか
作曲 山室 紘一

祝 辞

たちばなキッカーズ創立 30 周年を祝って

(社)横浜サッカー協会少年委員会 委員長

篠原つばめサッカークラブ代表 堀内 正明

サッカーと子供達が大好きな曾田先輩が立ち上げた貴クラブの 30 周年、心よりお慶び申し上げます。今でこそ横浜サッカー協会登録チームも 140 余の多きに至り、少年サッカーがポピュラーになってきました。更に未登録の関係者を加えると、それはとても 30 年前には予想だにしえなかった世界だと思いますが、先見の明を持った曾田さんが自チームを誕生させ、当時のスタッフが駒林を興し、分家とも言ふべきあざみ野 FC が産声を上げ、横浜市内はもとより広域に亘り少年サッカーの普及に尽くされた功績は計り知れない価値ある勲章だと思っています。

顧みますと、少年委員会も 30 周年を迎えますが、力強いサポーターとして曾田さん、山王谷 SC の高田さんを初めとした多くの方々に支えられて進んでまいりました。このめでたい記念誌をお借りして厚くお礼申し上げます。何か曾田さん一人を持ち上げたようになりましたが、決してそう言う気持ちばかりではありません。大島さん、永田さん、前島さん、田辺さん、佐野さん（残念ながら他界）等々の古くからのコーチ、村上さん、大滝さん等々の応援の方々、年々受け継いでこられたお母さん方の人並み外れた（一寸失礼お許し下さい）目に見えない陰の力、が全て一体となって今日まで少しのひずみもなく、堂々としたクラブの存続に歴史は刻々ときざまれ、30 周年と言う偉大な節目を迎えられたと信じています。また、下田小学校を初めとした近隣の皆様にも少年委員会を代表して心から感謝申し上げます。これからも関係者一致団結して 40 周年、50 周年に向けて頑張ってください。

改めて 30 周年記念おめでとうございます。

たちばなキッカーズと私

(社)横浜サッカー協会少年委員会 副委員長

駒林サッカークラブ初代代表 池畑 健一郎

たちばなキッカーズ、創立 30 周年、おめでとうございます。

九州の南端から下田小学校に赴任した田舎丸出しの私がサッカーというスポーツ文化に初めて触れたのが、小学校のサッカー。完全に嵌まってしまいました。早朝、放課後と暇さえあれば子供達を集めて指導、と言うより私が稽古をつけて貰ったと言うのが実情でした。子供達の方が遥かに上手いのです。その子供達を育てて下さったのが曾田さんであることを後になって知りました。

偶然、学級に曾田さんのお嬢さんが在席していた縁で、曾田さんと“たちばなキッカーズ”と出会ったのです。

曾田さんのサッカーにかける情熱、指導理念には本当に頭が下がりました。勝つためのサッカーと言うより、サッカーを好きにさせる指導を大切にしているのを感じました。一人一人の個性を大切に、伸び伸びと、本当にサッカーを楽しんでいる子供達の姿を見てきました。

以来、私は少年サッカーの虜になってしまいましたが、それは“たちばなキッカーズ”であり、曾田さんであり、曾田さんのもとに集まった素晴らしい子供達のお陰です。

J リーグが発足し、日本代表がワールドカップに出場し、サッカーが大きく報道される時代になりました。その礎の一端を担ってきたのが、少年サッカーでもあると思います。その少年サッカーの横浜での幕を開けたチームの一つが「たちばなキッカーズ」です。30 年という歴史の重みも凄いものですが、それを支えて来られた“たちばなキッカーズ”関係者の方々の一致団結ぶりも素晴らしいと思います。

“たちばなキッカーズ”の益々のご発展を祈念致します。

“創立30周年を祝して”

駒林サッカークラブ代表 常盤 利行

たちばなキッカーズが、創立以来幾多の試練を乗り越えて数々の実績を挙げられ、ここに記念すべき30周年を迎えられたことを心からお喜び申し上げます。又、この機会に記念誌を発行し、過去の活動の総括と、明日への飛躍を目指そうとすること努力に対し、心から敬意を表します。

かえり見ますと、曾田先生の御指導によりスタートしたと聞いております。当時は苦難の道の連続であった事と思います。周囲の深い御理解のもと指導にあたり、市内有数の実力チームに成長した過程は、‘横浜少年サッカーの歩み’そのものを見る思いが致します。それと永田代表を先頭に各クラスの指導者の皆様と父兄会の皆様の「子供を思う親の気持ち」が一致し、見事に開花したのが“たちばなキッカーズ”ではないかと思えます。

私が駒林サッカークラブにお世話になった頃、市内では常にトップクラスを占め、県大会でも常勝チームで、活躍は目覚ましいもので、雲の上のチームでありました。L、LL、SLクラスの指導体制と父兄会の組織は、他チームの模範となっておりました。

この30周年を契機に素晴らしい発展を遂げられます様に祈念いたしまして、御祝いの言葉といたします。

たちばなキッカーズ30周年に寄せて

あざみ野FC代表 村上 源也

私と“たちばなキッカーズ”の出会いからお話ししよう。

長男の祐也と次男の晋也が各々小学校三年生と一年生になった時でした。私どもが日吉団地に住んでいたこともあって、二人は友人に誘われて“たちばなキッカーズ”に入団しました。御大の曾田弘治監督とは以前からの知り合いでもあったので、私も日曜日の練習や試合に顔を出すようになったのです。

当時の横浜の少年サッカーはまだ歴史も浅くて、チームの数も今ほどではなかったのですが、その中で“たちばなキッカーズ”は先駆者として活躍していました。いろいろな大会では常に上位にあって、周囲のチームの目標になっていました。長男が六年生のときの「全日本少年サッカー大会 神奈川県予選」の決勝で、鎌倉のいづみキッカーズに敗れた試合や、その翌年 次男が五年生で出場した同じ大会の決勝で、浜見Aに延長PKでまたしても涙をのんだ試合などは、今でも私の記憶に鮮明に残っています。その長男が今では32才になって、一児の父親ですし、次男も30才になりました。私ども家族は“たちばなキッカーズ”30年の歴史に、こうして足跡を残すことが出来たことをあらためて嬉しく思っています。

子供二人が六年生と四年生のときに、私どもは日吉から現在のあざみ野に引越しました。そして、次男が転校した山内小学校で再会したのが坂田たか子校長先生でした。坂田先生は下田小学校の副校長から栄転された方で、「あざみ野にも是非少年サッカーを普及させたい」と熱心に話されました。そこで、曾田監督のお許しを得て誕生したのが我が“あざみ野FC”です。当初は選手の数も少なく、技術的にも全くゼロからのスタートでした。しかし“たちばなキッカーズ”を始め多くの先輩チームの応援があって、今日の“あざみ野FC”に成長することが出来ました。そんな訳で、私は“あざみ野FC”は“たちばなキッカーズ”の分身だと思っています。

創立30周年を迎えられた“たちばなキッカーズ”の益々のご活躍を祈るとともに、これからは私たちが“あざみ野FC”の最も身近な理解者としてご助言をお願いする次第です。

創立30周年を祝して

横浜市立下田小学校
校長 廣瀬 喜久恵

たちばなキッカーズが、発足30周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

30年の長きに亘り600名余りの子供達がこのチームに在籍していたことをお伺いして、歴史の深さと共に、地域の子供達のスポーツ環境に恵まれた幸せを羨ましく感じました。そして、監督・コーチの皆様の日頃のご指導に心から敬意を表する次第です。

土曜日の午後、下田小学校の校庭は、子供達の歓声と熱気に包まれます。全身汗まみれの子供達が、グラウンド一杯に広がって、それぞれのパートで練習しています。一つのボールを追う子供達の目は輝きに満ち、体中真剣さに溢れています。

今、子供達の遊びには、年齢を超えた遊びが行われておりません。昔はガキ大将がいて、遊びをひっぱって行ってくれたので、その中からいろいろなことを学ぶことができました。今、平素の生活の中では、そういう機会は滅多に在りません。それが、サッカーを通して自然に行われている状況を目の当りにして、規律を守りながらお互いを理解し、思いやり、慕い合う気持ちが生まれることを確信しました。また、「子供達の自主性を重んじ、型にはめることなく、できるだけ楽しく、のびのびやるサッカーがチームのモットーです」とおっしゃる監督さんの言葉の中から、心身共に大きく育つ大事な時期に、サッカーの技術はもちろん、人生の大切な勉強ができることは素晴らしいと感じました。

終りとなりましたが、たちばなキッカーズの益々のご発展と、チームの皆様の活躍を心より祈念いたしまして結びといたします。

たちばなキッカーズ三十周年 おめでとうございます

横浜市立高田小学校
校長 高橋 裕

ワールドカップ フランス大会での日本は、一勝もできず残念です。でも今回は、フランスへ行き善戦しただけでもよいのかなとも思っています。次に横浜の国際総合競技場で開催される時には、何とか参観したいと今から楽しみにしています。そのためにも、横浜で決勝戦が出来るように、応援していきたいと思っています。また、一戦でも多く横浜で開催されるように、みんなで協力し、横浜大会開催に向けた取り組みに支援していきたいと思っています。たちばなキッカーズのみなさんも同じような思いでいることでしょう。港北区内にある競技場ですから、港北区の人達を中心となり、がんばっていきましょう。

たちばなキッカーズに入っている高田小の児童は約二十名だそうですが、楽しみながら熱中し、心身を鍛えているようです。今、心の教育の必要性が叫ばれていますが、サッカーを通して心身を鍛えつつ、他校の児童や、指導者、保護者とかかわりを持つことは、とても意義あることだと思います。私も暑い夏、寒い冬に柔道をした経験がありますが、その体験は今でも宝です。その苦しさ、厳しさも今ではなつかしい思い出となり、何かのときに役立っています。

たちばなキッカーズは区内でも強いチームであり、また、プロ選手も輩出している名門チームと聞いております。後から続く人たちが夢をもって取り組んでくれる様に願っています。

指導や世話にあたっておられる方々には、ご苦労も多いことと思いますが、今、子供達が熱中できるものがあることは幸せなことだと思います。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

創立 30 周年を祝して

横浜市立日吉台西中学校
校長 長谷 岑二郎

“たちばなキッカーズ”の創立 30 周年、誠におめでとうございます。

サッカーが今日のように日本のスポーツの中に定着し、隆盛をみたのは東京オリンピックがそのきっかけだったと言われています。その東京オリンピック開催の数年後に創立された“たちばなキッカーズ”は地域スポーツの普及はもちろん、今日の青少年のサッカー熱を育む大きな一翼を担うとともに、サッカーを通して健全な青少年の育成を図ってこられました。30 年もの永年にわたり指導や運営に関わってこられました関係者に改めて深く敬意を表する次第です。

私事になりますが、昨年ヨーロッパ諸国の教育事情を視察する機会を得ました。その中で特に印象に残っていることは、ドイツのミュンヘンでは郊外の至るところにサッカーコートがあり、その青々とした芝生のなかでのびのびとボールを蹴っている子供達の姿でした。

これまでの日本における青少年のスポーツは、学校スポーツが中心でしたが、学校スポーツは指導者の問題等、数多くの課題を抱えています。これからの青少年スポーツを考えると、地域スポーツと学校スポーツの共存と共栄がより一層重要となってきます。“たちばなキッカーズ”がその重要な役割の担い手の最先端として益々発展され、活躍されますことを心より願い、お祝いのことばとさせていただきます。

「お祝いの言葉」

横浜市立高田中学校
校長 芹田 公一

“たちばなキッカーズ”創部三十周年おめでとうございます。

ひとくちに三十周年といいますが、三十年という歳月の長さはなかなか実感できるものではないと思います。

人がこの世に生を受けて、その赤子が三十才の大人になるまでは、どれほど膨大な時間と厳しい試練を経なければならぬかを思ってみれば、その困難さの幾ばくかは理解できるのではないのでしょうか。まして、同好の士の集まりとはいえ、三十年の長きにわたり、それぞれ生い立ちも生活環境も異なる集団を維持し、発展させ、活動を支え続けるということはどれほどの困難さと厳しさを伴うものなのでしょう。残念ながら私のような凡人には想像もつきません。そのことを成し遂げられ、現在もなおそれを実践されている関係者の皆様のご努力に対し心から敬意を表します。

皆様方の地道ではありますが、このようなたゆまぬ努力が、まさしく「継続は力なり」という言葉の実践にほかならないと思います。

昨今、学校のみならず家庭や地域の教育力の低下ということが人々の口の端に上って久しくなりますが、このような問題に対する解答の一端がこの辺にあるような気がします。

誤解を恐れずに言えば、教育は学校の専売特許ではありません。“たちばなキッカーズ”のような活動を通しての教育もほかには代え難いものだと思います。

今後、ますますの発展を祈念いたします。

祝創立三十周年

下田町自治会会長 田辺 和男

本年は、ワールドカップが開催され、日本代表も初出場と輝かしい年に当り、地元下田町が誇りとする伝統ある“たちばなキッカーズ”が創立三十周年を迎えられる事は、誠に嬉しく心よりお喜び申し上げます。

昭和四十三年創立と伺っておりますが、三十年間の曾田監督をはじめ、コーチ、父母の方々、各方面の関係者の皆様のご苦勞と努力に対し、感謝申し上げると共に拍手を送りたいと存じます。スポーツは勝負が付きものですが、監督はあまり勝負にはこだわらず、サッカーを通して心身共に強い子供、健全育成を願っているのではないかと考えております。練習試合の時いつも笑顔で話をされ、それを聞いている子供達の表情を見る度に「子供達から信頼される優しい監督なんだ!!」と敬服している次第です。

少子化が進む中、進学を迎える時期になりますと退会をする子供さんもいると聞いておりますが、伝統ある“たちばなキッカーズ”に一人でも多くの子供達が入会し、サッカーを愛し、二十一世紀に向けて大きく飛躍し、世界を目指して頑張れと期待を致したいと思っております。

子供達のサッカーを通して父母達の交流も出来、サッカーに対する理解と協力が一段と深まっていくのではないのでしょうか。又、皆さんに、地域にも目を向けていただき連絡を強くしていきたいと思っております。

これからの“たちばなキッカーズ”の益々の発展と曾田監督はじめコーチ及び関係者の皆様には健康に十分注意され、たちばなのため、子供達のために、今後ともよろしく御指導お願い申し上げ、お祝いのあいさつとさせていただきます。

祝創立三十周年

サンヴァリエ日吉自治会会長 若木 信子

“たちばなキッカーズ”の 30 年、心からおめでとうと申し上げるとともに、30 年間支えて来られた曾田監督を始め、コーチの方々や、ご父兄、勿論子供さん達に大きな拍手を送ります。

“たちばなキッカーズ”の発祥の地、それは公団住宅日吉団地であり、当時日吉団地の居住者でもあり、日吉団地の公団の管理主任をされておられた曾田さんなくては、“たちばなキッカーズ”の存在はなかったし、30 年もあり得ないと思っております。

その発祥の地、日吉団地も 1997 年 12 月で入居 40 年を迎えましたが、この間、住都公団による「建て替え」が行なわれ、現在「サンヴァリエ日吉」と名称も変り、住環境ばかりでなく、居住者も半分以上が入れ替わり、自治会活動も新たな取り組みが必要となっています。この様な状況のなかで、昨年暮れ以来、入居 40 周年記念事業を展開、今年の 3 月の祝典に向けて「入居 40 周年記念誌」を発行しました。「日吉団地からサンヴァリエ日吉へ」の 40 年の自治会活動の歴史は、大家さんである住宅・都市整備公団の事業内容の変遷とも重なります。それは、立場が違っていますが、「安心して住み続けられる団地」をめざす諸事業・諸活動の展開に他ならないのですから。曾田さんは当公団の二代目の管理主任さんとして、今では考えられない様な、団地に住まわれての「24 時間の管理体制」という木目細かな団地管理をして頂き、居住者・自治会とも大変お世話になりました。記念誌に「日吉団地の思い出」で曾田さんに原稿をお出し頂きました時、“たちばなキッカーズ”の創設者ばかりでなく、現在大活躍しておられ、市・区・団地対抗の各大会で優勝を続けている「サンヴァリエ日吉男子ソフトボールチーム」も、曾田さんがつくられた「スポーツ愛好クラブ」だったことを改めて認識させて頂きました。

曾田さん、益々お元気でご活躍下さいませよう、“たちばなキッカーズ”の為にも、サンヴァリエ日吉自治会の為にも!

祝創立三十周年

下田レインボー監督 道広 国昭

“たちばなキッカーズ” 創立三十周年、誠におめでとうございます。同じボランティア活動に携わっている私と致しましてとても嬉しく思います。心から御祝いを申し上げる次第です。

一口に三十年と申しまして、いろいろの事があったのではないのでしょうか。楽しかった事、苦しかった事、いやな事等、何度となく積み重ねてここに三十年と言う輝かしい歴史を作って来られました。敬服致しております。今までに“たちばなキッカーズ”に携わられた数多くの御父母、先輩の方々、そして、今現在の関係者の皆様、これから先、四十年、五十年と続くであろう貴部の更なる発展を心よりお祈り申し上げます。

少年時のスポーツは、「人間形成上、最も重要な事の一つである」と私は常々思っております。次代を担う青少年が、心身共に健やかに、又、たくましく成長し、住み良い二十一世紀を作るべき人間となります様、指導者の皆様と、御父母の力添えを節にお願い致しまして、お祝いの言葉と致します。

「頑張れ！ たちばなキッカーズ」



創生期 (1期～9期)

1968 年(昭和 43 年)11 月 23 日(祝日)のたちばなキッカーズ創部から約 10 年間を「創生期」と命名し、当時の戦績、チームカラーを振り返ってみました。

当時、ここ下田界隈はまだ「田園丘陵地帯」の面影を残していましたが、東京圏の人口が急速に伸びつつあった時代であり、下田小から昭和 42 年に日吉南小が、昭和 48 年に駒林小が独立する程、児童数が急増していました。一方、東京オリンピック以来、家庭の主婦が気軽にジャージ姿で買物に行く等、スポーツが身近になってきた頃でもありました。

「たちばな」では本当にサッカーが好きな少年達だけが集まり、サッカーを楽しんでいました……。

第1期 1969年度(昭和44年度)卒業生

シーズンレビュー

- ・昭和43年11月23日(祝)朝 下田小学校校庭に16名?が集まり初練習を行う。曾田監督の長女(葉子さん:マネージャー)の呼びかけでチーム発足。5年生以下の下田小学校生徒でスタートする。

L (1969年度(昭和44年度))

- ・8月24日(日)「たちばなキッカーズ」が出来てから初めての対外試合を下田小校庭で実施。相手は当時日吉町にあった「若草クラブ」(故石垣一雄氏が指導)。5-0で大勝利。
 - 1点目:敵のハンドによるフリーキックを竹沢君が蹴り、それを土屋君が速い出足でプッシュ
 - 2点目:竹沢君がゴール正面からシュート
 - 3点目:今橋君がらのパスを森下君がゴール正面から左足でクリーンシュート
 - 4点目:加藤君からのパスを今橋君がゴール左上にクリーンシュート
 - 5点目:加藤君が相手のバックをドリブルで抜き左足でクリーンシュート
- ・9月 下田小校庭に初めてシュート板が設置される。
- ・11月 日吉地区少年サッカー大会を初めて行なう。参加チームは、朝日、南日吉、たちばな、若草クラブの4チーム。優勝は朝日。たちばなは3位。

チーム紹介

“三十年前を振り返って” 第1期生 賀久 哲郎

たちばなキッカーズ三十周年おめでとうございます。

九月の初め、会社から帰宅したところ、家内より

「曾田さんと言う方から電話があったわよ」

「曾田さん?」

「そう、たちばなキッカーズの件で」

三十年間途絶えていた私の一本の記憶の糸が復活しました。さっそく森田葉子さん(旧姓曾田葉子さん)へ電話をし、当時の懐かしい思い出話にしばしはまり込んでしまいました。その後、お父様の曾田監督からもお電話を頂き、当時の懐かしい話をさせて頂きました。

当時の「たちばなキッカーズ」の記憶は、下田小学校卒業と共にだんだんと薄れ、現在ではほとんど完全に忘れていました。しかし、お話をさせて頂いているうちに出てくる名前、「村上君」「桜井君」「飯田君」「瀬戸君」等、お聞きすれば臉にすぐ当時の懐かしい仲間の顔が浮かんできました。本当にうれしい連絡でした。

三十年前、当時五年生で、私は東京から下田小学校へ転校して来ました。最初はなかなか友達が出来ず、ただ毎日フラフラしていました。そんなある日の日曜日の午前中、たまたま下田小学校の校庭へ行くと、曾田監督以下五年四組の何人かがサッカーの練習をしていました。曾田監督は私に気さくに「一緒にやらないか」と声をかけてくれました。そして、それから毎週日曜日は一日中夢中になってサッカーに行くようになりました。当時は野球がとても盛んで、現在のようにサッカー熱は無く、ほとんどの小学生は野球に夢中になっていました。私も授業でサッカーをやる程度でしたが、曾田監督の熱心なコーチに引かれ、すぐ夢中になってしまいました。おかげで、友達も早く

出来、毎週日曜日が楽しみでした。

現在はJリーグやワールドカップへの出場等サッカー熱が盛んなため、それぞれの学校では父兄が中心になり、ユニフォームからグラウンドの施設、ボール、ミニゴール等恵まれた環境でプレイできますが、当時はまったくその様な環境は無く、ボールはゴムボールでユニフォームは無く、何箇月かしてやっとグリーンの上着が揃えられた記憶があります。私はゴールキーパーでした。何故キーパーになったのかは良く覚えていませんが、一度試合で、たぶんたまたまキーパーをさせられていた時、チームの皆から「スゲー、かっこいい」とべたほめられた記憶があります。この満足感は今でも覚えています。また当時はルール等にほとんど精通していなかったため、よく監督のお宅に集まって勉強会を開いて説明を受けた思い出があります。そして、その説明のために監督とサッカーゲームの玩具を買いに行ったことも覚えています。その様な状態ですから他にチームも少なく、練習試合もなかなか出来なかった状態でした。でも皆一丸となって本当に楽しみながら練習をしたと思います。

さて時は過ぎ、もう三十周年ですね。本当に早いものです。そして現在のたちばなキッカーズの繁栄にはびっくりしました。これも本当に曾田監督の御努力の賜物だと思います。本当にご苦労様でした。そして私にとっては今回の出会いが、今後素晴らしいものとなるような気がします。出来れば同窓会でも開きたいですね。

私の息子は今年一年生で、現在駒林小学校へ通っていますが、偶然にも駒林サッカーチームで土・日曜日ががんばっています。コーチもしっかりした方で、とても熱心に行なってくれています。また、父兄の方々のバックアップもあり、練習には必ずどなたかが交代で立ち会い、飲み物や救急対応もして頂いています。練習試合も多く、月に2から3回くらいは他のチームと試合を行っています。この様な環境の下では思う存分サッカーに熱中出来ると思います。私達の頃より格段の差で恵まれていますね。

今日も我が息子様はグリーンのユニフォーム・青のトラックス・プロテクター・グリーンの上着・ストッキングに身を包み、公式のサッカーボールを持ち、学校へ練習に行かれます。もちろん車での送り迎え付き。

「さてと、では息子を送りに行くか」

……息子よ、お父さんみたいな人生の素晴らしい思い出を作れよ……

メンバー紹介

ポジション	名前
FW	村上 三紀夫
FW	飯田 隆
GK	賀久 哲郎
FW	木口 純一
FB	小林 泰和
FW	里見 清行
HB	瀬戸 永祐
FB	高木 浩司
HB	田中 仁志
HB	豊田 雅彦
FB	鈴木 正
FB	橋本 康司
マネージャー	森田 葉子 (旧姓 曾田)



たちばなキッカーズ・ペナント

第2期 1970年度(昭和45年度)卒業生

シーズンレビュー

L (1970年度(昭和45年度))

・4月 第2回日吉地区少年サッカー大会開催

1位：南日吉

2位：たちばな

3位：若草

(資格は小4から中1の為、年長者の多いチームが有利であった)

チーム紹介

“サッカー人生” 第2期生 小山 栄(創立15周年記念誌より)

私が初めてボールを蹴ったのは、今から何年前になるのでしょうか。もう二十年以上も前の事ですからはっきりとは覚えておりませんが、下田小学校の同じクラスの友人に誘われて、たちばなキッカーズにお世話になったのではないかと思います。その頃の私はサッカーというスポーツを全く知らずにいましたから、たちばなキッカーズにお世話になる時も友人がやっているから自分もやってみようという様な軽い気持ちでサッカーをやり始めた訳です。

しかし、しばらくボールを蹴っているとサッカーには不思議な魅力がある事が判り、どんどんサッカーに引かれて行きました。ボールを蹴る楽しさ、ボールを止める難しさ、今思うとこの頃から私のサッカー人生が始まっていたのです。

ある時、下田小学校のサッカーチームを作る事になり、人数を集め、選手の選考が行なわれました。結果、運良く私は選手に選ばれ、当時七人制(GK:1名、DF:2名、MF:1名、FW:3名)のチームのMFをやらせて頂き、日吉台小学校や日吉南小学校と毎週のように試合をしておりました。何試合かしていますと、対人プレーとはいかないまでも、敵がいる時のプレーなどを色々考えたりする様になりました。

中学校(日吉台中)に入学すると、小学校時代に試合をした他校の友達がほとんど集まり、みんなでサッカー部に入部しました。細かな事は覚えていませんが、私が入学した頃は戦績も素晴らしかったのではないのでしょうか。

高校は都内の学校で、サッカーでは無名の駒沢高校に入学しました。自宅が横浜市内であった為、時間の関係もあってクラブ活動はしないつもりでしたが、サッカー部の練習を見ているうちに、やはり自分にはサッカーしか無いと考え、入学してから一ヶ月後にサッカー部に入部しました。高校ともなると、先輩、後輩がはっきりしていて、一年生の時は、苦しい思いばかりでしたが、一年生の夏から私は試合に出る事が出来たので、そんな事は言ってもらえませんでした。

高校が大学の付属という事で、大学生とよく試合をしたり、練習を見てもらったりするのが、その頃は大変勉強になりました。

当然の様に高校を卒業すると、大学のサッカー部に入部しました。しかし、自分のサッカーが大学でどこまで通用するか心配でなりません。私の入学当時、駒沢大学は関東リーグの下の東京都リーグでしたが、努力のかいあって、秋には関東二部のチームとの入れ替え戦で勝ち、念願の関東リーグに名を連ねる事が出来ました。そして、私が二年生の時に関東二部リーグ一年目にして優勝し、今度は関東一部との入れ替え戦を行いました。一部の壁は厚く、大敗しました。

私が三年生の時、今年こそ一部の壁を破ろうと、関東二部で全勝優勝を果たし、二年連続の一部

との入れ替え戦を行ないました。その結果、勝つ事が出来、念願の関東一部入りを果たす事が出来ました。

私が四年生の秋は、駒沢サッカー部創立以来初めて関東一部リーグで戦う事が出来ましたが、力の差がはっきりしており、気が付いてみれば今度は関東二部のチームとの入れ替え戦をやるはめになっており、結果は惜敗し、一年間だけの一部という最悪の状態になってしまいました。現在の駒沢大学は後輩の力で関東一部で堂々と試合をしております。私の大学時代は四年間、毎年入れ替え戦を戦うという大変な四年間でした。

現在、私は日立製作所に入社し、今年で三年目(現在は十八年目)を迎えましたが、学生時代とは違い、サッカーだけやっていたら良いというものではなく、社会人としての自分の立場も極めて難しいものになりました。

サッカーの方でも昨年やっとリーグ戦などに出場する事が出来ましたが、自分としてはまだまだ他のチームに通用しない面が多く、また、これからの課題も多々あると感じています。

今後は、より一層「技術・体力・精神力」を身につけ、これからの日立のサッカーを背負って行きたいと考えております。

メンバー紹介

ポジション	名前
FW	小山 栄
FW	今橋 和彦
FB	大野 昭
HB	岡見 圭
FW	加藤 公規
FB	横田 浩
FB	大川 哲
HB	金子 賢
FW	長谷川 研二郎
HB	竹沢 克衛
FW	土屋 至孝
HB	森 隆一郎
FB	安達 均
FB	木村 理貴
FW	森下 祐至
FB	小松 良輔
FW	岩城 祐二
FW	渡辺 秀志
GK	太田 明
HB	村井 元
HB	楠瀬 輝一
FB	越智 和志
FW	漆原 明
	梅原 健一

初の対外試合の出場選手(対若草クラブ)

OL 飯田 (木村)	IL 今橋	CF 土屋 (森下)	IR 竹沢 (鈴木)	OR 加藤
	LH 小山		RH 瀬戸 (高野)	
LB 大川 (小林)		CH 渡辺 (森)		RB 田中 (安達)
		GK 横田 (宮下)		

・カッコ内の選手は後半出場

第3期 1971年度(昭和46年度)卒業生

シーズンレビュー

L (1971年度(昭和46年度))

- ・6月 横浜サッカースポーツ少年団結成に加わる。宮西 FC ほか 12 チーム参加。
- ・7月 第5回全国スポーツ少年団サッカー大会 横浜地区予選に出場(公式戦初出場)。
山王谷と共に横浜代表となり、県大会出場。準決勝で鎌倉おなりと1対1 PK 戦で惜敗(おなり優勝)。
- ・7月 クラブの規約を作る
- ・7月 初めてスポーツ障害保険に加入。
- ・11月 初めてユニフォームを決める。シャツはオレンジ、パンツは白(後に紺)。
- ・11月 第3回横浜国際チビ子サッカー大会に初参加 ジュニア(現在のL): 予選4位
- ・12月 初めて東京遠征(中山先生の紹介) たちばな 0対0 浜田山小
- ・3月 第1回港北区少年サッカー大会 中学生の部 優勝

チーム紹介

“当時を振り返って” 第3期生 鈴木 陽二

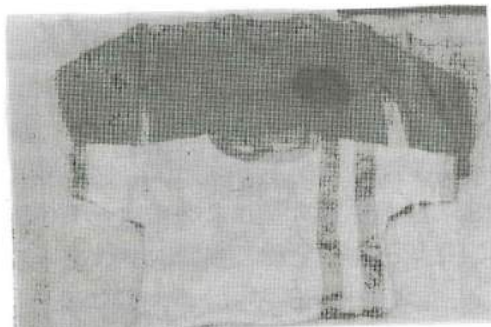
正直、昔の話で、小さい頃の記憶なので不確かな所もあるかと思いますが、ただサッカーが好きで、毎日ボールを追っかけていたのを覚えています。

私たちの年代のメンバーのほとんどは、もともと下田小学校の学校サッカーのメンバーでした。その頃、下田小学校は非常にサッカーが盛んで、朝に夕方に学校で7人制のサッカーをしていました。それが、小学校6年の頃から、土曜日の放課後、日曜日になると、下田小学校のメンバーがそのまま11人制のサッカーをするようになりました。今にして思えば、それがたちばなキッカーズとの出会いだったと思います。自分たちの認識として、学校サッカーと、たちばなのサッカーとの区別はほとんどありませんでした(いつのまにか、たちばなの一員になっていたという感じです)。

ユニフォームもチームの借り物でしたが、学校とたちばなは同じユニフォームで試合をしていました。スパイクなんて履いている者はひとりもなく、ストッキングだけは自前だったように思います。サッカーの練習はもちろん、試合でも父兄が付いてくることはなく、いつも曾田さんと当時下田小学校の池畑先生にお世話になっていたように思います。

私たちの年代はサッカーがうまいというより、サッカーが好きというメンバーが多かったので、メンバーの多くの消息は分らなくなっていますが、今でもあの頃の思い出を持って、いまだにサッカーから離れられないでいるのではないかと思います。

▼なつかしい応援旗



▲胸のマークも新しい
初めてのユニホーム
たちばなカラーのオレンジ

メンバー紹介

ポジション	名前	出身小学校	紹介
FB	鈴木 陽二	下田小	栗山君とコンビでセンターバックを担当。不器用ながらも体を張った堅実なプレーが身上。
FB	栗山 久史	下田小	長身でパンチ力のあるキックで味方のピンチを救う。バックの中心となったセンターバック。
FB	渡辺 彰雄	下田小	堅実なプレーで味方に信頼されていた。右サイドバック。
FB	山下 孝夫	下田小	小柄ながら粘り強いディフェンスで相手 FW に嫌がられました。
GK	松井 耕一	下田小	神奈川県で No.1 に選ばれた。キック力もあり、1対1にも強いスーパー GK でした。
HB	町田 宏	下田小	地味ながらディフェンシブなハーフで、左右からのクロスボールが得意技でした。
HB	舞山 日良	下田小	ドリブルの名手で、スピードのある切り返しで敵を振り切るプレーはピカーでした。
HB	船倉 直樹	下田小	ポジションの取り方は抜群で、曲者の存在で攻撃の起点となった切り込み隊長でした。
FW	佐藤 丈二	下田小	頭脳的なプレーで相手の裏をかくドリブルが得意でした。
FW	橋本 良	下田小	走力、キック力、ヘディング、持久力と全てにバランスのとれたチームの中心的プレーヤーでした。
FW	椿 哲也	下田小	恵まれた体格で力強いプレーとポストプレーも出来るプレーヤーでした。
FW	横山 論	下田小	スピードのあるドリブルで相手ディフェンスを中央突破するプレーが身上。
FW	斎藤 均	下田小	タッチラインを攻め上がったの精度の高いセンタリングはチームの大きな武器でした。
FW	城風 智行	下田小	スピードのあるドリブル、キープ力、キック力とバランスのとれたプレーヤーでした。
FW	東出 信太郎	下田小	バック、ハーフ、フォワードとどこでも出来る便利なプレーヤーでした。
FW	深沢 道裕	下田小	右サイドからの攻めのスペシャリスト。FW ながら、スライディングタックルによるディフェンスも得意でした。
FW	篠原 宏	下田小	
FB	高橋 裕明	下田小	
FW	伴 英明	下田小	
GK	佐藤 明久	下田小	県下 No.1 キーパーの松井君の影で、ファイトあふれるプレーでチームを盛り上げたムードメーカー。
	牛島 雅彦		

第4期 1972年度(昭和47年度)卒業生

シーズンレビュー

LL (1970年度(昭和45年度))

- ・4月 第2回日吉地区少年サッカー大会開催。たちばなは2位。

L (1972年度(昭和47年度))

- ・7月 第6回全国スポ少サッカー大会
横浜市予選1位。横浜代表として山王谷、つばめと共に県大会に出場。県大会は2回戦で優勝の秋葉台に8対1で敗退。
- ・9月 初めて千葉県に遠征(2年生以上)。たちばな4対0常盤平団地。低学年も勝利。
- ・9月 第1回たちばな杯リーグ戦
各学年を通じ、学校の組分けを利用して4チームに分ける。
- ・11月 第4回横浜国際チビッ子サッカー大会 9チーム中7勝1敗で準優勝。
この年だけ厚木のゴールブランダーズが特別参加し、優勝をさう。
- ・3月 第2回港北少年サッカー大会 中学生の部 優勝
- ・3月 横浜少年選抜チームが韓国遠征
笠松、小菅、菅沼(以上6年)、大場、坂本(以上5年)が参加。

チーム紹介 第4期生 笠松 文雄

ーチームの特徴

第4期生は全体的にたちばなに入るのが遅く、多くが5年生位からサッカーを始めました。一つ下の第5期生は3年生位から始めた人が多く、その関係からかパワーとスピードの4期生、テクニックの5期生、と大きく特色が分れていました。レギュラー11人のうち、5人位は5期生で、6年6人、5年5人のチーム構成は、攻守にバランスがとれ、6年と5年の協力の下、即ちパワー・スピード・テクニックが融合した面白いチームでした。自由奔放で、試合で何が起きるか予測の出来ないチームだったと思います。それだけ、おじさん(当時、曾田監督は「おじさん」とみんなに呼ばれていた)が自由にサッカーをやらせてくれ、その指導のおかげで自分達で自由に考え、行動するサッカーが身に付いたのだと思います。今のように子供が一人1個のサッカーボールを持っていた訳ではなく、たちばなにあった2、3個のボール(確か5角形の部分が水色?)を個人的に借りていって練習した、そういう時代でした。

ー横浜国際チビッ子サッカー大会

やはり一番記憶に残るのは、夕暮れせまる三ッ沢陸上競技場でのゴールブランダーズ(GP)戦です。当時非常に強かったアメリカンスクールのセントジョセフカレッジを1対0で破り(この勝利は本当に嬉しかった)、7戦全勝で迎えたGP戦。試合開始時間になってもGPはいっこうに現われません。夕焼けで西の空が真っ赤に染まった三ッ沢陸上競技場。試合開始時間より遅れること20分、このまま不戦勝で優勝!!と思いきや、GPは現れたのでした。今では神奈川の少年サッカーでその名を知られているGPも、当時は厚木にほとんどチームがなく、横浜や他の市の大会があるといっっては特別参加させてもらおうと言うように、ゲームをするのに非常に苦勞をしていた様でした。但し、当時から非常に強いチームでした。

さて試合の方ですが、先制点を取られ、1点を追う非常に厳しい展開で、その後の1点が勝負を左右するといった緊迫した試合でした。その後、先にチャンスが訪れたのはたちばな、ゴール前に高く上がったボールをHBの笠松が地面へたたきつける様なヘディングシュート。右サイドから右

ウィングの久保寺が猛ダッシュでつめ、スライディングシュート。ボールはゴール前1mからクロスバーの上を超え、ノーゴール。決定的チャンスをものに出来ませんでした。その後、ゴール正面25mのフリーキックをGPの荒井(その後相工大付属高校から日本リーグのフジタ工業“現ベルマーレ平塚”に在籍)に決められ2-0で敗け、その結果、GPが7勝1分で優勝、たちばなは7勝1敗で準優勝という結果でした。あと一步のところで優勝を逃し、非常に悔しかった思い出です。

ーたちばなに思う事、曾田さんに思う事、サッカーに思う事

当時(もう26年も経っているのかと思うと、本当に時の流れは速いなあと感じてしまいます)、「日曜日の朝7時から下田小の校庭で練習と言うより曾田さんと子供達がボールを蹴り合って遊びながらサッカーを楽しんでいた」と言うのが当たっているかも知れません。サッカーコートのラインを引いていた訳ではないので、本当に校庭全面がコートで、時にはブランコの柵を飛び越えながらボールを蹴るようなゲームをよくしていました。本当に自由な雰囲気の中で、自由にやらせてくれる曾田さんの指導方針は、自由な発想と自分で考えてやってみるという事を自然に身に付けさせてくれたと思います。たちばなに入るまでは、「絶対プロ野球選手になる!」と誓っていた自分を、サッカーのとりこにさせてくれた曾田さん。本当の意味でのサッカーとの出会いを演出してくれた曾田さんに本当に感謝しています。

中学、高校、大学、社会人とチームは変われど、ずっとサッカーを続けて来る事が出来たのは、このサッカーとのいい出会いがあったからだと思います。今、自分の子供も小学3年生になり、サッカーをしています。その関係で、藤沢の明治SSの4年生以下のチームのコーチをしています。自分がサッカーをやるのとは違いで、子供達に教えるのは非常に難しい。ただ、一人一人の可能性を伸ばせる様な指導を心がけています。そして、子供達が将来もサッカーを続けて行きたいと思える様に、曾田さんが自分にしてくれた様に、子供達に本当のサッカーとのいい出会いをさせてあげられる様に、と思います。

最後に、たちばなキッカーズ創立30周年、本当におめでとうございます。曾田さんはじめ、永田さん、大島さん、佐野さん(故人)ほかコーチングスタッフ、父母のみなさん、愛好会のみなさん、各時代の子供達の努力の成果だと思っています。そんな素晴らしいたちばなキッカーズといつか試合が出来ることを楽しみにしています。

“たちばなキッカーズ”のホームグラウンドである下田小学校校庭と
今は無き円形校舎



ポジション	名前	小学校	紹介
FW	笠松 文雄	下田小	通称「リュウショウ」6年生当時、身長160cm、100m走13秒8の大型、俊足FW。テクニックよりもパワーとスピードで相手FBを切り裂いた。第4期キャプテン。
GK	川辺 圭一	下田小	通称「ベッチャン」とにかくでかくて大きいGK。キック力抜群で、下田小学校庭でバントキックを相手ゴールまで飛ばした。
FB	草生 裕文	下田小	通称「クサハ」色白、茶髪のたちばなきってのハンサムボーイ。プレーの合間によく髪型を気にしていた？
HB	石村 泰三	下田小	通称「タイゾウ」体は小さいが、ボールに飛び込んでくる相手をかわすドリブルは大きな武器。守備も堅い。
	木村 敏夫	下田小	通称「キム」ボールタッチの固さとスピード不足が弱点。しかし、サッカーが好きで中学でも続けた一人。
HF	島村 昌彦	下田小	通称「チョリさん」理論家。技術は別として、よくサッカーの戦術を話していた。
	小林 敬一	下田小	通称「コハ」テクニック、得点力に優れるMF。横浜国際チビッ子サッカー大会での1試合7得点は第4期での最多記録(試合は14対0で大勝)。
	加藤 友基	下田小	通称「トモキ」小柄なテクニシャン。4期の中では一番早くたちばなに入った事もあり、しっかりとしたテクニックの持ち主。
FB	小黒 修一	下田小	通称「チョク」猫背でドリブル、猫背でキック。背中を丸めてのプレススタイルが独特だった。
FW	召田 充弘	下田小	通称「メスちゃん」非常に姿勢が良かった。常に背筋を伸ばして、胸を張りプレーしていたのが印象的。
	藤田 淳	下田小	通称「あっちゃん」常に温和。いつもニコニコ笑っていた「あっちゃん」そのプレーにも優しさがあつた。
FW	久保寺 和彦	下田小	通称「クボ」右ウイング。力強いドリブルで突進し、センタリング、シュートを放つ。寡黙だがやる時はやる強い意志の持ち主。国際チビッ子のGP戦でゴール前1mのスライディングシュートを真上に上げて外してしまったのは、今でも記憶に残る。
FB	福地 貴博	下田小	通称「アメリカ」長い手足に彫りの深い顔。どう見てもアメリカ人。その長い手足を駆使するも、腰高の弱点があり。
HB	菅沼 敏行	下田小	通称「スカマ」細身で色黒。誰もがだまされるキックフェイントの名手。FWもこなし、得点に絡む。第4期一番の「マリーツ(ボールがル語でずるさ)」の持ち主。
FW	小菅 基成	下田小	通称「コチョク」身長160cm以上、太もものまわり50cm?西ドイツの爆撃機「クルムラー」を彷彿させる体型で、その太ももから繰り出されるシュートは破壊力抜群。たちばなのCF。ポイントゲッター。
HB	瓜田 利明	下田小	通称「ウリタ」後に続く瓜田兄弟の長男。細い体でサッカーにまじめに取り組んだ。
	高岡 孝次	下田小	
	舟川 洋一	下田小	
	石田 明文	下田小	通称「メイブン」
	重田 隆史	下田小	
	関根 大輔	下田小	
	山口 浩満	下田小	
	小谷 秀一	下田小	
	渡辺 邦彦	下田小	通称「ケニ」
	森 英二	下田小	
	深沢 敏裕	下田小	

シーズンレビュー

LL (1971年度(昭和46年度))

- ・6月 横浜サッカースポーツ少年団結成に加わる。 宮西FCほか12チーム参加。
- ・7月 クラブの規約を作る
- ・7月 初めてスポーツ障害保険に加入
- ・11月 第3回横浜国際チビッ子サッカー大会(初参加)リトル(現在のLL):準優勝
- ・12月 初めて東京遠征(中山先生の紹介) たちばな(4年) 0対1 浜田山小(5年)
- ・3月 第1回港北区少年サッカー大会 小学生の部 優勝

L (1973年度(昭和48年度))

- ・4月 横浜少年サッカー大会 準優勝
- ・7月 第7回全国スポ少サッカー大会 県予選で強豪秋葉台に1対0で惜敗(秋葉台優勝)
- ・8月 島根県大社町で初めての合宿を行なう 参加者は5・6年生30名
- ・11月 第5回横浜国際チビッ子サッカー大会
- ・1月 第1回港北区新春スポーツ大会 たちばなホワイト(6年) 3位

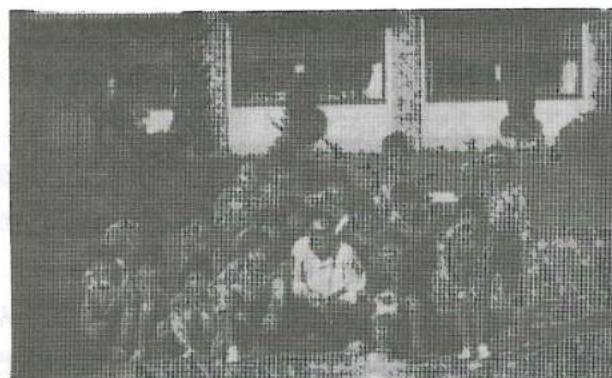
チーム紹介 第5期生 間瀬 浩之

「日曜日にサッカーをやっているから一緒にやろうよ」と後のキャプテン岩崎君の誘いに、当時野球少年だった4年生達が徐々に集まってきた様に記憶しています。ろくにサッカーを知らない少年達が広い校庭でのびのびとボールを追い回すうちに、足の速い者は前線に、冷静な技巧派は中盤に、キック力のある者は守備に、といった具合にポジションが定まっていた様に思います。皆、それぞれの役割を果たすべく、自主的にフェイントやドリブルの練習をしたり、シュート版を相手に暗くなるまでボールを蹴っていました。

当時のたちばなキッカーズは、和気あいあいとした雰囲気があり、曾田監督のことを「おじさん」と呼んでいましたが、横浜国際チビッ子サッカー大会の出場を機に、やっと「監督」と呼ぶ様になりました。その監督から唯一授かった戦術は、「オープンスペースをねえ」と言う事でした。その結果、準優勝という成績を収める事が出来ました。この大会では二つの思い出があります。ひとつは、どのチームか憶えていないのですが、試合の後に円陣を組んでたちばなにエールを送ってくれた事です。この試合から、たちばなも勝敗に関わらず相手チームにエールを送る様になりました。もうひとつは、優勝した原小のGKがハーフタイムにレモンをまるかじりしているのを見て、僕達もやろうと次の試合からハチミツ漬のレモンスライス(まるかじりは酸っぱすぎてダメでした)が用意される様になった事です。初めての大会出場という事もあって、全てが新鮮でした。

その後も善戦は続き、島根の合宿という大イベントもあり、楽しかった事しか思い出せませんが、監督をはじめ、関係者の方々に見守られながら、色々な事を学び、それを自分達の流儀で実行できる積極的な姿勢と創造力を兼ね備えたチームだったと思います。そして、サッカーを通して培われた創造性が基盤となって、今日に至っている事を痛感している今日この頃です。

ポジション	名前	小学校	紹介
HB	岩崎 延宏	下田小	愛称“ワゴン” 野球ではエースピッチャーと球技万能のサポーター。小柄ながらも巧みなフェイントで相手を翻弄させるチームの要。
GK	久保寺 清	下田小→駒林小	愛称“キ” 最後部からチームを押し上げる守護神。
FB	賀川 正規	下田小	愛称“エーちゃん” 流れる様なフォームで前線にボールを送り込むたちばなの壁。
FB	間瀬 浩之	下田小	愛称“マ” たまに見せるウソコもご愛嬌の迷バツ。後に膝の病気の為、応援にまわる。
FB	吉川 薫夫	下田小	愛称“キ” 気性が激しく、いつも怒りながら大きな声で中盤に指示を送る。
FW	坂本 俊也	下田小	愛称“トッパ” 足は速いが、ご愛嬌のプレーを連発する。チームのムートメーカ。
FB	小林 守	下田小	愛称“マモちゃん” 大きな体と素晴らしいキック力でゴール前を守る。
FW	大場 浩正	下田小	愛称“オハ” ボールを持ったらまっしぐら。右サイドから切り込む熱血派プレイヤー。
FW	鈴木 邦彦	下田小	愛称“ケ” 恵まれた体格と横浜の陸上大会に出場する程の足で、敵のゴールへ走り込む。
HB	木村 亮	下田小	愛称“リッパ” 小柄ながらも切れの良い動きでフィールドを走りまわる。
HB	鈴木 充彦	下田小	愛称“ヨシコ” リズミカルなステップでボールを送り出す。
	斎藤 清	下田小	愛称“サトーくん” 寡黙な努力家。
FW	竹内 正昭	下田小→駒林小	愛称“マちゃん” 的確な判断と俊足を兼ね備えた知性派のボイントゲッター。
HB	阿久津 正人	下田小	愛称“アツ” 大きな瞳で相手を圧倒する突進型の熱血派プレイヤー。
	田中 潤	下田小	
FW	石井 正人	下田小	愛称“イッパケ” 体は小さいが運動能力とスピードを兼ね備えたプレイヤー。
HB	鈴木 彰浩	下田小	中学に行って、ゴールキーパーとして開花した。



▲第3回国際チビッコサッカー大会初参加
リトル（低学年）準優勝 浜小学校にて



▲準優勝を祝してささやかなパーティ

第6期 1974年度(昭和49年度)卒業生

シーズンレビュー

LL (1972年度(昭和47年度))

- ・9月 初めて千葉県に遠征(2年生以上)。たちばな4対0常盤平団地。低学年も勝利。
- ・9月 第1回たちばな杯リーグ戦。各学年を通じ、学校の組分けを利用して4チームに分ける。
- ・11月 第4回横浜国際チビッコサッカー大会 LLの部は参加せず
- ・3月 第2回港北少年サッカー大会 小学生の部 優勝

L (1974年度(昭和49年度))

- ・1月 第1回港北区新春スポーツ大会 たちばなレッド(5年) 2位
- ・4月 第1回横浜スポーツ少年団サッカー大会 Lの部はこの年なし
- ・8月 第8回全国スポーツ少年団サッカー県大会 準優勝の六会(藤沢)にPK負け
- ・8月 第1回団地少年サッカー大会 A(高学年) 優勝
この時TBSテレビで放映される。
- ・9月 こどもの国サッカー場こけら落としに参加。模範試合を行なう。
- ・11月 ペレ、少年サッカー指導のため2度目の来日。11月23日東急本店屋上にて、たちばな全員がペレの指導を受ける。ペレにほめられ感激!
- ・11月 第6回横浜国際チビッコサッカー大会 Lの部はペレ騒ぎで調子を崩す
- ・1月 第2回港北区新春スポーツ大会 小学生の部 優勝
- ・3月 横浜選抜チーム韓国遠征(2回目) たちばなからは、中村、吉原、早川、岩村、池沢、川村(以上6年生)及び、川村君のお母さんが参加。

チーム紹介 第6期生 吉原 昌利

曾田監督を当時は「おじさん」と呼んでいた私達は、それこそ朝から晩まで授業以外はすべてが「おじさん」や仲間とのサッカー中心の生活でした。誰もいないグラウンドで、一人ボールを蹴っていても自然と仲間達が集ってくる、そんなサッカー少年の集まりでした。日曜日は当然、平日も放課後暗くなるまで皆でボールを追いかけてました。試合はもちろんの事、当時放映していた「ダイヤモンドサッカー」で観た有名選手のフェイントを見よう見まねで練習したり、ボールリフティングや、シュート板に向かって目標の的に何回当てられるかを競ったりと、少しづつでも上達していく自分達を実感し、本当に充実した毎日でした。そんな私達を「おじさん」はいつも暖かく見守り、指導してくれました。他のチームでは試合中でも監督が怖い顔をして怒っているのを尻目に、私達「たちばな」は自由奔放にサッカーを楽しみ、そして勝利する事の喜びを感じていた様に思います。島根遠征、いくつかの大会での勝利、ペレのサッカー教室、6人が横浜代表として日の丸を付けて参加した韓国遠征、と素晴らしい思い出ばかりですが、一つだけ苦い記憶と言え、横浜チビッコサッカー大会での敗退でしょうか。優勝候補と言われながら、ペレと会った興奮が冷めず、横浜朝鮮にあえなく完敗してしまいました。あの時ばかりは「おじさん」が「君たちはきれいな芝生の上で格好よくサッカーをしようと考えている!」と怒られたのを鮮明に覚えています。

さて、当時のサッカー少年も今は30代半ばの「おじさん」になりました。会う回数は減りましたが、今でもみんなとは連絡を取り合って、近況を知らせ合っています。私達の中に少年時代のサッカーを通じた共通の思い出がある限り、この親友関係は途切れる事はありません。そして、そんな素晴らしい仲間を作ってくれた曾田監督ご夫妻と「たちばなキッカーズ」に本当に感謝しています。

ポジション	名前	小学校	紹介
FW	中村 浩人	下田小	同期の中では抜群の運動神経を持ち、全員が彼に憧れてサッカーを始めた。キャプテン兼キッカーフォワード。愛称“ヤジ”。
FW	池沢 正彰	下田小	“イグ”は練習熱心でセンス抜群。右ウイングでいつも格好良く相手を抜き去り、シュートやセンタリングを放つ。
FW	吉原 昌利	下田小	左ウイングでフェイントで相手を惑わす。ボールキープを小6の時に千回出来たのが今でも自慢。
HB	三井 英一	下田小	ヤジと一緒に早くからサッカーを始めた。“ミイ”は都会的センスでいつもスマートなプレー。
HB	早川 司	下田小	不動のゲームメーカー。背が高く、足も速い。“ヤッチョ”はヤジと並ぶチームの柱。
FB	岩村 佳広	下田小	重量感あふれる“ワムラー”は気が優しく力持ち。後に日吉台中サッカー部のキャプテンとなる。
HB	川村 利一	下田小	チーム一番の俊足。スピードを生かして相手陣内へ攻め込んで行く“カリ”は切り込み隊長。
HB	砂子 雅史	下田小	兄弟でたちばなに入団した“ナオ”は時に鋭いシュートを放つ。守備も上手いオールラウンドプレイヤー。
FB	野道 尚行	下田小	線は細いが技巧派で、堅実なバック。相手のボールをカットし、確実に前線へ流し込む。愛称“ノミ”。
FB	藤盛 一弘	下田小	愛称“テラー”はサッカーに関してチームの理論派、物知り。
FB	田代 裕之	下田小	チームの体格を誇る“クワ”のセンターバックには迫力が感じられる。
GK	村井 淳季	下田小	“ムツョ”はキーパーとしての素質もさる事ながら、ミッドフィールダーとしても優れたプレーを見せる。
HB	高橋 浩明	下田小	あだ名の“サル”の通り、足が速くて小回りがきき、時に何人もの相手選手をドリブルで抜き去る。
FB	龍野 智久	下田小	
FB	鈴木 善裕	下田小	
HB	高塚 直樹	下田小	
HB	加藤 弘	下田小	“マルサ”はいつも堅実なプレーで要所を締める守備的ハーフ。
	嶋田 正人	下田小	
	北村 健	下田小	
FW	村井 進	下田小	



ペレを囲んで
(渋谷・東急デパート)

シーズンレビュー

LL (1973年度(昭和48年度))

- ・ 11月 第5回横浜国際チビッ子サッカー大会 3位

L (1975年度(昭和50年度))

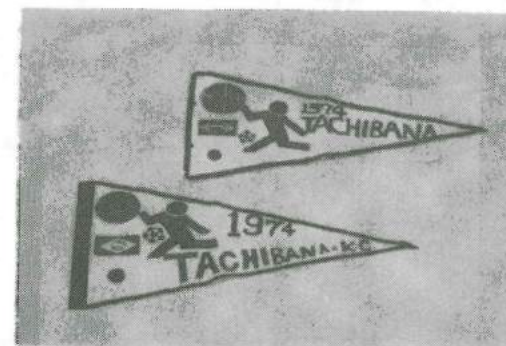
- ・ 4月 第2回横浜スポーツ少年団サッカー大会 4位
- ・ 7月 第9回全国スポーツ少年団サッカー県大会 強豪善行に4対0で敗れる
- ・ 8月 富士緑の休暇村で合宿 (この年から富士緑の休暇村での合宿が始まる)
- ・ 8月 第2回団地少年サッカー大会 A(高学年) 3位
- ・ 9月 たちばな杯を、こどもの国サッカー場を借り切って盛大に行なう。
- ・ 10月 第7回横浜国際チビッ子サッカー大会
- ・ 1月 第3回港北区新春スポーツ大会

チーム紹介 第7期生 笠松 吉雄

自分達7期生は、これといった成績も残していない様に思います。

しかし、あたりまえの事ですが、みんなサッカーが大好きで、小学校(たちばなキッカーズ)を卒業後、日吉台西中の第一期生として、ゼロからサッカー部を創部したり、たちばなOBとして中学時代の大会に参加したりと、小、中学校時代を文字通り「サッカーづけ」と言う状態で過ごしていました。その後、高校へと進んだ後は、どういう風にみんながサッカーとかかわって来たかは個人個人で違うと思うので、何とも言えません。しかし、その時、自分が“たちばなキッカーズ”に籍を置いて経験した事を後悔した人は一人もいないはずです。私自身も小学4年生でたちばなキッカーズに入団しサッカーを始めて以来、高等専門学校を卒業する10年間は、常にサッカー部に在籍し、サッカーのことを何よりも優先して過ごしてきました。その事が、自分の思い出として、数多くの場面を心地よく蘇らせてくれます。たちばなキッカーズで過ごした時間、様々な学んだ事こそが、後の私の大きな財産になったと思います。

これからも多くのSOCCER BOY達を世に送り出して行ってほしいと思います。



▲ペレに手づくりのペナントを贈る

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
HB	5	鈴木 一浩	下田小	愛称「ジキ」チームのストとバレーの持ち主。曾田さんに「こりゃスズ!!」とよく怒られた。
FW・GK	9	大森 亨	下田小	双子の兄「ワタル」FWもGKもこなし非常に器用。
FW	7	瓜田 和彦	下田小	愛称「ウリ」ストは遅いけどキープ力は抜群。
FW	11	岩城 一夫	下田小	愛称「カズオ」派手さはないが堅実さが売り。
FB	2	笠松 吉雄	下田小	愛称「ヨシケン」器用なサイドバック。
HB	6	大森 亘	下田小	双子の弟「ワタル」いかにも弟らしく、兄弟喧嘩の仕掛け役。
GK	23	田辺 誉	下田小	愛称「オマレ」安定している様な、していない様な。でも上手い。
FW	8	石本 広之		
HB	21	坂村 武		
HB		山中さだのり	下田小	
	22	斎藤 理	下田小	愛称「ニヤコ」
		久保寺 一仁	下田小	愛称「カジツ」
		太田 秀一	下田小	
	24	村井 進	下田小	愛称「ライム」
	25	佐藤 稔	下田小	愛称「みのる」
	40	川口 秀之	下田小	
	31	荏原 利明	下田小	愛称「えばくん」
	41	山口 勇司	下田小	愛称「ゆうじ」合宿での肘の脱臼は印象的。

ペレを囲んで たちばなキッカーズ全員



第8期 1976年度(昭和51年度)卒業生

シーズンレビュー

LL (1974年度(昭和49年度))

- ・4月 第1回横浜スポーツ少年団サッカー大会 準優勝
- ・8月 第1回団地少年サッカー大会 B(低学年)優勝
この時TBSテレビで放映される。
- ・11月 ペレ、少年サッカー指導のため2度目の来日。11月23日東急本店屋上にて、たちばな全員がペレの指導を受ける。ペレにほめられ感激!
- ・11月 第6回横浜国際チビッ子サッカー大会 優勝

L (1976年度(昭和51年度))

- ・2月 第1回横浜少年サッカー大会(新人戦) 3位入賞
この年から5年生以下の新人戦として、又、学校チームも含めて開催される。
- ・5月 第3回横浜スポーツ少年団サッカー大会 準優勝
- ・7月 第10回全国スポーツ少年団サッカー大会
- ・8月 富士緑の休暇村で合宿
- ・8月 第3回団地少年サッカー大会 A(高学年) 準優勝
- ・9月 たちばな杯を新日鉄グラウンドで行なう
- ・10月 第8回横浜国際チビッ子サッカー大会 3位
- ・1月 第4回港北区新春スポーツ大会 たちばなホワイト(6年) 2位
- ・1月 第3回神奈川県少年サッカー選手権大会 羽鳥に敗れる
- ・2月 バザーを行なう。純益金約16万円 テント購入

チーム紹介 第8期生 木下 圭(創立20周年記念誌より)

今でもあの頃の楽しかった事は、最近の事の様によく覚えています。同期の仲間とも、よく会って思い出話をしたりしています。私がたちばなキッカーズにいた頃は、現在の様な少年サッカーも、盛んではなく、県内のチーム数もとても少なかった様に思います。その中で、たちばなキッカーズは、とても強く、私達のチームも何度が優勝をしました。特に、強く印象に残っているのは、私よりも二つ年上の池沢(兄)さん、吉原さん達のチームでした。そのかっこうの良さ、強さ、サッカーの技術にいつも憧れていたものでした。

現在はどうかのわかりませんが、私達の頃は、練習用のユニフォームの他に、レギュラーにしか渡されない15枚のユニフォームがあり、それを貰う事はとても名誉な事で、皆で競い合っていました。また、たちばなは日曜日しか練習がなかったのも、学校の休み時間は勿論の事、放課後に皆と集ってミニゲームなど楽しんだり、朝の登校時間にも、私の家の前で皆が集まるまでリフティングをしたりして、ほとんど毎日ボールに触れていました。その頃の誕生日プレゼントなども、スパイクやボールなどで、全てがサッカーに結びついたものでした。

私はたちばなを卒業した後も、中学校、高校、大学とサッカーを続け、さらに、ある鶴見の少年サッカーチームを一年間程教えていました。その時驚いたのは、子供達がサッカーを楽しんでいる様には見え、まるで習い事か、塾に来ている様に見える、しかたなくやっているのではないかと感じる程でした。また、何に対しても無気力なところが目立ち、時々子供達が、どこか冷めた大人の様に見えた時もありました。とても恐い事です。私達の頃とは違い、今の時代は、情報が氾濫しているために、自分自身の発見が少なくなって、ただ与えられるものだけに適応していくだけになっているのではないのでしょうか。

子供は、何にでも興味を持ち、もっと元気で無邪気な姿が本当ではないのでしょうか。たちばなではこれからも、サッカーの技術的な事はもとより、仲間や友達とサッカーを楽しむ事を通して、もっと大切な事を子供達に教えていってもらいたいと思います。

ポジション	背番号	名前
FW	9	黒岩 典正
GK	1	杉山 信次郎
FB・GK	2	佐野 祐一
FB	3	友藤 信英
FW	4	滝山 佳男
FB	5	砂子 泰彦
HB	6	木下 圭
FB	7	田辺 博之
FW	8	安沢 芳生
FW	11	篠原 力
FW	12	堀尾 哲司
HB	10	舞山 春輝
FW	17	落合 佳入
	18	高橋 篤男
FW	28	関根 圭介
FB	30	藤 英明
		池上 努
		豊原 義行
		芹田 弘
		中丸 清
		鈴木 一也
		下村 学昭
		川森 隆弘

第1回横浜少年サッカー大会

ブロック大会

昭和51年2月22日・29日

於 戸塚高校

準決勝・決勝

昭和51年5月上旬

於 三ツ沢球技場

東希望丘サッカークラブ	0	0	東希望丘サッカークラブ
勝田サッカークラブ	2	3	勝田サッカークラブ
F.C: オフサイド	1	0	F.C: オフサイド
港南台サッカークラブ	0	0	港南台サッカークラブ
東 サッカークラブ	13	4	東 サッカークラブ
ひかりが丘サッカークラブ	0	0	ひかりが丘サッカークラブ
たちばなキッカーズ	5	0	たちばなキッカーズ
YMCA サッカークラブ	0	7	YMCA サッカークラブ
洋光台サッカークラブ	0	8	洋光台サッカークラブ
浦島サッカークラブ	0	0	浦島サッカークラブ
ヨコハマキッカーズ	0	0	ヨコハマキッカーズ
南神大寺サッカークラブ	1	1	南神大寺サッカークラブ

決勝戦

山王谷 0-0 東

PK戦 3-1

三位決定戦

たちばな 1-0 本郷



第9期 1977年度(昭和52年度)卒業生

シーズンレビュー

LL (1975年度(昭和50年度))

- ・4月 第2回横浜スポーツ少年団サッカー大会 準優勝
- ・8月 富士緑の休暇村で合宿 (この年から富士緑の休暇村での合宿が始まる)
- ・8月 第2回団地少年サッカー大会 B(低学年) 3位
- ・9月 たちばな杯を、こどもの国サッカー場を借り切って盛大に行なう。
- ・10月 第7回横浜国際チビッ子サッカー大会 3位

L (1977年度(昭和52年度))

- ・1月 第4回港北区新春スポーツ大会 たちばなレッド(5年) 3位
- ・2月 第2回横浜少年サッカー大会(新人戦) 準優勝
- ・4月 第4回横浜スポーツ少年団サッカー大会 優勝
- ・7月 第1回全日本少年サッカー神奈川県大会 4位
- ・8月 富士緑の休暇村での合宿に際し、セルジオ越後氏の指導を受ける。この時の合宿は浜見平と一緒にいる。
- ・8月 第4回団地少年サッカー大会 A(高学年) 優勝
この年から中央大会はよみうりグラウンドで開催
- ・9月 国立競技場で、全日本対コスモス(ベレ出場)の試合を観戦 (小・中学生 45名)
- ・10月 第9回横浜国際チビッ子サッカー大会 優勝
- ・12月 読売少年サッカー冬季大会に初出場 2回戦でアストラジュニア(準優勝)に敗退
- ・1月 第5回港北区新春スポーツ大会 3位(LAは県大会と重なり出場せず)
- ・1月 第4回神奈川県少年サッカー選手権大会 4位
- ・3月 第1回大京杯少年サッカー大会

チーム紹介 第9期生 三木 健司

第9期(1977年度卒業)のたちばなキッカーズチームメイトに聞いた「たちばな」の印象ベスト5。

1. 強い
2. 監督が良い
3. ユニフォームが良い
4. 市では一番になれたが、県では優勝出来なかった
5. 月謝が安い サッカーが生活の一部になった。

1. 強い

フォーメーションは今ではほとんど考えられない3-3-4という徹底的な攻めのチームであった我々は、ダブルヘッダーを含め、年間50数試合を行なったが、ほとんど負けた事がないという印象をみんな持っている。しかし、強かった理由とは聞くと、意見がそれぞれ違う。左ウイングのヒロキは、今ではすっかり染まった大阪弁で「みんなまとまってたから強かったんちゃうか」と言うし、まだ九州弁には染まっていない右サイドバックのマキは「ようわからんけど強かったんは事実だ」と言う。横浜の他のチームの人間に言わせると「他のチームは監督に教えられたサッカーをするが、たちばなは教えられたサッカーをしない」と言う。これはどういう事かと言うと、他のチームは忠実に監督に言われた通りにプレイしようとするが、我々たちばなはセオリー通りのプレイをしないので、何が飛び出して来るかわからない独創的なチームだったと言う事だ。他のチームには、たちばなはこの様な印象を持たれていた。

最後に、ただ今名古屋を勉強中のキャプテン ジュンに総括してもらおうと「徹底的に攻めのチームだった我々の時代のたちばなは、ディフェンスのマキ(右)、オーチン(左)、キーパーのホリエにはかなり負担だったと思うが、少ないディフェンスでも守りは堅かった。この堅いディフェンスに支えられ、実はチームの得点の半数近くをたたき出していたムラカミシゲハルとみんなをまとめる

キャプテンのジュンと言うオフensiveな中盤陣。フォワード陣は、逃げ足も速いが、とにかく速い右ウイングのマサマ、ドリブルさせたらチームのテクニシャン左ウイング ヒロキ、真ん中に遊びのアイデア抜群で遊びの中心、サッカーでもみんなの中心的存在のハヤシヨウスケ、スピードのあるミキ、と言う4人で攻めて、攻めて、攻めまくったチームである。とにかくチームにはあせりとか、悲壮感とかは全く無く、みんなボールを取ったら我先にゴールへ向って行った。それがうまく回転して勝てたのではないかと、言う事だった。

とにかく我々は“強かった”と書いておいてくれとみんな言っていた。

2. 監督が良い

楽しく、自由奔放なサッカーを我々が出来たのは、全て曾田さんのおかげだとみんな感謝しています。ハーフタイムの我々は馬耳東風で、曾田さんはイライラしていただろうと今では思いますが、サッカーが楽しいものだとか教えてくれたのは曾田さんです。我々の多くは小学校を卒業した後もサッカーを続けましたが、サッカーを通じて多くの仲間と知り合いになりました。これも曾田さんのおかげです。とにかく、楽しい小学校(たちばな)時代を送れた事に感謝します。又、毎週土曜日の午後に我々につき合ってサッカーを教えてくれた下田小学校の中山先生にも感謝しています。

3. ユニフォームが良い

TKCのロゴの入ったオレンジのユニフォームは小学生ながらもみんな誇りに思っていました。

4. 市では一番になれたが、県では優勝出来なかった

その頃の横浜市の三強は、たちばな、山王谷、東であり、新春の大会を除いて優勝する事が出来た。しかし、県大会の方では、準決勝でゴールブランダーズに0対1で敗れた。そして、三位決定戦でも、百合ヶ丘に惜敗し、関東大会に出場出来なかった。我々に勝った百合ヶ丘が関東大会で優勝した。我々の悔しい思い出である。

5. 月謝(200円)が安い

月謝とは比較にならない程の経験をさせていただいた監督、スタッフのみなさん、そしてたちばなの仲間に感謝してこの原稿を終りたいと思います。



見事なシュート決る！
カップに喜びもひとしお

神奈川県、千葉など4つの地方
リーグ大会を勝ち進んだイレブン
が、23日と25日の両日、横浜市の
「大会」の優勝をかけて競った。

第4回団地少年サッカー

ABとも日吉が優勝

神奈川、千葉など4つの地方
リーグ大会を勝ち進んだイレブン
が、23日と25日の両日、横浜市の
「大会」の優勝をかけて競った。

決勝大会に勝ち進んだのは、A
クラスの日吉、滝山、浜見平、俣
野、西上原の八潮伊豆、袖ヶ浦、
千葉GPの8チーム、Bクラスは
日吉、滝山、公田町、浜見平、八
潮伊豆、西上原の八潮伊豆、袖ヶ浦、
千葉GPの8チーム、Bクラスは

袖ヶ浦の8チームで、23日の準々
決勝でAチームは日吉、浜見平、
俣野、袖ヶ浦、Bチームは日吉、
浜見平、八潮伊豆、滝山が勝ち進
みましたが、浜見平チームが学校
行事で23日の準決勝を棄権。この
ため日吉は勝ち進んだ3チームが
リーグ戦で優勝を競いました。

決勝リーグの成績と順位は次の
とおりです。
【Aクラス】日吉4-3俣野、
俣野2-0袖ヶ浦、日吉2-1袖
ヶ浦、優勝・日吉、2位・俣野、
3位・袖ヶ浦。
【Bクラス】日吉3-0八潮伊
豆、日吉0-0八潮伊豆、日吉4
-1八潮伊豆、優勝・日吉、2位・八
潮伊豆、3位・八潮伊豆。

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
HB	7	池沢 潤	下田小	愛称「ジュン」チームのキャプテン。毎試合完全燃焼でチームを引っ張る。
FW	10	林 陽介	下田小	遊びの方のキャプテンの「ヨウスケ」サッカーの方も攻めの基点としてチームを引っ張る。林のお父さんの車で試合に行くとケーキが食べられた。
FW	11	早川 裕樹	下田小	左足で蹴らしたらチームの左ウイング「ヒロキ」テクニク抜群、得意のドリブルで必ず一人は抜く。こどもの国の試合でウサギのうんこを踏んでしまった事を後悔している。
FB	3	大島 宏樹	下田小	「オチン」少ない我々のディフェンス陣の一人。おとなしいが堅い守りで左サイドを固める。
HB	2	木下 牧	下田小	ちょっと長めの髪をなびかせ、右サイドを守る「マサ」。曾田さんの信頼は厚い。緑のちょっと運転しにくそうなフォッパ・ハットルの自転車に乗る男。
HB	6	鳥海 秀之	下田小	そばかすがチャームポイント？のハーフ「トリヲミ」頭のきれるハーフ。キターもうまい。
GK	1	堀江 浩	下田小	我々のチームの最後の砦「ホリエ」見ていて安心のゴールキーパー。
FW	8	三木 健司	下田小	背は小さいが足は速い「ミキ」よく右サイドになっていた。
FB	5	村上 滋春	下田小	ヒマがあると一人シュート板に向かって練習する努力家「ムラカミ シゲハル」試合中は冷静そうで実は熱い。
FW	12	軽部 浩一	下田小	「カハ」実は野球の遠投がうまい。
FW	4	増山 祐一	下田小	快速右ウイング「マサマ」とにかくボールを取ったらスピードを生かしてゴールまでまっしぐら。しかし、5年の時1回だけ自陣のゴールへナイスシュート。
FB	22	井手 裕二	下田小	Bチームのキャプテン「ユデ」今でも下田に住む数少ない仲間の内の一人。左ききの左ハーフ、左からのセンターリングで相手をくずす。
FW	27	石川 淳之	下田小	冷静だが内に秘めた闘志は熱い。Bチームのゴールキーパー「イサリ」バスケもうまいスポーツマン。
FW	25	玉手 弘章	下田小	「タデ」おとなしいが話すとめっちゃめっちゃ物知りでおもしろい男。
HB	28	佐藤 隆造	下田小	ちょっと太めの右ハーフ「サトリ リョウジ」家に行くとキノコメンが飲めた。右サイドからのセンターリングで相手を崩す。
HB	26	網代 茂三 (旧姓 内田)	下田小	一時キーパーをやっていた「シメ」背は小さいが小回りの効くプレイをする。
		小林 透	下田小	「コンビ」と呼ばれていた体のでかい男。
		林 史郎	下田小	カマリとか昆虫を手で取らせたらめっちゃくちゃうまい「ハヤシヨウ」。
		岡本 哲知	下田小	大学生の兄貴がいて、我々の知りたい情報を教えてくれる「オカモト」。
		渋谷 淳一	下田小	一番最初の背番号は100番台の「シゲヤ」。
		白石 智	下田小	ちょっぴり太めの「シライ」テクニシャンだったが途中でやめてしまった。

“たちばな KC の誕生と揺らん期”

たちばなキッカーズ監督 曾田 弘治

1998 年、某月某日

曾田「30 年前の、メキシコオリンピックの記録を調べると、日本が 3 位を決めたのは 10 月 24 日、決勝が 26 日（釜本氏得点王となる）、28 日夜羽田に帰着している。それからわずか 1 ヶ月後の 11 月 23 日に下田小校庭でたちばなの初練習だ。とても早い」

森田「あの直後だったから、クラスで私がちょっと声をかけただけで 20 人近くも集まったと思う」

曾田「その前に、当時まだ貴重品だった少年用ボールを、区役所に申請してやっと 4 号ボール（ゴム製）を貰えたからチームが出来たんだ」

森田「たちばなの子がいつでも使えるよう家の軒先にぶら下げていた、あのボールね」

曾田「そもそも区役所主催の、体育指導委員向けのサッカー講習会があって、現横浜協会会長の片岡さんや西海さん（故人）の指導を受け、その際『少年サッカーのチームを育てればボールを支給したい』という申し出があった。『銅メダル』以前から、役所でも学校でも、『少年にサッカーを』という気運が高まっていたに違いない。少なくとも横浜では」

森田「でも小学校の体育の授業でサッカーをやったのは銅メダルの後だったと思う」

曾田「たちばな誕生の前も、土曜日の午後下田小の校庭にボール（これは 5 号）をもって行くと、いつの間にか子どもが集まって、一緒に暗くなるまでボールを蹴ったよ。小山君は、学校（7 人制）では日吉台小や日吉南小とよくやったと 15 周年記念誌に書いている」

森田「小山君は 1 年下だからもう状況が違ってきたのよ」

曾田「昭和 44 年 11 月、下田小を借りて初めて日吉地区少年サッカー大会を 4 チームでやった。日吉南は学校チーム、若草クラブは子供会チーム、一番強かった『朝日』は大人の指導者がいなかったが…」

森田「朝日は桜井君達、下田小の代表選手がそろっていたと思う」

曾田「みんな自信をもっていたように思う。中学生が指導してたのかな？」

森田「それは桜井君に聞かなければ…連絡先が判ればいいけど…」

（森田の心当たりを通じて連絡先をキャッチし電話する）

曾田「もしもし桜井君、私を覚えている？あころの『朝日』のことを聞きたいんだ」

桜井「あれは野球チームだったんです。4 年のとき宮下達とつくって、慶応のグラウンドに勝手に入って、そのうち同じメンバーでサッカーをやるようになって、5 年のときは子母口小とも試合しました。中学生だった小幡の兄さんは、指導者ではなく一緒にボールを蹴ってたんです」

曾田独り言「子どもの遊びにまだ『自由』があった…」

桜井「たちばなの試合はよく覚えてます。あの時、僕の蹴ったパントキックが直接たちばなのゴールに入ったんです…」

曾田「学校の対外試合はあったの？」

桜井「僕達のとき、下田小で初めて選抜チームが出来て確か綱島小でやりました」

受話器の向うからくる声は、30 年前の小学生、今もサッカーマンの彼は懐かしそうに話してくれた。

注：森田 旧姓曾田葉子。たちばな 1 期生マネージャー。

小山君 小山栄。たちばな 2 期生。日吉台中、駒沢大学を経て日本リーグ時代の日立製作所（現在の J リーグ、柏レイソル）で活躍した。

桜井君 桜井守夫。下田小時代森田のクラスメート、当時の「朝日」の中心選手、後に日吉台中の GK として 2 年連続県大会優勝、たちばな 1 期の練習にも参加。

日本サッカーにエポックが来て、次代を担う子どもたちにも活気があった。しかしたちばなの子等が突破すべき「朝日」は、桜井君等の中学進学と共に残念ながら消滅した。たちばなは延々 30 年続いている。初期の基礎固めの時期、学校側（柏木加太郎校長）の協力が大きかった。中山体育主任、池畑先生ほか諸先生それに用務員の昆さん（故人）にも大変お世話になった。学校管理の立場からすれば、部外者は出来るだけシャットアウトした方が面倒がない筈なのにとっても協力的だった。まだ「社会体育」という言葉も一般化してなかったと思う。

昭和 45 年までは、まだ公的な試合がないので、毎日曜日朝 7 時に集まって 9 時までボールを蹴り合っていて楽しむ程度だったが、私がちょっと遅くなると「おじさん、サッカーやろうよ」と玄関ドアを叩いた。お陰で私自身もリフレッシュできた。その代わり、当時人気の日本リーグ（小学生は無料）を見に連れて行ったりした。さくら幼稚園の栗原先生にバスを出して貰って、全員で国立競技場へ行ったこともある。

公式戦への参加は、昭和 46 年 7 月のスポ少大会横浜地区予選からで、初体験の緊張も無く、遂に県大会の準決勝まで勝ち進んだ。このときは、学校サッカー（池畑先生担当）で鍛えられた子達が主力で、ユニフォームまで下田小から借りて戦った。なお、この年には生粋の「たちばなっ子」も育っていて、秋の国際チビッツリトルの部（現在の LL）で準優勝。このとき会場の浜小（山王谷の根拠地）に、初めて父母が応援に来て歓声が上った。

たちばなの「規約」が出来た（これも池畑先生作成）のも昭和 46 年で、その後、年末にかけて、笠松君（現明治 SSS コーチ）等 5 年生が多数入ってきて人数も増え、クラブとしての体裁が整って、メンバーづくりが容易になった。翌年の秋には、国際チビッツ大会で優勝を狙える程チーム力が付いていた。しかし、この時代の懐かしい思い出としては、通学地域（北下田、中下田、公団など）で分けて、又は各学年の組分けを縦割りして戦った“たちばな杯争奪戦”（慶応堂スポーツ店がトロフィ寄贈）。現在の合宿で行う班対抗戦よりもっとエキサイティングだった。この日が来ると、6 年生の顔つきがとてもきびしくなった。

揺らん期における画期的な「経験」として、昭和 47 年 9 月の千葉県常磐平団地遠征も加えたい。このときは、まだ父母の参加は無い。2 年生を含む 40 名の子どもを、往復 5 時間の電車内も、会場で待つ間も、キャプテンの笠松君と数名の中心選手が「仕切った（誇張して言えば）。」

この自立した「一種のたくましさ」がサッカーのプレーにも出ていた。主力選手の頼もしいキャプテンシー、子どもらしいたくましさ。そして子どもらしい発想が貯えられ、引き継がれて、後の黄金期（昭和 52 年～55 年あたり）へと進んで行ったと考えることも出来る。

以上駆け足で、たちばな KC 誕生の前後と揺らん期を振り返った。

いわゆる「少子化時代」が長く続き、諸事万端恵まれている現代とは、対照的な時代ではあった。

“たちばなキッカーズ”の皆さんへ

たちばなキッカーズ故佐野コーチ奥様
佐野 純子

“たちばなキッカーズ”の皆さん、創立三十周年を迎え、心から御礼を申し上げます。

今でこそ日本中の人々がサッカーの醍醐味を知って、ワールドカップに湧き上がる時代が来ましたが、昭和四十年代始めの頃は、漸く少年サッカーの芽が吹き出した時期でした。

曾田監督の「子供達にサッカーの楽しさを伝えたい」との信念に佐野も感動して、息子が卒業した後、コーチ陣の一人としてお手伝いをさせて頂きました。試合には毎回、監督の奥様が同伴して下さって、子供達の世話をさせて頂きました。監督が地面に次の作戦を説明されると、メンバー達はグラウンドに飛び出して行き、伸び伸びとプレーをしていました。母親達の熱心な声援にますます元気になって、トーナメントを勝ち抜いて、横浜市内では強豪チームの一つと成っていました。その頃、サッカーの神様と言われたブラジルの“ペレ”が来日した際には、直接の指導を受ける幸運に恵まれたり、“たちばなキッカーズ”は輝いていました。その少年達も三十歳代後半に入り、既に社会で活躍中です。

後輩であるその時低学年だった子の中から、日本ジュニアユース代表選手や、Jリーガーが出ました。国体の選手になった子もいるとのこと。創立以来、監督、コーチ、父母、OBの和やかな交流に支えられ、次々とたくましい若者が育って行く様子を想像し、我が事のように嬉しく思いました。

素晴らしい歴史を刻み続ける“たちばなキッカーズ”が益々発展されることを心から祈念いたします。

病気療養中の佐野が、細くなった足をさすって、「下田町に行ってボールを蹴りたい」と願いながら遠く逝って七年になります。夫に代わり、創立三十周年記念誌に寄稿させて頂いたことを厚く感謝申し上げます。

ありし日の佐野コーチ（左）と曾田監督



発展期 (10期～19期)

創部から約 10 年を経て、横浜地区での強豪チームに成長し、他チームから目標とされ、「発展期」を迎えました。当時の戦績、チームカラーを振り返ってみました。

当時、団員数は急増し、団員メンバーも下田小以外に広がり、活動地域範囲も拡大していきましたが、既にサッカーと受験との板挟みに悩む少年も目立ち始めた頃でした。

少年サッカーは確実に裾野を広げ、少年サッカー人口は増加の一途をたどりました。一方、トヨタカップに代表される様に、日本国内でも国際トップレベルのゲームをじかに見られる様になった為か、日本サッカーリーグが長期低迷期に入り始めた頃でもありました。

第10期 1978年度(昭和53年度)卒業生

シーズンレビュー

LL (1976年度(昭和51年度))

- ・5月 第3回横浜スポーツ少年団サッカー大会 優勝
- ・8月 富士緑の休暇村で合宿
- ・8月 第3回団地少年サッカー大会 B(低学年) 優勝
- ・9月 たちばな杯を新日鉄グラウンドで行なう
- ・10月 第8回横浜国際チビッ子サッカー大会 準優勝
- ・1月 第3回神奈川県少年サッカー選手権大会 優勝
- ・2月 バザーを行なう。純益金約16万円 テント購入

L (1978年度(昭和53年度))

- ・1月 第5回港北区新春スポーツ大会
- ・2月 第3回横浜少年サッカー大会(新人戦) 優勝
- ・4月 第5回横浜スポーツ少年団サッカー大会 優勝
- ・7月 第2回全日本少年サッカー神奈川県大会 準優勝(優勝は逸したが藤沢の壁を初めて破る)
- ・8月 富士緑の休暇村で合宿
- ・8月 第2回関東少年サッカー大会 優勝(於 藤岡市)
- ・8月 第5回団地少年サッカー大会 A(高学年) 予選で敗退(LAは関東大会のため出場せず)
- ・10月 第10回横浜国際チビッ子サッカー大会 優勝
- ・12月 12月17日 創立10周年記念行事を行う
- ・12月 FC清水招待試合 24チーム中8位
上位7チームは全て全国各地の選抜チームであり、単独チームとしてはNo.1
- ・1月 第1回全国少年ミニサッカー大会 優勝
神奈川県代表として、横浜港北選抜、横浜東、駒林・つばめ連合、たちばなが参加
- ・1月 第5回神奈川県少年サッカー選手権大会

チーム紹介 第10期生 安沢 祐之

52戦42勝7敗3分(勝率8割)総得点253、総失点47。圧倒的な得点力と安定した守備力。私が小学6年の1年間記したノートを読み解くと、予想通りの結果が出てきました。当時を思い返すと確かに強いチームでした。しかし、勝利至上主義ではなく、あくまでも「サッカーを楽しむ」、結果として勝っていた正に「たちばなキッカーズのサッカー」を具現していたチームだったと思います。

絶対有利を予想された県大会のいずみキッカーズとの一戦に0対1と敗れ、読売グラウンドへの夢は惜しくも断たれましたが、その後の関東大会の思い出は、私のサッカー経験の中でも最も輝かしいヒトコマとして今でも心の中に残っております。宿舎の従業員さんたちの予想に反し、決勝戦まで残りました。毎試合前の円陣で、「明日も泊まろうね」と皆で確認し、試合に臨んだ事が懐かしく思い出されます。当時の記憶として自分の頭の中に残っている映像は僅かなものですが、その時の「溢れる様な充実感」は、体の記憶として残っています。のびのびサッカーは、関東大会を制覇しました。当時を冷静に分析すると、県大会の緊張感から開放され、肩の力が抜け、「関東大会」という目標に向かってチームの集中力が結集し、本来のたちばなサッカーに戻ったのでしょう。

サッカーを通じて学んだ事柄が私に多大な影響を与えてくれました。毎週ご指導頂いた曾田監督をはじめ、関係者の方々に、この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。又、30年にもわたりサッカーを通じ、多くの子供達に「生きる喜び」を与え続けている事業に対し、心から敬意を表したいと思います。

最後に、近況を申しますと、現在同じくたちばな出身の兄貴と同じサッカーチームに属し、兄弟で汗を流しています。この歳になっても兄弟でボールを蹴られる喜びは何ものにも代え難いものです。機会があれば、当時の仲間とボールを蹴りたいものです。その時は、多分小学6年の夏の日に戻れる事でしょう。

昭和53年度勝敗表

No.	日付	対戦相手	スコア	勝敗	備考	本間	増山	大場	戸田	宮沢	渡井	安沢	松原	目形	自殺
1	3/21	洋光台	0-9	勝		5	3		1						
2	4/9	上中里	1-9	勝		4	2	3							
3	4/16	六浦	0-7	勝		2	4								1
4	4/16	東	1-4	勝			3	1							
5	4/29	大崎	0-15	勝		4	6	3	1	1					
6	4/29	岩井原	1-14	勝		3	6	2	2		1				
7	5/5	富岡	0-10	勝		1	3	4	1			1			
8	5/5	公田	2-5	勝		1	1	3							
9	5/14	ヨコハマS	0-15	勝		2	4	7					2		
10	5/27	山王谷	1-3	勝	横浜市大会決勝	1			1		1				
11	5/28	港南台	0-7	勝			3	3				1			
12	5/28	つばめ	0-6	勝		2	2	1	1						
13	6/11	南足柄	0-3	勝		1		2							
14	6/11	鶴沼	0-5	勝			3	2							
15	6/25	山王谷	1-3	勝		1			1			1			
16	6/25	善行	0-0	PK勝											
17	7/2	下和田	0-1	勝		1									
18	7/2	村岡	0-1	勝				1							
19	7/9	いずみ	1-0	負	県大会準優勝										
20	7/16	駒林	1-5	勝		2	2	1							
21	8/19	町田SSS	2-2	引分け				1			1				
22	8/19	長泉北	4-1	負			1								
23	8/20	西豊田	4-2	負		1							1		
24	8/20	曾谷	0-5	勝		1	2	2							
25	8/25	鹿西レグス	0-2	勝		1		1							
26	8/26	習志野	0-4	勝		1	2	1							
27	8/27	部屋小	1-4	勝			1	2	1						
28	8/27	栗野	1-3	勝	関東大会優勝	1	1	1							
29	9/15	アストロジュニア	1-1	引分け			1								
30	9/15	滝山	3-1	勝									1		
31	10/1	ヨコハマS	0-14	勝		4	5	3			1	1			
32	10/15	公田B	0-16	勝		9	2	3			1		1		
33	10/15	はたぶさ	0-8	勝		1	6	1							
34	10/22	YIS	0-5	勝		1	2	1						1	
35	11/3	本郷	0-9	勝		3	2				1	1	2		
36	11/3	YMCA	0-14	勝		5	5	3						1	
37	11/5	東B	0-1	勝		1									
38	11/19	藤田	0-7	勝		1	3	2			1				
39	11/19	瀬ヶ崎	1-6	勝		2	2	2							
40	12/3	東A	0-2	勝	横浜市大会優勝		1	1							
41	12/25	清水FC	2-5	勝		3	1					1			
42	12/25	FC町田	5-0	負											
43	12/26	富士	2-2	引分け				2							
44	12/26	広島大河	0-4	勝		2	1	1							
45	12/27	神戸	1-2	勝			1	1							
46	12/27	藤枝	2-0	負											
47	12/28	浜松	6-0	負											
48	1/21	西綾	0-2	勝		1	1								
49	1/21	おなり	0-5	勝			3	2							
50	1/22	桜井	0-2	勝			1	1							
51	1/28	天台	0-1	勝				1							
52	2/4	村岡	3-1	負			1								
合計			47-253			68	87	65	9	1	7	6	7	2	1

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
FW	9	本間 真一郎	下田小	愛称「しんちゃん」 抜群のリーダースhipと卓越した技術は小学生ばなれ。正に「でかい」頼れる存在。
FB	11	村上 祐也	下田小	愛称「ゆうや」 後ろからの甲高い声での指示は的確。安定した守備の要。
HB	7	安沢 祐之	下田小	愛称「ひろ」
FB	4	目形 康	下田小	愛称「めがちゃん」
FB	2	熊木 卓也	下田小	愛称「たくや」 アタックの甘いマスクで相手攻撃陣を粉砕。堅実的プレー。
HB	5	戸田 和彦	下田小	愛称「まるき」
FB	3	西尾 健	下田小	愛称「にしお」 鉄壁の左サイドバック。ふくよかなお腹が特徴。
HB	12	渡井 哲	下田小	愛称「わたらい」
GK	1	落合 尚人	下田小	愛称「おち」 頼りになる守護神。常にボーカーフェース。
HB	6	松原 茂徳	下田小	愛称「まつつん」
HB		田島 泰彦	下田小	
FW		三宅 元	下田小	
HB		木下 忠幸	下田小	
HB		本宿 冬郎	下田小	
FW		丹治 一功	下田小	愛称「たんたん」
FB		小須田 雅	下田小	

第 11 期 1979 年度(昭和 54 年度)卒業生

シーズンレビュー

LL (1977 年度(昭和 52 年度))

- ・ 4 月 第 4 回横浜スポーツ少年団サッカー大会 3 位
- ・ 8 月 富士緑の休暇村での合宿に際し、セルジオ越後氏の指導を受ける。この時の合宿は浜見平と一緒にこなう。
- ・ 8 月 第 4 回団地少年サッカー大会 B(低学年) 優勝
この年から中央大会はよみうりグラウンドで開催
- ・ 9 月 国立競技場で、全日本対コスモス(ペレ出場)の試合を観戦 (小・中学生 45 名)
- ・ 10 月 第 9 回横浜国際チビ子サッカー大会 優勝
- ・ 1 月 第 4 回神奈川県少年サッカー選手権大会 優勝

L (1979 年度(昭和 54 年度))

- | | | |
|--------|---|--------------------------------|
| ・ 2 月 | 第4回横浜少年サッカー大会(新人戦) | 優勝 |
| ・ 3 月 | なの花カップ(館山) | 優勝 |
| ・ 4 月 | 第 6 回横浜スポーツ少年団サッカー大会 | 優勝 |
| ・ 7 月 | 読売旗争奪読売少年サッカー夏季大会 | 5 対 5 で PK 負け |
| ・ 8 月 | 第 3 回全日本少年サッカー神奈川県大会 | 準優勝 |
| ・ 8 月 | 第 3 回関東少年サッカー大会 | 初戦・ 葦崎(山梨)に 4 対 5 で敗退 |
| | この年の優勝は葦崎 (於 千葉) | |
| ・ 8 月 | 富士緑の休暇村で合宿 | |
| | 全日本で優勝した甲府 FC の選手 9 名を持つ玉諸チームと親善試合、4 対 3 で敗れる | |
| ・ 8 月 | 第 6 回団地少年サッカー大会 | A(高学年) 優勝 |
| ・ 10 月 | 第 11 回横浜国際チビ子サッカー大会 | 3 位 |
| ・ 1 月 | 港北区少年サッカー大会 | |
| ・ 1 月 | 第 2 回全国少年ミニサッカー大会 | ベスト 8 (於 宇都宮) |
| ・ 1 月 | 第 6 回神奈川県少年サッカー大会 | 4 回戦まで進出 FC504 に 1 対 1 で PK 負け |

チーム紹介 第11期生 大場 賢治

僕等の時代、勉強よりサッカー、食事よりサッカー、遊びはサッカー、学校へ行く時も、スパイクを履きながら、ドリブルで登校、下校し、寝る時も常に枕元にボールを置いていた。とにかくサッカーが全てであった。監督さんにも恵まれていて、練習内容も非常に充実し、特にゲーム形式の練習が多く、バリエーションに富んでいて、とても楽しく自由にプレーさせてくれた。それにチームワークが良かった。僕の頭の中では、試合にはあまり負けた記憶がない。

LL、Lの時代に全国大会の神奈川県大会予選では、数多いチーム数の中で、一試合一試合と勝ち進んで行き、決勝戦まで行った。チームは一丸となり、ボルテージは最高に上がっていた。自分達は必ず勝つと信じていた。しかし、結果は負け、皆グランドで泣いていた。でも悔いは残っていない。何よりもすばらしいゲームをしたのだから。そして、関東大会へ進み、すばらしい成績を残し、全国に“たちばなキッカーズ”の名称が広がった。

本当にここまで来れたのは、チームの皆の力と曾田監督のすばらしい指導のおかげだと思う。そして何よりもこの頃の僕等は心の底から本当にサッカーが大好きでした。

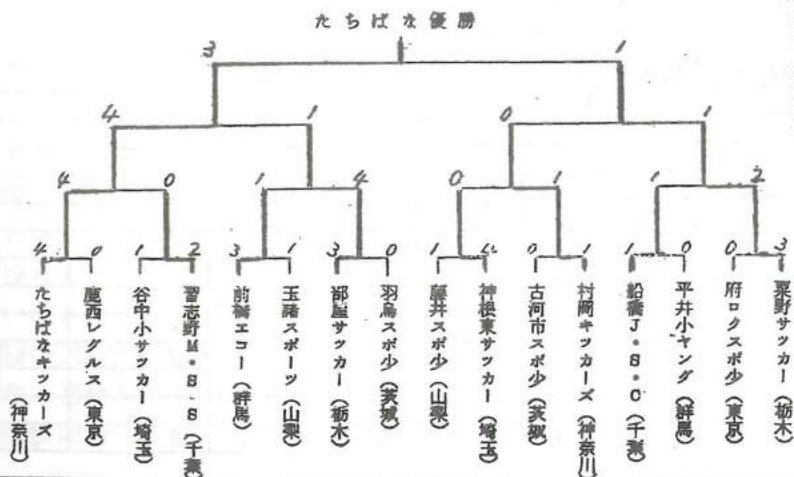
この思いは大人になっても変わらない。



第二回關東少年サッカー大会試合結果

於・群馬縣廣岡市

昭和53年8月25日～8月27日



ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
FW	10	大場 賢治	下田小	愛称「ケンちゃん」
FW	8	増山 高弘	下田小	チームの俊足でテクニックもあり、ゴールを決めるセンスは抜群。愛称「カボー」
HB	15	永田 俊策	下田小	愛称「ジュンちゃん」ファイト溢れるプレーをし、テクニックもあり頭脳プレーで試合の流れを読む。
HB	2	岡本 享	下田小	愛称「チョール」体は小さいがテクニックがあり、頼りになる牛若丸
FB	14	藤 純司	下田小	1対1やヘディングが非常に強く、ディフェンスラインをまとめる左利きのディフェンダー。
FB	3	高崎 進	下田小	グラウンドの外では実に物静かであるが、いざ試合になるとファイト溢れるプレーをする。
GK	1	山口 光晴	下田小	本当に頼りになるキーパーで、良く声を出し、非常に的確な指示を出す。
HB	13	末山 靖	下田小	愛称「ス」中盤の指揮官。フタにの様な華麗なパスで、何度もアシストし、自らシュートもうてるプレーヤー。
HB	17	高橋 利明	下田小	愛称「トシくん」
HB	19	金田 健一	下田小	愛称「キンタ」
HB		西村 繁	下田小	
FB		藤本 和敏	下田小	
FW		宮本 圭介	下田小	
FW		金子 博樹	下田小	愛称「ビデキ」
		行司 秀俊	下田小	
	16	三木 俊二	下田小	愛称「ジュンジ」
	9	秋元 研二	下田小	愛称「アキモッチャン」

第4回横浜少年サッカー大会（新人戦）優勝（三ツ沢球技場）



第12期 1980年度(昭和55年度)卒業生

シーズンレビュー

LL (1978年度(昭和53年度))

- ・ 1月 第4回神奈川県少年サッカー選手権大会 低学年の部 優勝
- ・ 4月 第5回横浜スポーツ少年団サッカー大会 優勝
- ・ 8月 富士緑の休暇村で合宿
- ・ 8月 第5回団地少年サッカー大会 B(低学年) 準優勝
- ・ 10月 第10回横浜国際チビッ子サッカー大会 準々決勝で敗退
- ・ 12月 12月17日 創立10周年記念行事を行う
- ・ 1月 第5回神奈川県少年サッカー大会

L (1980年度(昭和55年度))

- ・ 2月 第5回横浜少年サッカー大会(新人戦) 3回戦で夏山に4対1で敗退
- ・ 4月 第7回横浜スポーツ少年団サッカー大会
- ・ 5月 第4回全日本少年サッカー神奈川県大会 ベスト8
中央大会で前年度優勝の浜見に4対2で勝ち、前年度の雪辱を果たしたが、準々決勝でGPに敗れる
- ・ 8月 富士緑の休暇村で合宿
- ・ 8月 第7回団地少年サッカー大会 A(高学年) 準々決勝で浜見平に3対2で敗退
- ・ 10月 第12回横浜国際チビッ子サッカー大会 優勝(決勝は黒滝に5対0で完勝)
- ・ 1月 港北区少年少女スポーツ大会 たちばなホワイト(6年) 準決勝で大曽根SCに敗れる
- ・ 1月 第3回全国少年ミニサッカー大会 3位(於 三島市)
瓜田と大滝が優秀選手賞受賞
- ・ 1月 第7回神奈川県少年サッカー大会 宿敵浜見にPK負け

チーム紹介 第12期生 大滝 友男

私は小学2年からたちばなに入り活動していましたが、当時のたちばなはとても強く、特に1～2学年上級の先輩方は県大会準優勝という2年連続での成績を残しました。私達が6年生になり、今まで一緒にプレーしていたキャプテンら3名が受験で退会する事になり、残ったチームメイトは大会に出ても思った様に勝つ事が出来ず、悔しい日々を過ごしました。人に頼り過ぎていた我々は、自分達で頑張る事を覚えて行き、県大会ではベスト8、秋の市大会では優勝するまでになりました。

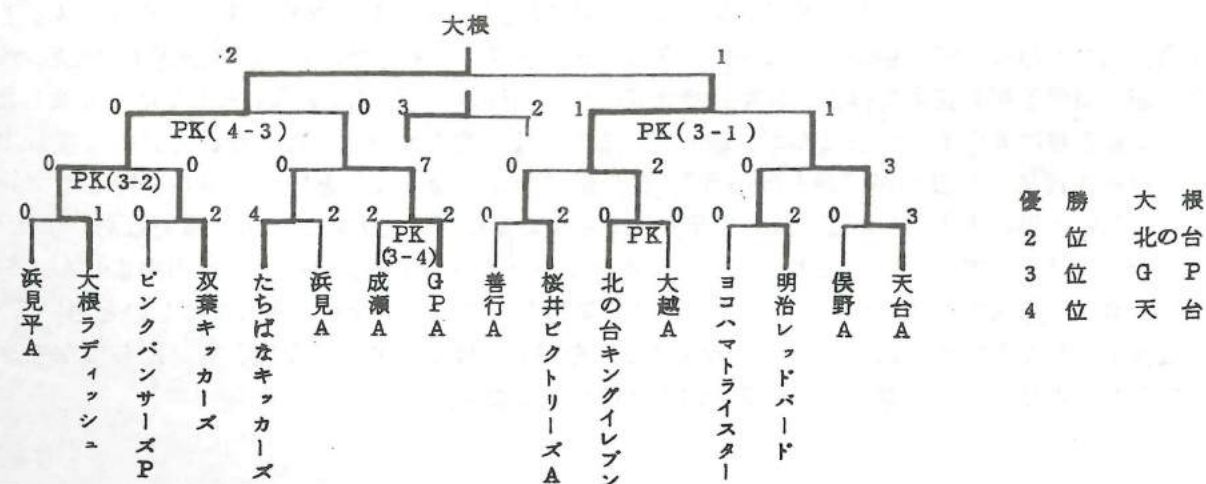
人に頼る事は楽かもしれませんが、頼っているだけでは自分がうまくならないと思い、後輩であるちびっこ達にも、自分が“がんばろう”、自分が“うまくなろう”という気持ちを持ってプレーしてほしいと思います。しかし、決してチームメイトの事はどうでもいいと言う事ではありません。人は一人では生きて行けないと思いますし、サッカーと言うスポーツは一人では出来ません。お互いに、本当の意味で助け合う気持ち、思いやりの気持ちを忘れる事なく頑張してほしいと思います。

最後に、私を育ててくれたコーチの皆様にお礼を申し上げると共に、今後とも“たちばなキッカーズ”が“のびのび”と育って行く事をお祈り申し上げます。

メンバー紹介

ポジション	名前	小学校	紹介
CH	瓜田 直樹	下田小	ウリちゃん。背の高い相手にも負けないジャンプ力。困った時の頼もしいキャプテン。
CB	山田 光裕	下田小	ミッチちゃん。左利きのスペシャリスト。器用なボールタッチで敵を抜く。
RW	大滝 友男	下田小	トモリン。右サイドからのドリブル突破は抜群だが、落ち着きのない所がたまに傷。
ST	石井 洋平	下田小	ヨウヘイ。ワッセイにも勝るボールコントロールの達人。おでこに乗せたボールはめったに落ちない。
RH	今仲 浩康	下田小	イマナカ。セードに乗ったら誰も止められない。正に野人の先輩。
LH	上野 貴生	下田小	ウエノ。音楽好きな、ちょっとおかしいチームメイト。獲物を狙う動物の様な目をしてボールを追う。
CF	桑山 法久	下田小	ノリくん。大きな敵の間をすりと抜け出てゴールを狙う。ねずみの様なすばしっこさ！
GK	佐藤 靖英	下田小	ヤーリン。チームに勝利をもたらす守護神だ。皆を引張るアニキ肌。
FB	青木 元	下田小	ゲンちゃん。GKと共にゴールを守るが、なかなか本気を出さない彼。本気を出せば誰もゴールを決められない。
FW	馬瀬 智行	下田小	マセ。努力家で毎日の様に練習に励む。左右両方使えるのも努力のおかげ。
FB	江川 有明	下田小	エガワ。体が大きく気が優しいが、彼を怒らせると相手チームでも止められない。
HB	大武 一伯	下田小	オオタケ。何事をやっても器用で頭を使ったプレーが持ち味。
FB	古賀 達也	下田小	コガ。普段は物静かなプレーヤー。フィールドでの存在感は大きく頼れるバック。
HB	篠原 要	下田小	シノ。ひょうきん者でいつも皆を笑わせていた。特に合宿でのお楽しみ会は彼の一人舞台。
FB	南雲 啓一	下田小	ナグモっちゃん。明るく優しい人柄。敵を目前にすると巨体を生かしゴール前の壁となる。
FW	前島 輝	下田小	マエジマ。人にとっても優しく、サッカーの時でも困っているとほっておけない性格。
HB	牧野 健人	下田小	マツキー。
HB	村上 治雄	下田小	ムラ。名門ドイツ生まれのプレーヤー。その粘りのあるプレイは天下一品。
HB	山崎 洋一	下田小	ヨウチ。
GK	鎌田 聡明	下田小	カマタ。
	村上 晋也	下田小	シンヤくん。みんなの信頼も厚く、キャプテンとしてプレーしたが、受験の為退会。
	岩村 知広	下田小	トントん。左利きのスペシャリスト。上級のチームにも出ていたが、受験の為退会。
	出沢 達哉	下田小	イデサワ。足が速くすばしっこく、ボールタッチも良い。引越し及び受験の為退会。
	井上 総一郎	下田小	ヘノ。小柄ながらもガッツのあるプレーをし、一度火がついたらアンタクチャブルなファイター。
	長塚 正由	下田小	

第4回 全日本少年サッカー大会 神奈川県大会 (惜しくもベスト8)



第12回横浜国際チビッ子サッカー大会 優勝(決勝は黒滝に5対0で完勝)



第13期 1981年度(昭和56年度)卒業生

シーズンレビュー

LL (1979年度(昭和54年度))

- ・4月 第6回横浜スポーツ少年団サッカー大会
- ・8月 富士緑の休暇村での合宿
- ・8月 第6回団地少年サッカー大会
- ・10月 第11回横浜国際チビッ子サッカー大会 4位
- ・1月 港北区少年サッカー大会
- ・1月 第6回神奈川県少年サッカー大会

L (1981年度(昭和56年度))

- ・2月 第6回横浜少年サッカー大会(新人戦) 優勝(1対0 港南台)
- ・4月 第8回横浜スポーツ少年団サッカー大会 4勝1負で2位
決勝トナント 1回戦で横浜東にPK負け
- ・6月 第5回全日本少年サッカー神奈川県大会 2回戦で村岡Aに敗退
- ・8月 富士緑の休暇村で合宿
- ・8月 第8回団地少年サッカー大会
- ・10月 第13回横浜国際チビッ子サッカー大会 2勝1負3分け
- ・1月 第4回全国少年ミニサッカー大会 準々決勝で仙台向山にPK負け
- ・1月 第8回神奈川県少年サッカー大会 1回戦で敗退

チーム紹介 第13期生 中野 純(創立20周年記念誌より)

僕達の時代は、中学生の頃に市大会や県大会で良い成績を残しました。その時のメンバーで「旭高校」に進んだ若森君は、正月の選手権大会に出場し、準々決勝に駒を進めました。その他のメンバーもそれぞれの高校で活躍していました。

それもみな「たちばなキッカーズ」の楽しくのびのびとした素晴らしいチームカラーや、監督、コーチの方々のご指導と、よく面倒をみて頂いた先輩方のおかげだと思っています。僕達の多くは、曾田さん、大島さん、佐野さん、永田さんのお世話になりました。いたずら盛りの僕達を怒ろうとはせず、勝手にプレーしていても、「こうしろ」とは強制せずに、個性を伸ばす様な指導をしてくださいました。

先輩方の中にもジュニアユースの日本代表になられた方や、現在、日本のトップレベルJSLの名門、日産サッカーチームに所属している方が身近にいて、僕達の憧れの人であり、目標とするプレーヤーでもありました。これ程の環境に恵まれたチームは、当時の横浜には「たちばなキッカーズ」の他にはなかった、と今でも誇りに思っています。

最近「たちばなキッカーズ」は、あまり調子が出ていないと聞いています。しかし、先日、練習や試合を見て安心しました。「たちばな」特有のチームカラーもよく出ていたし、スピードも他のチームに決してひけをとれません。そして何よりも「たちばな」伝統の抜群のテクニックは、昔も今も変わらず横浜でもトップレベルのものだと確信しました。むしろ現在の方が技術の面では優れている様な感じさえしました。ただ、一つだけ言わせてもらえば、「何か」が足りない様な気がします。

“何か”とは、接戦を勝利に結びつける“何か”であり、実力では数段上の相手に勝つ“何か”です。これは技術がいくらあっても出てきません。でも、きっとやってくれと思います。監督・コーチの方々の素晴らしい指導があります。先輩もいます。伝統も歴史もあります。

今の「たちばな」のみなさんも、これからの「たちばな」のみなさんも是非、誇りを持って頑張ってくださいと思います。

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
FW	10	鈴木 孝春	下田小	愛称“タカハル”チームの指令塔として皆をまとめた。ポイントゲッター。
GK	1	渡井 巧	下田小	愛称“ワタイ”守護神。いつも元気な最後の砦。
FB	5	龍野 文範	下田小	愛称“タツノ”独特のディフェンススタイルを持つタイプ。
FB	3	藤 裕治	下田小	愛称“トウチン”長身で当たり負けしない。
HB	4	中野 純	下田小	愛称“ナカノ”中盤の指揮官。オールラウンドプレーヤー。
FB	2	江浜 克明	下田小	愛称“エハマ”バックの要。
HB	6	安田 知司	下田小	愛称“ヤスキ”グラウンドを縦横無尽に駆け廻るプレーヤー。
HB	8	丸山 智治	下田小	愛称“マルちゃん”鋭いドリブルで相手をゴボウ抜き。
HB	7	若森 彰	下田小	愛称“ワカちゃん”体格が良く、力強いドリブルで突進し、得点に絡む。
FW	11	絹村 誠		愛称“キヌちゃん”俊足でテクニックもあり、頼れる人。
FW		唐 泰三	下田小	愛称“タイゾウ”小柄ながらBチームのキャプテンで且つポイントゲッター。
FB		岩城 俊彦	下田小	
FB		森部 達彦	下田小	
FB		麩谷 毅		
HB		小笠原 直樹		
HB		横川 英俊	下田小	
HB		笹谷 次郎		
FW		今野 英一	下田小	愛称“コンちゃん”Bチームの中盤の指揮官。後にブラジルでプロになった人。
GK		富吉 龍玄	下田小	愛称“リュウゲン”恵まれた体格を持ち、頼りになるキーパー。
HB		阿部 靖	下田小	
HB		今井 英智		
GK		高倉 泰介	下田小	
HB		池田 新吾		
FB		松井 茂		
FW		三宅 稔		
		堀川 昭博		

第6回横浜少年サッカー大会(新人戦) 優勝(1対0で港南台に勝利)



第 14 期 1982 年度(昭和 57 年度)卒業生

シーズンレビュー

LL (1980 年度(昭和 55 年度))

- ・ 4 月 第 7 回横浜スポーツ少年団サッカー大会
- ・ 8 月 富士緑の休暇村で合宿
- ・ 8 月 第 7 回団地少年サッカー大会 B(低学年) 優勝(決勝は港南台と 1 対 1 で PK 勝ち)
- ・ 10 月 第 12 回横浜国際チビッ子サッカー大会
- ・ 1 月 港北区少年少女スポーツ大会
- ・ 1 月 第 7 回神奈川県少年サッカー大会

L (1982 年度(昭和 57 年度))

- ・ 2 月 第 7 回横浜少年サッカー大会(新人戦) 4 位(準決勝で横浜東に PK 負け、3 位決定戦では山王谷に PK 負け)
- ・ 4 月 第 9 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 5 勝 1 分けて 1 位
決勝トナメント準々決勝で FC 本郷に敗れる
- ・ 6 月 第 6 回全日本少年サッカー神奈川県大会 予選ブロック準決勝で鶴ヶ台 A に PK 負け
- ・ 7 月 第 4 回全国子供ミニサッカー神奈川県大会 予選トナメント準決勝で OS ジュニアに負け
- ・ 7 月 57 年度読売旗争奪読売少年サッカー夏季大会 第二次予選リーグ 3 位
- ・ 8 月 富士緑の休暇村で合宿
- ・ 8 月 第 9 回関東団地少年サッカー大会 A(高学年) 準々決勝で山崎 Z に PK 負け。
この年は山崎 Z が優勝
- ・ 9 月 第 2 回こどもの国キリンカップ少年サッカー大会
- ・ 10 月 第 14 回横浜国際チビッ子サッカー大会 4 勝 2 分けて 1 位
決勝トナメント 4 位(3 位決定戦で駒林に敗退)
- ・ 11 月 57 年度読売旗争奪読売少年サッカー秋季大会 第二次予選リーグ 3 位
国際チビッ子 3 位決定戦と重なり LB で対戦
- ・ 1 月 第 9 回神奈川県少年サッカー大会 3 回戦で南大野コスモスに PK 負け
- ・ 1 月 第 5 回全国少年ミニサッカー大会 8 人制の部準決勝で十和田に PK 負け、4 位
- ・ 2 月 創立 15 周年記念行事実行委員会発足 9 月に記念式典開催、記念誌発行の予定

チーム紹介 第 14 期生 落合 明人

当時 L-B のキャプテンをしていたと言う事で、チーム紹介をさせていただきます。

L-B チームの 6 年というのは、皆 A チームに入れなかったという事で、サッカーへの情熱が薄れている時期なので、勝利へのモチベーションを保つのが大変でした。しかし、14 期の L-B チームは、なかなかバランスのとれた良いチームだったと思います。右 FW 石川、左に桑山、CF 渡部、ハーフに私や谷山(途中から A に移ったので、GK 山田がハーフに転向)、バックスに福田、柏瀬、村山、横山ら。馬瀬もバックスとゴールキーパー兼任でしたが、どちらのポジションも器用にこなしていました。下田小ではなかったのですが、西ヶ谷、田畑も毎週、遠くから来て、頑張っていました。

優秀な成績は残せませんでしたが、皆にとって、「たちばな」はサッカーへの入り口として大きな意味を持っていたと思います。

たちばなキッカーズの益々の発展を祈って結びにかえさせていただきます。

メンバー紹介 (各人の自己紹介)

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
HB	9	吉村 幸大	下田小	毎日、日が暮れるまでボールを追っかけていました。体が小さかったので、皆にはいつも一生懸命頑張っているという印象が強い。
FW	7	山本 和人	下田小	小柄だがテクニックはチーム No.1。随所にセンスあるプレーが光っていた。
HB	5	田村 誠	下田小	キック力がなく、いつもいい所まで突破しては誰かにラストパスを出していた。アシストならチーム No.1 だったかもしれません!?
GK	1	平方 雅之	川中島小	あまり上手ではありませんでしたが、キーパーを任されていました。背だけは高かったです。
FB	2	杏 敏男	下田小	
FB	3	松本 哲也	下田小	たちばなのエフォームに憧れて始めたサッカーも今年で 20 年近くなりました。今でこそバツグンをやっているが、当時は FW とかもやってました。
CB	4	川合 康弘	下田小	スライディングはよくやりました。また、キック力があり、クリアミスはほとんどなかったと思います。本当かな?
FW	6	中林 明彦	下田小	
HB	8	谷嶋 輝樹	下田小	ロングキックとペーシングを武器としてよく得点していた記憶があります。横浜選抜がさわやか杯で初優勝した時のメンバーとして参加出来たのも、たちばなでプレイしていたからだと思います。
FW	11	佐世 真一		
FW	20	谷山 一也	下田小	サッカーは僕にとって、今でも一番思い出深いスポーツです。皆で楽しく一生懸命やった事がなつかしく思います。僕の得意技は、何と言っても顔面ヘッド、ドリブルシュートなんてね!?
FB	12	神田 信幸	下田小	
HB	17	落合 明人	下田小	身体能力は高くありませんでしたが、読みとポジショニングで勝負する HB でした。
FW	18	桑山 和也	下田小	
FW	19	石川 和夫	下田小	
GK/HB	21	山田 功	下田小	
FB	22	福田 一	下田小	センターバック。足が速くてすばしっこく、体は小さいがタックルには自信があった。リフティングが不得意でバックをやらされていた。
FB	23	柏瀬 秀一	下田小	入った時からバック一筋で、永田さんと佐野さんに教えてもらいました。ずっとサブでしたが、高校に入ってやっとレギュラーになれました。
FB	24	村山 精一	下田小	
HB	25	横山 大輔	下田小	
FB/GK	26	馬瀬 直人	下田小	
HB	27	藤田 宏	下田小	サッカーが上手にならず、一時はやめようとも考えましたが、最後まで続けられた事が現在の自分に生かされている。
HB	28	西ヶ谷 聡享		
HB	29	田畑 裕三		
	42	渡部 貴	下田小	入った時に初めてやったポジションが LL-B の CF でした。当時の自分にとっては点取屋としてのプレッシャーを感じながらも練習に明け暮れた日々でした。その時の経験を生かして今の仕事もアクレジットに頑張っているつもりです。
		平山 昌和	下田小	
	13	長塚 真也	下田小	たちばなキッカーズでサッカーをやれてとてもいい思い出となりました。
		配野 学	下田小	
	50	野里 洋介	下田小	根性が無く途中退会となりましたが、今でもサッカーは好きで、個人的なエピソードとして時にはボールを蹴ってサッカーを愛し続けています。
		笹子 貢		
		松本 典浩		
		辛 洪山		
		日比野 誠		
		山崎 浩		
		小宮 浩一郎		

第15期 1983年度(昭和58年度)卒業生

シーズンレビュー

LL (1981年度(昭和56年度))

- ・4月 第8回横浜市スポーツ少年団サッカー大会
- ・8月 富士緑の休暇村で合宿
- ・8月 第8回団地少年サッカー大会
- ・10月 第13回横浜国際チビッ子サッカー大会 LL-A2部で優勝
- ・1月 第8回神奈川県少年サッカー大会 LLの部4位

L (1983年度(昭和58年度))

- ・2月 第8回横浜少年サッカー大会(新人戦) 3位
- ・5月 5月8日 バザー開催
- ・4月 第10回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 4位
- ・5月 第7回全日本少年サッカー神奈川県大会 予選ブロック2位
- ・7月 第5回全国子供ミニサッカー神奈川県大会 優勝(於伊勢丹屋上)
全国大会1回戦4対3で仲ノ木に勝つも合宿と重なる為、以降の試合は棄権
- ・8月 富士緑の休暇村で合宿
あざみ野FC、八潮SC(埼玉)、中西バーバリアン(東京)と親善試合を行う。
二日目昼食は飯盒炊飯
- ・8月 読売少年サッカー夏季大会 二次リーグで2位(準決勝進出出来ず)
- ・8月 第10回関東団地少年サッカー大会 A(高学年)決勝トーナメント1回戦西上尾に敗退
- ・9月 9月18日 創立15周年記念式典開催
- ・9月 第15回横浜国際チビッ子サッカー大会
- ・1月 第1回クラブ対抗ミニサッカー大会 3年~6年生 総合2位 特別T優勝
- ・1月 第10回神奈川県少年サッカー大会 3回戦で敗退(PK戦負け)
- ・2月 58年度読売旗争奪読売少年サッカー冬季大会 第一次予選リーグで惜敗

チーム紹介 第15期生 鈴木 信二郎

私がたちばなキッカーズを卒業してから、もう15年がたとうとしている。もう、ずいぶん記憶が薄くなりつつも、楽しかったあの時代は忘れられない。特に、次の二つの事は思い出深く残っている。

一つは、私達の代の成績である。

私達の代より前のたちばなキッカーズは大変強かった。市内ではもちろん、県内でもその強さは有数であったと記憶している(勿論、今ほどチーム数は多くなかったと思うが)。市内ではベスト4は勿論、優勝も多かったと思う。だから、秋の国際チビッ子はAの部に出るのは本当に当然の事であった(今は知らないが、当時は春のスボ少の結果により秋の国際チビッ子のAの部、Bの部が決っていた)。しかしながら、私達は見事にBの部にまわされた。スボ少で惨敗だったからである。これは、おそらくたちばな史上初めての出来事であろう。とても悔しかったのを覚えている。私達はその悔しさをバネに頑張った。そして、国際チビッ子では、Bの部ながら優勝、その勢いで冬の県大会でも見事3位になる事が出来た。ほかの大会ではあまりすばらしい成績を上げる事が出来なかっただけに、これはとても印象に残る出来事であった。

もう一つは指導者の方々である。私達の代は主に、LLの頃は永田さんに、Lの頃は曾田さん、

昭和55年9月6日 THE KEYより

熱戦...また熱戦を展開!

第7回 団地少年サッカー大会
Aクラス Bクラス
滝山 日吉が優勝

50チームが参加
ちびっ子リーグの優勝
なつりランドサッカー場で先
月30、31日の二日間、第7回団
地少年サッカー大会の決勝戦が
行われ、Aクラスは滝山団地
(東久留米市)、Bクラスは日
吉団地(横浜)が見事優勝し
ました。

今大会は、小学5、6年生の
Aクラスに常盤平(松戸市)、
原市(上野市)、鶴が台(茅ヶ
崎市)、高島平(板橋区)など
24チームが、4年生以下のBク
ラスに千歳NT清水口(千葉
県)や新栄町(愛知県)、津光
台(横浜)、町田山崎(町田
市)、浜見平(茅ヶ崎市)など
28チームが参加。決勝大会は、
各ブロック予選を勝ち抜いたA
日吉とB日吉の二チームが、新
設された人工芝の上で好ゲーム
を展開。つめかいた優勝から
盛大な声援がとどみました。

Aクラスの方は、優勝候補の
滝山にあげられていた日吉が準
々決勝で常盤平に3対2で
敗れるなど波乱ぶくみのスーパ
ートとなりましたが、やはり新選
氣鋭のチームにとって決勝大会
常連の壁は厚いようでした。

決勝はPK戦で
滝山はPK戦で
1点を奪う好ゲームの連続でこ
くに日吉と滝山(横浜)と
で行われた決勝戦は1対1のス
コアのまま時間切れとなり、
延長戦をやっても勝負がつか
ず、結局PK戦で日吉が日吉
が優勝という手に汗を流して
いました。

優勝チームには公団総裁杯な
どカップやトロフィーが贈られ
ました。





◀ 第14回国際チビッ子サッカー大会 4位

大島さん、佐野さんに指導を受けた。みなさんとても優しい方々であった。練習も和気あいあいと言う感じで、本当に楽しかった。ただ一度だけ、合宿の時に余りふがない練習試合をしてしまい、試合後とても怒られ、1時間位ひたすらヘディングの練習をした事があったが……。それ以外はあまり怒られた記憶はない。

又、いつも誉めて頂いた。私自身3年生の頃、曾田さんに「君はヘディングがうまいな」と誉められ、とても自信が付いた。その後、中学・高校・大学と、私はたいして背は高くないが、ヘディングの競り合いには自信を持って取り組み、競り合いにも強かったと思う。

私は今、小学校の教師をしているが、子供に対する接し方や誉める事の大切さ等、たちばなキッカーズの指導者のすばらしさを実感する。感謝の一語に尽きる。

この様に文章を書いていると、当時の思い出が少しずつよみがえってくる。今のたちばなキッカーズのメンバーにも、すばらしい思い出を数多く作ってほしいと思う。

たちばなキッカーズと指導者の方々の、ますますの御活躍を期待し、この文章を終わらせて頂く。

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
MF	7	田辺 実	下田小	たんぺ。チームの指令塔として活躍。左右両足から繰り出されるパスは正確で数多くのチャンスを作り出した。
FW	8	伊藤 淳平	下田小	いとちゃん。スピードがあり、切れがあり、そして力強いドリブルで相手を次々とかわして鋭いシュートを決める。
DF	2	中林 真人	下田小	マンゴ。全体のバランスをよく見ながら守って、1対1に強いディフェンス。相手との駆け引きには負けなかった。
DF	3	波多野 暁宏	下田小	はたの。粘り強いディフェンスで、一度くらいついたら絶対に離れないしつこさがあり、相手に一番嫌がられるDF。
FW	5	辛 燭日	下田小	しん。相手をあつという間に置き去りにするスピードでドリブル突破して多くの得点に絡む。
MF	6	鈴木 信二郎	下田小	しんじろう。ディフェンスに強く、当り負けをしない。周囲に指示を出し、守りを固めるDFの中心人物。
FW	9	佐藤 勇	下田小	いさむ。小柄な体格ながら、体を上手に使いプレーする。いつのまにかゴール前に現われ得点をする。
DF	12	守口 貴広		
GK	1	山本 亮	下田小	やまさん。経験は少ないが、チームの背の高さと素晴らしい運動神経でゴールを守る。チームの守護神。
FW	10	河本 充弘	下田小 (馬絹小)	かわもと、ちょび。チームの中心人物。まさに大黒柱。ドリブル、パス、シュートどれをとっても小学生離れしたスーパープレー。
GK/MF	17	大村 慎二	下田小	しんじ。チームのムードメーカー。ガッツ溢れるプレーでチームを引っ張る。Bチームのキャプテンを務める。
MF	18	小笠原 直広	下田小	ガチャマン。意外性のあるプレーで、同じチームの選手もびっくりする様なプレーを得意とする。
DF	19	草野 真裕		
FW	21	白岩 俊明		
		稲田 和彦		
DF	22	望月 基		
		今村 和郎		
		柳原 新太郎		
		服部 博之		
		小林 啓寛		

▼第5回全国子供ミニサッカー大会 優勝

たちばなキッカーズが優勝する
ミニサッカー選手権
第五回全国子供ミニサッカー大会(毎日新聞社主催、大塚製薬(協賛))は二十九日、東京・新習志野陸上競技場で行われ、十二チームが参加、決勝戦ではたちばなキッカーズが2対0で上南サッカークラブを破り優勝した。たちばなキッカーズは八月四日から同会場で行われる全国大会に出場する。



▲第8回横浜少年サッカー大会新人戦
試合を終え拍手で迎えられるたちばなイレブン



▲第10回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 ハーフタイム



▷第7回全日本少年サッカー大会
神奈川県大会



第16期 1984年度(昭和59年度)卒業生

シーズンレビュー

LL (1982年度(昭和57年度))

- ・4月 第9回横浜市スポーツ少年団サッカー大会
- ・8月 富士緑の休暇村で合宿
- ・8月 第9回関東団地少年サッカー大会
- ・10月 第14回横浜国際チビ子サッカー大会
- ・1月 第9回神奈川県少年サッカー大会
- ・2月 創立15周年記念行事実行委員会発足。9月に記念式典開催、記念誌発行の予定とする。

L (1984年度(昭和59年度))

- ・2月 第9回横浜少年サッカー大会(新人戦) 曾田監督 現場に復帰
- ・4月 第11回横浜市スポーツ少年団サッカー大会
- ・5月 第8回全日本少年サッカー神奈川県大会
- ・6月 下田小グラウンド整備終了、永田コーチ長期出張から復帰
- ・7月 第6回全国子供ミニサッカー神奈川県大会
- ・8月 富士緑の休暇村で合宿
- ・8月 第11回関東団地少年サッカー大会
- ・9月 鶴間10周年招待試合
- ・9月 勝田SS10周年記念招待試合
- ・10月 第16回横浜国際チビ子サッカー大会
- ・11月 港北区ジュニアスポーツ大会
- ・1月 第11回神奈川県少年サッカー大会
- ・3月 清水招待試合に参加

L-A

L-B

- 2回戦で本郷に敗退
- 3勝で予選1位 3負で4位
- 決勝トナメント1回戦で敗退
- 予選2回戦で敗退
- 優勝の大根ラディッシュに3回戦で敗退
- 鷹沼、八潮SC(埼玉)と親善試合を行う。
- 予選リーグで敗退
- 準優勝(静岡の長泉南が優勝)
- 優勝
- 優勝
- 県予選ブロック1位

チーム紹介 「鶴間10周年で準優勝」(たちばなニュースより) 第16期生 配野 治

鶴間10周年記念招待試合の決勝リーグは良く晴れた日曜日に行われました。芝生の緑が目にしみるコートで、すでに勝ち進んだ3チームによって争われます。たちばなキッカーズは優勝ムードで臨みました。負けてもカップが貰えると、皆そう思っていました。

南大野戦は前半1-2でリードされましたが、後半2点を入れて、3-2で逆転しました。次に静岡の長泉南との対戦でしたが、エースストライカーの足の故障もあって、惜しくも0-1で負け、準優勝となりました。しかし、今日は勝つぞというムードがあったのは良いことでした。

スポーツは「試合中にいい言葉を沢山使う事が大切だ」とある人がいっていた。自分に自身を持たせるいい言葉を口から出し、自分を奮い立たせることだ。

試合開始前に円陣をくんで、「気合を入れて行こう、頑張って行こう、オー！」もひとつのあらわれである。だいたい前であるが、NHKの番組で、子供達が「越後角兵衛唐獅子」を演じていた。その中で技に入る前に「ハッ、ハッ」の掛け声をかけていた。これは大脳生理学でいう脳波パターンをフェイズ2(平常の意識レベル)の状態からフェイズ3(少しエキサイトした意識レベル)の状態にするための科学的手法である。私達が日頃無意識で使っている「セーノ」「ヨイショ」などの掛け声も同じ事である。

試合開始前、ポジションについたら皆で「ハッハッ」と掛け声をかけたらどんなになるであろうか。相手は不気味に思うであろうか？味方は奮い立つであろうか？一度やってみよう！試みでもある。

ともあれ、準優勝！初めてのカップおめでとう！！

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
MF	7	配野 治	下田小	チームのまとめ役、小さな体で声を張り上げチョコチョコとチームに喝をいれる。
FW	9	内田 昇	下田小	身体能力を活かし、パスにシュートにオールラウンドプレー。
DF	6	樺沢 健二	下田小	バックの要。長身を活かしたヘディングシュートも得意。
MF	11	田中 剛	下田小	ラインぎわを駆け抜ける直線的ドリブルからの強烈なシュート。
FW	10	野里 拓也		足が早く点取り屋「拓ちゃん」。巧みなドリブラー。
DF	5	篠原 雄太		ピンチを救うスライディングタックルが得意。
FW		河本 利弘	馬絹小	トシッポ。相手の裏をかく意表をつくプレーが得意。
MF	17	笠原 宣広	下田小	鋭いドリブルで相手をごぼう抜き。
DF		仁平 圭	下田小	巧みな左足とガッツあるプレーが身上。
MF		塚本 茂樹	下田小	大型MF。パワーで相手を跳ね除ける。
GK	1	室伏 太地	下田小	がっちりした体がたのしい「太ちゃん」。横っ跳びも得意な力強いGK。
DF	14	篠原 晃	下田小	1対1では絶対の自信を持つスピードのある左サイドバック。
FW		白鶴 清治	下田小	細かいドリブルで短いパス。まさにたちばなのサッカー。
DF		横川 英明	下田小	落ち着いたプレーを身上とする。
MF		森木 龍也	下田小	小さい体ながらも体力とガッツでカバー。
MF	5	有村 昌雄	下田小	左足から繰り出すキープパスが得意。
FW		桑山 真	下田小	巧みな技とコンビネーションでいつも素晴らしいプレーを見せる。
MF		山室 淳史	下田小	
MF	8	永長 勝行	下田小	ナガピン。チームのスピードを誇り、グラウンドを縦横無尽に駆け廻る。
GK	2	斉藤 登	下田小	のっぴん。安定したセービングでゴールを守る。
MF		増田 克彦	下田小	スピードとパスを活かしたプレー。敵に回すと最も嫌なタイプ。
DF		佐藤 礼和	下田小	
FW		辛 燭碩	下田小	スピードもあり、力強いプレー。
MF		中鉢 要介	下田小	
DF		新井 弘展	下田小	
DF		新山 武志	下田小	力が有り余るパワーバック。
MF		久保寺 徹	下田小	
MF		国房 太郎		
MF		大西 文夫		
		今仲 浩和		
		平方 哲郎		



◁ 第16期卒業生「お別れ会」 ▷

第 17 期 1985 年度(昭和 60 年度)卒業生

シーズンレビュー

LL (1983 年度(昭和 58 年度))

- ・ 5 月 5 月 8 日 バザー開催
- ・ 4 月 第 10 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会
- ・ 8 月 富士緑の休暇村で合宿
- ・ 8 月 第 10 回関東団地少年サッカー大会
- ・ 9 月 9 月 18 日 創立 15 周年記念式典開催
- ・ 9 月 第 15 回横浜国際チビッ子サッカー大会
- ・ 1 月 第 1 回クラブ対抗ミニサッカー大会
- ・ 1 月 第 10 回神奈川県少年サッカー大会

B(低学年) 予選リーグ 2 位

LL-A 2 部で準優勝

3 年～6 年生 総合 2 位 特別 T 優勝

LL-A 3 回戦で敗退

L (1985 年度(昭和 60 年度))

- ・ 2 月 第 10 回横浜少年サッカー大会(新人戦)
- ・ 5 月 第 12 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会
- ・ 5 月 第 9 回全日本少年サッカー神奈川県大会
- ・ 6 月 第 1 回港北区サッカー協会大会
- ・ 8 月 富士緑の休暇村で合宿
- ・ 8 月 第 12 回関東団地少年サッカー大会
- ・ 9 月 旭高校サッカー部
- ・ 10 月 第 17 回横浜国際チビッ子サッカー大会
- ・ 11 月 港北区ジュニアスポーツ大会
- ・ 1 月 第 12 回神奈川県少年サッカー大会

L-A

1 回戦で敗退

3 勝 1 負 2 分で 3 位 2 勝 2 負で 3 位

予選ブロック 2 回戦で敗退

1 回戦敗退

あざみ野と親善試合を行う。

決勝トーナメントで尾山台に敗退

新日鉄グラウンドにてたちばなを指導

1 勝 1 負 3 分で 3 位 4 負 1 分で 6 位

優勝

県予選ブロック 2 位

L-B

—

チーム紹介 第 17 期生 田辺 義昭

同期の人数は少なかったが、下級生との仲が良く、明るく元気のあるチームでした。

以下、20 周年誌から抜粋

「たちばなでの思い出」 田辺 義昭

僕は 2 年生からたちばなに入りました。その中で一番思い出になった事は、6 年生の時の合宿です。今までの合宿では上級生の人達と一緒にいれば良かったけれども、6 年の時の合宿では、合宿に行く前に班を決めたり、班の人達をまとめなくてはなりません。試合や隠し芸とかは、とても楽しく出来たと思います。それに夜は皆で色々な話をしたり、ふざけたりして、とても楽しかったです。この様な楽しい思い出や、頑張った思い出は今でも残っています。だから僕はたちばなに入ってよかったとおもいました。そして、これからも色々頑張っていきたいと思います。

「たちばなでの思い出」 前島 睦

僕がたちばなに入ったのは 1 年生の時でした。その時 SL はなかったと記憶しています。

一番楽しかった事は、夏の合宿でした。6 年生の時の合宿では、僕のチームが優勝し、僕が最優秀選手に選ばれました。

今でも中学でサッカー部に在籍していますが、期待に反して活発に活動していないのが残念です。夏までの半年間、悔いの無いようにがんばりたいと思います。高校生になってもサッカーは続けて行きたいと思います。

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
DF	3	前島 睦	下田小	背が高くヘディングが得意。
MF	4	土谷 悟	下田小	ガッツあるプレーでチームにとって欠かせない存在。ムードメーカー。
FW	6	関谷 明大		リフティングが得意で、ボールキープが上手だった。
DF		南間 利之	下田小	サイドバックとしての守り方は非常に上手だった。
FW		大野 樹里	下田小	とにかく足が速くて追いつける人はいない。
DF	8	小栗 周一	下田小	ボールキープ、パスセンス共に素晴らしい技術力でチームのゲームメーカー。
MF	10	田辺 義昭	下田小	チームのキャプテン。ドリブルには自信があった。
FW	11	丸山 大助	下田小	正確なシュートでストライカーとして活躍。
MF		大島 健	下田小	Bチームのキャプテンで、下級生をうまくまとめ、信頼が厚い。
FW		三宅 弘幸	下田小	背が高くヘディングが得意だった。
MF		平田 浩二 (旧姓 難波)	下田小	
MF		西口 剛史		



第 15 回横浜国際
チビッ子サッカー大会
LL-A 準優勝

第 17 期生



第 18 期 1986 年度(昭和 61 年度)卒業生

シーズンレビュー

LL (1984 年度(昭和 59 年度))

・ 4 月	第 11 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会	LL-A 4 勝で予選 1 位 決勝トナメント 1 回戦敗退(PK 戦負け)	LL-B 4 負で 5 位
・ 6 月	下田小グラウンド整備終了、永田コーチ長期出張から復帰		
・ 8 月	富士緑の休暇村で合宿		
・ 8 月	第 11 回関東団地少年サッカー大会	予選リーグで敗退	
・ 10 月	第 16 回横浜国際チビッ子サッカー大会	準優勝(優勝は夏山)	
・ 11 月	港北区ジュニアスポーツ大会		
・ 1 月	第 1 回クラブ対抗ミニサッカー大会	サロンフットボールの部 優勝	
・ 1 月	第 11 回神奈川県少年サッカー大会		

L (1986 年度(昭和 61 年度))

・ 2 月	第 11 回横浜少年サッカー大会(新人戦)	L-A 2 回戦で上星川に敗退	L-B
・ 3 月	61 年度読売旗争奪読売少年サッカー春季大会	予選リーグ 1 位、ブロック決勝で惜敗	
・ 4 月	第 13 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会	3 勝 1 負 1 分で 2 位 1 勝 4 負で 5 位 決勝トナメント 1 回戦敗退	
・ 5 月	第 10 回全日本少年サッカー神奈川県大会	予選ブロック 2 位	
・ 6 月	第 2 回港北区サッカー協会大会	3 回戦敗退	3 回戦敗退
・ 7 月	第 8 回全国子供ミニサッカー神奈川県大会	県予選 2 位、全国大会 4 位	
・ 8 月	富士緑の休暇村で合宿		
・ 8 月	GP フェスティバル 5 年生大会招待試合	予選リーグ 2 位、決勝リーグ 浜松 JFC に惜敗	
・ 8 月	第 13 回関東団地少年サッカー大会	予選リーグ 2 位、決勝トナメント進出出来ず	
・ 10 月	第 18 回横浜国際チビッ子サッカー大会	3 勝 2 負 1 分で 4 位 2 勝 2 負 1 分で 4 位	
・ 11 月	第 6 回港北区ジュニアスポーツ大会	準優勝	
・ 1 月	第 13 回神奈川県少年サッカー大会	2 回戦敗退	

チーム紹介 第 18 期生 吉村 正輝

月日の経つのは速いもので、私がたちばなキッカーズというサッカーを通じた遊びに出会ってから、16 年近く過ぎました。当時を振り返ると、遊びという感覚、自由という面白さに魅せられて、毎日の様にボールを追いかけていました。そして今でも思い出すのは、何でも好き勝手にプレーさせてもらい、子供である私達の発想に全てを任せていた、という事である。これがたちばならしさと言っても過言ではないと思います。また、仲間と一緒に過ごした素晴らしい思い出がたくさんあります。サッカーで学んだ事は多いけれど、勝って笑い、負けて泣く。そこには苦楽を共にした仲間がいる。そこで培われてきたものは、何事にも代え難い本当に大切なものである。

私達の頃は SL というチームはなく、3 年生や 4 年生に混じってサッカーをしていた思い出があります。ひとつ覚えている事は、千葉のサロンフットボール大会で優勝して、ラモス選手やセルジオ越後さんに誉められたと言う事です。4 年生になる頃には、一人一人の技術とたくましさが増え、ようやく試合が出来る様になりました。横浜国際チビッ子サッカー大会においては、一試合毎に力を付けて行き、試合が楽しかった思い出があります。決勝トーナメントでも勝ち進み、決勝戦まで行く事が出来、非常に充実していた事を覚えています。

6 年生になるとお互いを理解し合い、チームとしてまとまりが出てきました。平日でも放課後に皆で集まり、自ら工夫してサッカーをする楽しさを自然と身につけていた様に感じます。全国子供ミニサッカー大会では、前年優勝チームである OS ジュニアを PK 戦の末破り、見事全国大会への切符を手にする事が出来ました。全国大会でも、さまざまな経験を積む事が出来ました。大会では準決勝まで勝ち残り、最高の経験をする事が出来ました。

また、合宿やたちばな杯を通して学んだ団体行動のあり方なども、自然と身につけていた様に感じます。この意味でも、たちばなから学んだ事は今でも私達の基本となっています。そして、曾田監督や佐野さん、大島さん、永田さんなどコーチの方々には本当に感謝致します。また、子供である私達をお世話してくれた父母の方々にも心から感謝致します。そして、30 周年を迎えられた“たちばなキッカーズ”の御祝いと今後の発展を心より祈念致します。

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
GK	1	遠藤 誠	下田小	愛称「マコ」上に絶対の自信を持つ GK。特に左に飛んでボールを取る宇宙遊泳は名人芸。但し、右下に落とし穴あり。
DF	2	安土 有一郎	下田小	愛称「ヤッ」走るスピードが速く、長いリチを生かしてカットも抜群。オーバーラップを得意として、スローインもうまい。
DF	3	福谷 和彦	下田小	愛称「フクさん」冷静な読みとカバーリングを得意とするスイーパー。中盤からの殺人シュートは入っても入らなくても敵・味方からオツと声が出る。
MF	4	越前 恒雄	下田小	愛称「エフゼン」おもしろいドリブルをする。独自のフェイントが性格を表している。リフティングもおもしろい芸人。
DF	5	芳賀 優樹	馬絹小	前身ハネのかたまりで、走ること、縄跳び、何でも達人である。どこでもこなせるオールラウンドプレイヤー。集中力が少し足りない。
FW	7	伊藤 謙三	下田小	愛称「ケンちゃん」重心の低いドリブルと歩幅の大きいフリースタイルが特徴。黄金の左足シュートは得点確率が高い。
MF	8	草野 光雄	下田小	愛称「みっちゃん」状況判断が優れていて、ボールタッチも柔らかく、フェイントに意外性がある。たちばなの伝統を継いだ人。
FW	9	室伏 勢	篠原小	愛称「ちから」ゲーム勘の良さは大人なみ。体でブロックしながらのボールキープ、逆襲からの独創シュートでチームを盛り上げる。
MF	10	吉村 正輝	下田小	愛称「マキ」ゴールの「狩人」。相手 DF のミスは絶対に見逃さない。狙った所へシュートする気迫がすばらしい。
MF	18	山岸 治	下田小	愛称「ヤマジ」チームのキャプテンとして、皆をリードする。大きい体を利用して守備をし、たまに打つシュートにも力がある。
FW	19	安土 健太郎	下田小	愛称「ケンちゃん」技術とセンスは相手をうならせるものがある。体調の維持が課題である。
FW	21	相原 且登	下田小	愛称「かずと」小さい体を補うファイターで、スライディングを得意とするタックルが上手。
DF	22	箕輪 吉利大	下田小	愛称「ミコ」足の速さとキック力に絶対の自信を持つ。特にセットプレーのプレスキックは抜群。
DF	25	関 貴士	下田小	愛称「ケイ」相手のエースを殺す程のエースキラー。常に全力投球する努力家である。
MF	26	家次 崇太	下田小	愛称「イジ」スローインを得意とし、見ている人をうならせるファイトマン！感動させるプレーをする。
FW	27	近藤 大輔	下田小	愛称「コンチ」ボールを持たせたら得点を期待させる技巧派プレイヤー。より強い気持ちと強引さが必要。
DF	28	伊藤 文彦	下田小	愛称「マヒコ」スライディングタックルを得意とする。キーパーもこなす万能選手で、チーム貢献度は抜群である。
MF	30	阪本 学	下田小	愛称「まなぶ」左利きのアシスト王。左サイドからのスルースを得意とするアイスマン。
		波多野 公士		
		酒井 寿和		
		浅井 庸介		

第19期 1987年度(昭和62年度)卒業生

シーズンレビュー

LL (1985年度(昭和60年度))

- ・ 5月 第12回横浜市スポーツ少年団サッカー大会
- ・ 6月 第1回港北区サッカー協会大会
- ・ 8月 富士緑の休暇村で合宿
- ・ 8月 第12回関東団地少年サッカー大会
- ・ 9月 旭高校サッカー部
- ・ 10月 第17回横浜国際チビッ子サッカー大会
- ・ 11月 港北区ジュニアスポーツ大会
- ・ 1月 第12回神奈川県少年サッカー大会

LL-A

- 2勝3負で4位
- 3回戦敗退
- あざみ野と親善試合を行う
- 予選1勝1負
- 新日鉄グラウンドにてたちばなを指導
- 3勝1分で1位
- 決勝トーナメント1回戦でPK戦負け
- 3位入賞

LL-B

- 4負で5位
- 1回戦敗退
- 1回戦敗退
- 4負で5位
- 1回戦敗退

L (1987年度(昭和62年度))

- ・ 2月 第12回横浜少年サッカー大会(新人戦)
- ・ 3月 62年度読売旗争奪読売少年サッカー春季大会
- ・ 4月 第14回横浜市スポーツ少年団サッカー大会
- ・ 5月 創立20周年準備委員会組織発足
- ・ 5月 第11回全日本少年サッカー神奈川県大会
- ・ 6月 第3回港北区サッカー協会大会
- ・ 8月 富士緑の休暇村で合宿
腰越(鎌倉)、矢崎(府中)、町田SSと親善試合実施
- ・ 8月 第14回関東団地対抗少年サッカー大会
- ・ 9月 9月20日 バザー開催
- ・ 10月 第19回横浜国際チビッ子サッカー大会
- ・ 11月 鶴見川(亀島橋下流)河川敷
- ・ 11月 第7回港北区ジュニアスポーツ大会
- ・ 1月 第14回神奈川県少年サッカー大会
- ・ 2月 第7回セルジオ杯記念サッカー大会

L-A

- 第2戦ではやぶさにPK負け
- 決勝トーナメント準々決勝で惜敗
- 6勝で予選1位
- 1勝5負で6位
- 準々決勝で駒林にPK戦で惜敗
- 4回戦 いずみ KC に惜敗
- 3回戦敗退
- 1回戦PK戦負け
- 決勝トーナメント 1回戦で惜敗
- 3勝3分で2位
- 1勝6負で8位
- 準々決勝で若葉台に惜敗
- たちばな専用グラウンド整備開始
- 3回戦敗退
- 2回戦敗退
- 県予選ブロック 1回戦敗退
- 3位

L-B

チーム紹介 第19期生 田辺 貴之

SL時代は、チームとしてはメンバーが11名ぐらいしかいなく、試合内容等は全く覚えていない。しかし、この年代だけにチームに小原君という人がいて、2年生の時に地方に引っ越しをしまい、仲の良い友達との別れがあった事だけ覚えている。コーチは永田さんにお世話になり、ボールを蹴る楽しさを優しく教えてくれた人である。

LL時代は、大島コーチのお世話になり、サッカーの基本を忠実に教えて頂く事が出来、且つ、たまに私達に見せる厳しさはチームに喝を入れてくれた。子供達と一緒にサッカーをプレーし、その場で個々の長所、短所を見極めてくれた事を覚えている。

Lの時代は、とにかく国際チビッ子予選リーグ、相手はFC奈良、日産FC、文庫FCといった強敵ぞろい。大会前から周りは予選敗退と思った人もいたと思う。しかし、FC奈良、文庫と2試合



△「ゴール」12月号より

第8回全国子供ミニサッカー大会

7月31日から8月4日まで、東京都・新・東・京・新・大・学・体育会館で開催された。第8回全国子供ミニサッカー大会は、全国から各地区予選を勝ち抜いた16チームが参加、優勝を争った。優勝は、東京都・新・東・京・新・大・学・体育会館所属の「新大体育会」チームが、2対0で優勝した。

優勝：新大体育会
準優勝：東京都・新・東・京・新・大・学・体育会館
3位：東京都・新・東・京・新・大・学・体育会館
4位：東京都・新・東・京・新・大・学・体育会館



△ 第16回横浜国際チビッ子サッカー大会 LL-A 準優勝

第6回港北区ジュニアスポーツ大会 L-A 準優勝



を終了して1勝1分け勝ち点3。次の日産FC戦では引分け以上で予選通過というところまで来た。迎えた最終戦、相手に先制され、後半のギリギリでついに同点に持ち込み、同点で終了した。この時のうれしさ、みんなの笑顔、曾田監督・コーチ等の喜ぶ姿はこれからも一生忘れないと思う。何よりこんなに強敵がいながら、一つも負けなかった事は自信も出来たし、強い相手だろうと試合をやってみなければ分からないと思った。

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
FW	10	田辺 貴之	下田小	愛称「タハ」センターフォワードとして数多くの得点を記録。キャプテンとしてチームをまとめた。
MF	9	海野 貴男	下田小	愛称「たかお君」たちばな No.1 のテクニシャン。自分からチャンスを作り、シュートも出来る指令塔。
FW	8	小田 俊直	下田小	愛称「オハベ」相手 DF を力でねじ伏せる。バリーはチーム No.1!!
DF	3	山口 昌平	下田小	愛称「グッピ」DF としてボールを奪うテクニックが非常にうまい。
FW	7	出口 浩一郎	下田小	愛称「デグリン」右ウイングで相手を得意のドリブルとスピードで抜き去るテクニックは天下一品。
FW	11	十河 康	下田小	愛称「ごっち」左ウイングで左からのセンターリングは正確で幾度も得点チャンスを作り出した。
DF	2	横山 惣一	下田小	愛称「横しよ」たちばな DF の最後のとりで。ハードタックルでここを抜いていくのは至難の技!!
DF	5	岩渕 寿洋	下田小	愛称「岩くん」右サイドバックでオーバーラップを得意とする。攻守の切り換えが早い。
DF	4	田中 誠	下田小	愛称「タコ」センターバックでたちばな No.1 のガッツマン。脅威のスライディングは100%カットする信頼出来る DF。
MF	6	近藤 宏樹	下田小	左足のテクニシャン。この左足から出されるパスはきっちり味方の所に出される。
DF	17	高木 辰有	下田小	愛称「タツリ」LB チームのキャプテン。チームのまとめ役としても活躍してくれて落ち着いた状況判断は群を抜いていた。
MF	20	蔦木 浩一	下田小	愛称「つたご」守備的 MF。相手の攻撃の芽もすばやくつぶしてくれる。DF としては、何度も彼に助けてもらった。
FW	21	児島 健一	下田小	愛称「こじくん」どんな体勢からでもシュートがうてる。得点能力が高い選手。
MF	22	田端 淳記	下田小	DF と FW の間に入り、確実にくさい役の仕事もこなした。
FW	23	那須 隆行	下田小	ロングキックの正確さはすごい。コーナーキックでは、彼の正確なキックで数多く得点した。
FW	24	岸 健司	下田小	左ウイング。体は小さかったが、足技が非常にうまく、彼のアシストによる得点が一番多かった気がする。
FW	25	松久 友隆	下田小	センターフォワード。点で合わせるベyingは努力の結果。
DF	26	窪田 寛	下田小	右サイドバック。それでいて一度も怪我をしなく、このポジションは一年間固定されていた。
DF	28	小泉 裕希	下田小	左サイドバック。どんなに大きい相手でも恐れず、チームに気迫が伝わって来る。
GK	29	久保田 宏	下田小	GK として一番後ろから声を出し、味方にとっては信頼出来る GK だった。
DF	30	佐々木 大輔	下田小	相手のフェイントにかからないのが特徴で、しっかりボールを見て、且つボールを奪う。基本に忠実。

1987 年当時の L のメンバー



セルジオ越後氏を囲んで (LL 当時)



発展期のたちばなキッカーズ(第10期～19期)

たちばなキッカーズ代表 永田 欣也

たちばなキッカーズ創生期後半の繁栄時代を継承した第10期から19期の活動は、その前半はLLクラス及びLクラスに於いて引き続き県、市、区主催の各種大会で常に優勝を争う強豪グループの一翼を担っており、昭和56年までは横浜市の3大会のうち、1つは必ず優勝出来るチーム力でした。この時代で一番忘れ難いのは、昭和53年度及び54年度の全日本少年サッカー大会の神奈川県大会で、二年続けて準優勝に泣いた事でした。又、この年代からJリーグ選手が二名(第11期:大場賢治、第15期:河本充弘)が出たのは、後輩の子供達に大きな憧れと目標を与えてくれました。

この年代の後半は、少年サッカーチーム数の急増、及び新興強豪チームの台頭により、前半程の成績は収められませんでした。第16期～第19期の各チーム共、横浜市の春のスポーツ少年団サッカー大会、並びに国際チビッ子サッカー大会で上位に入賞する活躍でありました。

第10期～第19期の各チーム共夫々、ユニークな子、卓越した特技を持った子、目立たぬが黙々と努力する子等、の集団でありましたが、「伸び伸びサッカー」をモットーにサッカーを楽しんでいました。中には中学校及び高校でもサッカーを続け、高校全国大会の神奈川県大会で、その年々の決勝大会出場チームの中心選手として活躍し、コーチ陣・子供達・父母・OBを熱狂させてくれたのも楽しい思い出となっています。有力高校チームの監督には、よく「たちばな出身の子供は応用力があり、教えがいがある」と言われたものですが、これもたちばな時代の「大人のサッカーではなく、自分達で考えるサッカー」に依る所が大きいと思います。

更に、この年代の特筆すべき事柄は、これまで、たちばなキッカーズのメンバーは下田小学校の学童のみで、僅かにたちばなのメンバーの引越先で友達になった子が加入するケースが2～3例あったにすぎませんが、この時代の最後の頃から、高田小から数名が加入したのを始めとし、最近では高田東小、子母口小等、その範囲も広がり、又、たちばなキッカーズのメンバーに占める割合も増加しつつあります。小学校の学童数の減少から、横浜市内の少年サッカーの各クラブ共、単一小学校の学童のみでL、LL、SL各クラスを維持するのは困難な状態になりつつありますので、たちばなキッカーズも下田小学校区外の学童の確保が一層不可欠になると思われます。

たちばなキッカーズは創立当初より、下田小学校校庭をホームグラウンドに、その数年後より高田小学校校庭をサブグラウンドとして、両小学校の諸先生方、並びに下田町及び高田町関係者のご高配の下に、練習・試合(SL及びLLクラス)に使用してきております。

一方、たちばなキッカーズはクラブ加入者全員の公式試合出場を目指し、横浜市主催の春・秋の大会には試合会場を提供して、L、LL、SL各クラス共A及びBの2チームを参加させて来ました。下田小及び高田小の校庭はLLまでの試合には対応出来ますが、Lの試合には狭すぎるため、会場確保には苦勞し、当時は、元住吉の県の警察学校空き地、或いはアルプス電気(株)のグラウンドを借用していました。その後、新日本製鐵(株)先端技術研究所(川崎市高津区井田)のグラウンド、昭和53年度からは市立日吉台西中学校、更に昭和63年度から市立高田中学校のグラウンドを、少年サッカー活動に対する深いご理解と暖かいご支援により使用させて頂ける様になりました。これよりLクラスの幹事チームの役目を果たす事が出来る事は誠に心より感謝する次第であります。

祝 たちばなキッカーズ 30周年

旧LL担当コーチ 末山 本村

私の次男が“たちばなキッカーズ”にお世話になったのは21年前からの3年間ですが、当時の父母達のすごい熱心さをいまでも思い出します。寒い冬の朝、雨あがりの校庭のあっちこちにたまった水をスポンジで吸い取らせたり砂を運んだりした事、誰言うもなくライン引きまでおやじ連がやった事など、今思えば懐かしく思います。日曜日の朝は、大抵父親が5～6名いたと思います。私は現在も時々グラウンドに顔を出しますが、今はお母さん達は多いものの、父親らしい人があまり見当たりません。お父さんもぜひグラウンドに来て、子供達のさわやかな汗を見てあげて下さい。

古い話で恐縮ですが、私にとって忘れられない思い出をちょっと紹介しましょう。昭和53年の夏、“たちばな”は全日本少年サッカー大会県大会の決勝で負け、代表を逃しました。その前年は4位でした。しかし、関東8県の2位と3位を合計し、16チームで優勝を争う関東大会出場の権利を得て、その年は群馬県藤岡市へ行きました。他の都県からは、東京の鹿西レグルスや府ロク、栃木の栗野(前年全国3位のチーム)など、名の通ったチームもいて、“たちばな”が「一番先に帰るだろう」と宿のおかみさんに言われたとの事でした。ところがどうして、あれよあれよと言う間に勝ち上がり、準決勝に進んだと言う通知に父母達はたちまち「応援に行こう」と連絡し合い、翌日の朝3時半に下田小学校に集合し、車4台 総勢15名位で群馬県まで行きました。この熱烈な応援の後押しで準決勝は逆転で勝ち、決勝では、みんなが一番やりたかった栗野をも倒して優勝しました。県大会の悔し涙を嬉し涙に変えたのです。下田に帰り着くまで車内は親子共々歓声が尽きなかったことを覚えています。

その翌年の夏は初めから優勝候補と言われ、予選を順調に勝ち上がりました。準々決勝からは藤沢の県体育センターサッカー場、午前の試合を先ず勝ち、午後の準決勝まで2時間半。真夏のカンカン照りの中をどう過ごすか? 車で10分位のところにある社宅の集会室を借りました。すぐにゴザやタオルケットが運ばれ、子供達はその上に寝そべて十分休養が出来ました。OBの父親のお世話だった事を後で知りました。おかげさまで準決勝は村岡Aに3対0の完勝でした。次の日曜日の決勝戦は、別のOBの親から激励の電報まで届いたのですが、子供達が固くなりPK負け、またしても「悔し涙」になりました。

子供の父母達だけではなく、OBやOB父母にも支えられている事を実感しました。これが“たちばな”の「財産」だと思います。これからも“たちばな”がいつまでも栄えるよう祈っています。

がんばれたたちばな !!

輝かしい優勝カップ・トロフィ・タテ



成熟期 (20期～29期)

創部から20年を経て、横浜地区のサッカーチーム数も急増し、主要大会での上位入賞が難しい時代となりました。大人のサッカーの様な至上主義チームが台頭する中、子供が主役のたちばなサッカーは「成熟期」を迎えました。

少子化が進み、子供のサッカー人口が減る中で、1993年にJリーグが発足し、サッカー人気が復活してきた時代でありました。Jリーグの影響で子供のサッカーにも高度な戦術が盛り込まれる様になった時期でもあります。

当時の戦績、チームカラーを振り返ってみました。



▲ペレと曾田監督

世界の名選手から
コーチを受ける
たちばなキッカーズ



▶ペレにドリブル



▲ペレにトラップ



▲セルジオ越後

マリニョ



▲セルジオ越後



下田小にて

第 20 期 1988 年度(昭和 63 年度)卒業生

シーズンレビュー

LL (1986 年度(昭和 61 年度))

- ・ 4 月 第 13 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会
- ・ 6 月 第 2 回港北区サッカー協会大会
- ・ 8 月 富士緑の休暇村で合宿
- ・ 8 月 第 13 回関東団地少年サッカー大会
- ・ 10 月 第 18 回横浜国際チビッ子サッカー大会
- ・ 11 月 第 6 回港北区ジュニアスポーツ大会
- ・ 1 月 第 13 回神奈川県少年サッカー大会

LL-A

- 4 勝 1 負で 1 位
- 決勝トーナメント 2 回戦敗退
- 1 回戦敗退(PK 戦負) 1 回戦敗退
- 予選リーグ 2 位、決勝トーナメント進出出来ず
- 1 勝 2 負 2 分で 5 位
- 2 勝 3 負 1 分で 5 位
- 2 回戦敗退

LL-B

- 5 負で 6 位
- 1 回戦敗退
- 予選リーグ 2 位、決勝トーナメント進出出来ず
- 1 勝 2 負 2 分で 5 位
- 2 勝 3 負 1 分で 5 位
- 2 回戦敗退

L (1988 年度(昭和 63 年度))

- ・ 1 月 第 13 回横浜少年サッカー大会(新人戦)
- ・ 2 月 藤沢市新人戦交流大会
- ・ 4 月 63 年度読売旗争奪読売少年サッカー春季大会
- ・ 4 月 第 15 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会
- ・ 5 月 第 12 回全日本少年サッカー神奈川県大会
- ・ 6 月 第 4 回港北区サッカー協会大会
- ・ 8 月 富士緑の休暇村で合宿
- ・ 8 月 第 15 回関東団地対抗少年サッカー大会
- ・ 9 月 創立 20 周年記念ガーデンフットボール大会
- ・ 10 月 第 20 回横浜国際チビッ子サッカー大会
- ・ 11 月 第 8 回港北区ジュニアスポーツ大会
- ・ 1 月 第 15 回神奈川県少年サッカー大会
- ・ 2 月 第 8 回セルジオ杯記念サッカー大会

L-A

- 1 回戦 PK 負け
- 予選リーグ 3 位、3 位パート優勝
- 一次予選リーグ 1 位、二次予選リーグ 1 位
- 決勝トーナメント 4 位
- 6 戦全勝で 1 位
- 予選リーグ 7 位
- 決勝トーナメント 2 回戦敗退
- 予選ブロック優勝、中央大会 1 回戦で GP に惜敗 (GP が県代表となる)
- 優勝
- 2 回戦敗退
- 予選ブロック 1 位
- 決勝トーナメント 2 回戦敗退
- 雨天の為、L は中止
- 3 勝 1 負 1 分で 1 位
- 予選リーグ 6 位
- 決勝トーナメント 1 回戦敗退
- 下田小学校修学旅行の為、高田小学校から 3 名を補充して試合を実施した
- 準々決勝で敗退
- 2 回戦敗退
- 予選ブロック決勝で敗退
- 3 位決定戦で駒林に PK 戦で敗退

L-B

- 予選リーグ 3 位、3 位パート優勝
- 一次予選リーグ 1 位、二次予選リーグ 1 位
- 決勝トーナメント 4 位
- 6 戦全勝で 1 位
- 予選リーグ 7 位
- 決勝トーナメント 2 回戦敗退
- 予選ブロック優勝、中央大会 1 回戦で GP に惜敗 (GP が県代表となる)
- 優勝
- 2 回戦敗退
- 予選ブロック 1 位
- 決勝トーナメント 2 回戦敗退
- 雨天の為、L は中止
- 3 勝 1 負 1 分で 1 位
- 予選リーグ 6 位
- 決勝トーナメント 1 回戦敗退
- 下田小学校修学旅行の為、高田小学校から 3 名を補充して試合を実施した
- 準々決勝で敗退
- 2 回戦敗退
- 予選ブロック決勝で敗退
- 3 位決定戦で駒林に PK 戦で敗退

チーム紹介 第 20 期生 田島 直宗

たくましく、たのしく、ちからいっぱい ばななシュートでも なんでもござれ！ 今まで忘れませんこの言葉。この言葉の通り、曾田監督をはじめ、各コーチの指導は“サッカーは楽しいスポーツ”であり、そして何よりも大切だと私が感じた事は、いつも子供達の事を考え、又、サッカーを自由にやらせて頂いた事だと考えます。曾田監督やたちばなのコーチは、私達子供達を怒って成長させるのではなく、子供達を誉め、又、それぞれの子供達の事を常に考えていただき、それぞれの子供達を大変理解して下さっていました。たちばなの指導があったからこそ、今までの私があり、今の私があり、又、これからの私があると考えます。

私は、生まれて初めてサッカーに出会ってから、毎日サッカーボールを蹴り、毎日がサッカーと

の生活でした。土曜日は全員で練習をし、日曜日は試合、その他の日は仲間を集めて練習をしていました。本当に毎日が楽しかったです。

私達第 20 期卒業生は大変チームワークがよく、チームメイトと言うよりは、家族の様な、兄弟の様な関係でした。今でも仲間とは連絡を取り合っています又、チームワークが良かったのは、私達子供達だけではなく、親も大変チームワークが良かったです。私達の親は、毎週日曜日の夜は必ず肩を並べてみんなで酒を飲んで、本当に楽しそうでした。今でも私達の親は集合して食事をしたり、肩を並べて酒を飲んだり、旅行へ行ったりしています。みな元気です(笑)。

私は現在大学 4 年生で、来春社会へ巣立ちます。仲間もそれぞれの道で一生懸命頑張っています。社会へ出て必ず大きな壁にぶちあたるとは思いますが、たちばなでの生活や、つらく苦しい試合でも頑張って勝てた事を思い出して、一生懸命頑張ります。

曾田監督をはじめ、各コーチの方々には大変お世話になり、心から感謝しております。ありがとうございました。今でも私の心にあります。たちばなキッカーズ創立 30 周年を迎え、これからも益々たちばなキッカーズが繁栄していく事を心から願っております。

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
GK	1	秋元 洋平	下田小	愛称「マモ」とても素晴らしい GK だった。彼は能力の優れた GK だけではなく、精神的にもたちばなの GK だった。マモはいつまでも私達チームの守り神だ。
DF	2	佐々木 弘一	下田小	愛称「ササ」体は大きい、運動神経が全身に行きわたっている。ドリブルはチーム No.1。サッカーセンスはチームの憧れ。ササがオーバーラップをしたら誰にも止められない。
DF	3	青木 健二	下田小	愛称「アキ」スポーツ選手としての素質に恵まれていて、反転力、走力が大変優れている。何よりもアキの笑顔は苦しい試合でもチームメイトを安心させてくれた。
DF	4	城 宏隆	下田小	愛称「カチウ」彼らしい活躍はチームの大ピンチに出る必殺タックル相手のエースを粉砕する。あのタックルは今でも忘れない。いつかまたそのタックルを見せてほしい。
MF	5	薄木 雄	下田小	愛称「タカ」ボールタッチの柔らかさが素晴らしい。PK も最高に上手だった。終始冗談が出るユーモア。タカは存在はいつもチームを楽しくさせ、サッカーを楽しくさせてくれた。
FW	6	斉藤 将人	高田小	愛称「マツ」すぐにトップキアに入る脚力。全速でドリブルしても崩れない。ディフェンス。マツの所にボールが行くと、必ずチームの得点につながっていた。
MF	7	今井 洋一	高田小	愛称「ケン」サッカー技術、バランスの保ち方、全てが安定していた。ケンは今アキがいる。遠い国から日本にいるたちばなの仲間をいつも見守っているケンに一言「Thank You」
FW	8	猪狩 浩二	高田小	愛称「カチン」落ち着いたプレーから一転して早い攻め、そして正確なフィニッシュへ、必ず得点をしてくれた。FW だけではなく、つらい時はいつも助けに DF に行ってくれた。オールラウンドプレーヤーだ。
MF	9	辻 真弘	下田小	愛称「ツジ」たちばなの牛若丸。タシキよく飛び出すスピード、センスは天性のもの。ツジへのサッカーセンスはチームの見本であった。今後はツジへの生き方もチームの見本になる事間違いない。
MF	10	田島 直宗	下田小	愛称「タシオ」いつもチームメイトの代表として仲間を助ける様に努力していた。時にはチームを支え、時には仲間に支えられてきた。たちばなあつての今までの私、今の私、これからの私だと考えます。今でも心にあります「たちばなキッカーズ」
FW	11	梅林 健治	高田小	愛称「ウメシ」ライン沿いでスピード豊かに相手に突進。いつも攻撃に絡んでくれた。FW だけではなく、粘り強く守備もやってくれた。責任感旺盛だ。ウメシのおかげでピンチもピンチと思わなかった。
DF	12	加藤 靖	下田小	愛称「カチヤン」ハードな守りと大きいキック、そしてソフトなカチヤン。守りの読みが素晴らしく、鉄壁の守備者である。大ピンチには必ずカチヤンが私達を守ってくれていた。
DF	19	中村 拓史	下田小	愛称「カチヤン」いつも仲間の事を考え、そしてチームの事を考えている選手。プレーも素晴らしく、又、チームメイトの代表として日々努力をしていた選手。
MF	20	勝田 尚義	下田小	愛称「カチヤン」フィールドを縦横無尽に駆け抜けて、チャンスを作る巧い選手。

DF	21	野崎 秀和		愛称「バマン」ディフェンスだけでなく、キを見つけて攻撃参加をするという判断力のある選手。
MF	22	工藤 崇広	下田小	愛称「バマン」中盤の中心選手。二列目からの攻撃参加は相手にとって脅威だ。
MF	23	大輪 光広	下田小	愛称「バマン」キックからの切り込みはチーム No.1。試合では多くのチャンスを作った選手。
FW	27	藤本 武志	宮前小	愛称「バマン」スピードあるドリブルから自ら得点する選手。チームにいないてはならない選手だった。
DF	28	遠藤 豊	下田小	愛称「エンヤン」とにかく確実に守備をする選手。チームのピンチを幾度も救った。
MF	30	南間 貴之	下田小	愛称「ナヤン」体型からは想像もつかない力強いプレーをする選手。そのプレーで中盤を支えた一人。
FW	31	村松 孝広	下田小	愛称「ムサシ」神出鬼没に表われ、得点を取ってしまう。相手にとって最も嫌な選手であった。
FW	32	鹿子島 光康	下田小	愛称「カゴ」とにかくキックのある選手。ボールを取られても自ら取り返しに行く選手だった。
DF	33	本山 龍祐	下田小	愛称「リュウスケ」DF にもかかわらず、フィニッシュもあり攻撃のチャンスを作る選手だった。
DF	34	小松 正博	高田小	愛称「コマヤン」小柄ながら当たりが強く、切な選手。試合が終わるまで動きは止まる事がなかった。
FW	35	大野 智有	下田小	愛称「チリ」スピードはチーム No.1。彼のドリブルを止める事の出来る DF はなかなかいないだろう。
DF		丸島 大輔	下田小	愛称「マル」小学生離れしたバレーの持ち主。そのキック力には「脱帽」としか言いようがない。
		和気 正紀		
		松山 英一郎		
		岡田 比呂樹		
		世良 貴久		

第 20 期生



第 21 期 1989 年度(平成元年度)卒業生

シーズンレビュー

LL (1987 年度(昭和 62 年度))

- ・ 4 月 第 14 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会
- ・ 5 月 創立 20 周年準備委員会組織発足
- ・ 6 月 第 3 回港北区サッカー協会大会
- ・ 8 月 富士緑の休暇村で合宿
- ・ 8 月 第 14 回関東団地対抗少年サッカー大会
- ・ 8 月 9 月 20 日 バザー開催
- ・ 10 月 第 19 回横浜国際チビッ子サッカー大会
- ・ 11 月 鶴見川(亀島橋下流)河川敷
- ・ 11 月 第 7 回港北区ジュニアスポーツ大会
- ・ 1 月 第 14 回神奈川県少年サッカー大会

LL-A

4 勝 1 負 1 分で 2 位 3 負 2 分で 5 位
決勝トーナメント 1 回戦敗退

LL-B

1 回戦敗退

1 回戦敗退

決勝トーナメント 1 回戦で惜敗

1 勝 3 負 1 分で 5 位 1 勝 5 負で 6 位
たちばな専用グラウンド整備開始
2 回戦敗退 1 回戦敗退
県予選ブロック 1 回戦敗退

L (1989 年度(平成元年度))

- ・ 1 月 第 14 回横浜少年サッカー大会(新人戦)
- ・ 4 月 第 16 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会
- ・ 5 月 第 13 回全日本少年サッカー神奈川県大会
- ・ 6 月 第 5 回港北区サッカー協会大会
- ・ 8 月 富士緑の休暇村で合宿
- ・ 10 月 第 21 回横浜国際チビッ子サッカー大会
- ・ 11 月 第 9 回港北区ジュニアスポーツ大会
- ・ 1 月 第 9 回セルジオ杯記念サッカー大会
- ・ 1 月 第 16 回神奈川県少年サッカー大会

L-A

1 回戦敗退
5 勝 1 分で 1 位 5 負で 6 位
決勝トーナメント 1 回戦で敗退

L-B

2 回戦で敗退
3 位入賞 1 回戦敗退
3 勝 1 負 2 分で 2 位 1 勝 4 負 1 分で 6 位
決勝トーナメント 1 回戦で敗退
3 位入賞 1 回戦敗退
1 次リーグ 2 位、2 位グループで 1 位
4 回戦敗退

チーム紹介 第 21 期生 吉川 元宏の母より

SL 時代は、当時やっと SL が出来た頃で、とにかく下田小学校の男の子は全員と言って良いほどサッカー少年達でした。子供の国での試合デビューの頃は、棒立ちの子も多く、かわいいものでした。田辺コーチも若々しくて、子供達をよく見て下さり、母親達も子供も生き生きしていた土日でした。

LL 時代を思い返しますと、柴田、堀部、小椋、佐々木、西平、下村、島村、本原、小嶋洋一、森、辰巳、今西、小島健一、内山、沢田、坂本、斎藤、田端、森山、三田、沼田、高橋、吉川、田中、増田、佐竹、中村、松村、広田、関根、大島、川端、杉島、山本、なつかしい名前が次々に出てきます。あどけない顔と共に……。まだまだいたと思いますが、そろそろ学習塾へ行く子供が増え、私立志望の子供達はここで全員サッカーをやめました。チームが出来なくなり、子供の心の中にも、親の心の中にも、時代の変化にそれぞれが悩む時期の頃でした。サッカーを楽しんだ足跡として名前だけでも一筆と思いました。

L の時代は、沼田、今西、内山、三田、辰巳、沢田、坂本、吉川、小島、田端、杉島、中村、山本と数少ない 6 年生が LA と LB に分けられ、子供達は戸惑いましたが、コーチの考え方があったとの事で、その中で各々がどの試合に出かけても全力でぶつかりました。あざみ野戦や横浜スポーツ少年大会、国際チビッ子など、よく走りまわり、泣き喜び、真っ黒になって親子共々すっかり疲れ果てた事や、合宿で見せるまだまだおさない表情の可愛さなど、6 年最高学年ですらそうでした。

「勝つため」のサッカーではなく、楽しむ事が一番であった様に他のサッカーチームを見て感じたものでした。今は亡き佐野コーチの思い出も、薄木コーチの思い出も今では宝物になりました。

たちばなキッカーズ 30 周年おめでとうございます。第 21 期卒業生の息子達も成人式をすませ、現在大学生の子、社会人の子、すでに一児の父親となっている者もいます。SL 時代は 100 人を越えていたたちばなキッカーズの時代でしたが、第 21 期生は SL、LL、L の時代をフルコースに過ぎた最終メンバーは 6 年生の頃には 13 名。試合がある度に誰一人休めない(休ませない)現実の中、たちばなのスケジュールはそのまま 13 人の家族のスケジュールでありました。車を出して欲しい、ラインズマンがいる、バケツ、タオル、全員が何らかの形で責任を持ってスケジュールをこなしたのを今は懐かしく思います。子供達を書いている様に、オレンジのユニフォーム姿の子供達があるまま昔の自分であって、一人一人の心の中に残っている物の大なる事が伺い知れます。

「曾田監督は元気かしら?」「大島コーチ、永田コーチ、田辺コーチは?」と 10 年経った今でもコーチは昔と変わらない、年令を感じさせない仙人達。私達母親にとって、子供に精一杯時間をかけ、気持をかぶせた大切な日々を、今本当に感謝しています。日本代表が初出場 W 杯に出た事が、これからの子供達の夢に大きな力を与え、膨らんで行くでしょう。たちばなからも世界にはばたく選手が出てくれる事を願いつつ、親子共々たちばなにいた事を誇りに思います。

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
GK	1	沼田 隆利	宮崎小	なよなよとして、これで GK が務まるかと思う身体つきだが。相手のシュートコースを読む眼がよく、あのいい動きが光る。あぶない!と思った瞬間、必ずボールに手が届いている。この一年、立派にゴールを守った。筋力がほしい。
DF	3	今西 哲也	下田小	集中力抜群。リフティングもうまいが、ボールをよく見て蹴るのでキックが正確でよく飛ぶ。敵の心が読める様になれば一段とたくましくなる。
DF	4	高橋 宗漢		
DF	5	内山 大輔	下田小	背中がまっすぐ伸びて精かん。スパーマンの素質十分。どの試合でもエンジンがフル回転するようになれば最高。サッカーをやっている時はそれに集中し、自分の技をみがけ!
MF	6	藤井 光治 (旧姓 三田)	下田小	相手のウラをとる名人。特に相手の逆をつくスローインでよくチャンスを作った。ドリブルはボールを持つ姿勢がいいので、あの体でスイスイと抜いていく。
DF	7	辰巳 輝	下田小	キックのリズムが体内にひそんでいるようだ。ジャンプヘッドも空中で力をためて打てるので威力がある。この上はドリブルに緩急をつけ、正確なキックをマスターしてもっともっとサッカーを楽しめ!
FW	8	沢田 直樹	下田小	GK から FW へのコンバートがびったり。並はずれた走力と馬力と意欲で次々と得点を重ねた「ゴールの狩人」。相手との駆け引きを覚えれば将来はばら色。
FW	9	坂本 充	下田小	いつもにこにこ天真らんまん。「ミツル」はスパーマンの代名詞、まさに神出鬼没。たった今最後尾で敵の FW を料理していたはずが、いつの間にか相手ゴール前でジャンプヘッドしている! きびしい面構えになるのは何年後だろうか。
FW	10	吉川 元宏	下田小	横浜 No.1 の強シューター。まっ芯に当たればどんな GK も反応できない。これから左足キックの強弱の使い分けが素直に出る様になれば申し分ない。サッカーは足だけでなく全身のバランスとリズムが大切。それが身につく様になれば希に見る大物。
FW	11	小島 健一	下田小	やさしい心と体の、一見サッカーと無縁のよう。ところがどうして、切れ味のいい技の持ち主。くろうと好みのフェイントとあのいい動きで楽しませてくれた。県大会でのドリブル押し 1 点も光る! スキも水準以上。あとは筋力と意欲のみ。
DF	18	田端 祐介	下田小	6 年生わずか 4 人という状況の中でキャプテンとしてその苦労は大変だったと思う。FW タイプだが、試合がよく見えているのでミッドフィールダーとして何度もチームのピンチを救ってくれた。ご苦労さん。
FW	19	杉島 聡	宮前平小	チーム 1 の頑張り屋、小さな身体全体がファイトの塊の様なプレーをする。どんな大きな相手でも粘り強さと勇気をもって、厳しい状況を見せられた。これからは楽しくサッカーを続けてほしい。

FW	20	中村 洋介	下田小	普段はおとなしいが、相手 FW に対して前へ出て勝負する時はすごく頼もしい。キックがあり、特に左足のキックは抜群だ。正確さが出てくればもっといいのだが。これからは頑張ってもらいたい。
DF	21	山本 圭一	宮崎小	地味な存在だが、チームの要であり、そのセンスと技術なら A チームでも十分にやっていけたと思う。今後はプレーにスピードがつけば、今以上にサッカーが楽しくてしょうがない状態になるにちがいない。
		布藤 淳之介 (旧姓 柴田)	下田小	

各メンバーの思い出

沼田 隆利：たちばな KC に入ったのは、近所の友達に誘われた小学 4 年生の時だったと思います。自分の家は、たちばな KC とは全く無縁な場所にあり、自転車で片道 40~50 分もかけて下田小学校まで通いました。小 4、小 5 の時は B チームにいたので、小 6 になった時に A チームの GK として背番号 1 をもらえた時は正直、かなり嬉しかった。この 3 年間を通じて数多くの友達ができ、合宿などでは先輩、後輩などの人間関係も勉強になったと思います。でもたちばなに入り、得る事が出来た一番の収穫は、時間をかけて通い、きつい練習にも耐えた事で健康的な体力が作れ、精神的にも強くなった点だと思います。たちばな KC を卒業し、9 年も経ちましたがこの経験が今でも、そしてこれからも役立つ事でしょう。

今西 哲也：たちばな KC には小学 3 年の時に入団しました。最初はボールの扱いが上手く出来なかったのですが、練習を重ねるにつれ徐々に上手になっていきました。その練習の成果か、僕は 1 年後、LL-B のキャプテンに選ばれました。A に上がれなかったのは残念でしたが、キャプテンになれたので良かったです。そして、2 年が経ち、ようやく僕も A に上り、合宿ではリフティングで賞を取るまで上達しました。あんなにへたくそだったリフティングで賞を取った事がすごく嬉しかったです。今でもリフティングはボールがあるとなまにやります。これからもサッカーに関心を持ち、そして色々な事にチャレンジしていきたいと思っています。今、たちばな KC でサッカーをしている皆さん。何事も諦めず頑張ってください。そして、チームメイトだった皆、本当に楽しい思い出をありがとうございました。

内山 大輔：たちばな KC に入部したきっかけは、いつも買い物の帰りに小学校の前を通ると子供達の元気な声が聞こえ、校門の中に入ってみるとオレンジのユニフォームを着た子供が楽しそうにサッカーをやっていました。自分も皆と一緒にサッカーをやりたいと思い、たちばなに入りました。サッカーをやり始めて行くうちに、だんだん好きになってきて、たちばな卒業後、中学、高校、今現在もサッカーを続けています。サッカーで学んだ事は「何事もチーム全員で協力しあえば必ず良い結果が生れる」と言う事です。

辰巳 輝：今は日本でもサッカーは大人気。初のワールドカップ出場、結果はどうあれよく頑張ったと思う。今でもたちばなを通して中、高とサッカーをやっていたらフランスのワールドカップに立っている様な気がしました。

沢田 直樹：僕は高校 3 年間まで計 11 年サッカーをしました。転勤で下田小学校に来たのは小学校 2 年の時で、その時たちばな KC に入れてもらいました。千葉の館山へサッカーの試合に行った事が、今でも一番印象に残っています。とにかく小学校の頃のサッカーは楽しかった。中学校、高校と上がるにつれ、苦しかった事ばかりが思い出されるけれど、今でもふと思い出して声を掛けたくなる友の名前は、たちばな KC の頃の友人です。当時の友人が何といても一番です。

坂本 充：私はたちばなでのサッカーを通じて色々な事を学びました。皆で協力して一つの目標に向かって頑張る事、友人の大切さ、努力する事。それら全ては私にとって今でも必要なものです。これからもずっと大切にしていきたいと思っています。

吉川 元宏：私はサッカーと出会ってから、はや 13 年目になりました。そのスタート地点がたちばな KC でした。サッカーの事など、何も知らなかった私に、仲間を通してサッカーの楽しさを知ったチームでもありました。一つのボールを追う事で苦しかったり、楽しんだ事を今も忘れる事はありません。6 年生ではキャプテンを努めさせて頂き、館山での遠征では本当に皆で頑張り、2 位で優勝という好成績を残す事が出来ました。コーチや保護者の皆さんにも多くの声援ありがとうございました。たくましくたくのしく、ちからいっぱい、バナナシュートでもなんでもござれ! たちばなキッカーズ

小島 健一：小学校から家が近い事もあって、時々たちばな KC のユニフォームを着ている小学生を見ては懐かしく思っています。私がたちばな KC でサッカーをやり始めたのは、小学 2 年生位だったと思います。小学生の時にサッカーをやっていた事は今でもとても思い出深く、そして、色々な経験をさせて頂きました。思い出の中の一つとして覚えているのが試合の時です。対戦するチームというのはとても強く、そして大きく見えたりしたものです。それとは逆に、チームの皆が頼もしく思えたりと、いつもと少し違った空気を味わえた事を印象強く覚えています。たちばな KC で過ごした時間は今でも一番の思い出となっています。

田端 祐介：思い出と言え、やはり最後の年、6 年生の時にキャプテンとして LB のチームを率いた事です。正直、自分にこの立場が務まるだろうか？そんな無謀な話があったのか？と思いました。実際にやってみると、試合の結果などそっこのけの味方チームであり、仲間意識とやる気のみを武器にして戦っていた様な気がします。ただ、その二つさえあれば、何とかチームとして出来るという事を学びとる事が出来ました。中学、高校とささやかながらサッカーを続ける事が出来たのも、たちばなでの楽しむサッカー、和のサッカーが基盤となっていたからだだと思います。楽しい思い出をありがとうございました。

中村 洋介：私がたちばな KC に入ったのは、小学校 3 年の夏でした。それから小学校を卒業するまでの約 2 年半の間に、多くの事を学び、そして経験しました。とても暑かった夏合宿、皆であたたかい豚汁を食べた事、試合に勝った事、負けた事など、どれもとてもいい思い出です。最後に、お世話になった監督、コーチの方々、チームメイトの皆さん、ありがとうございました。

第 21 期生

富士緑の休暇村での夏合宿



第 22 期 1990 年度(平成 2 年度)卒業生

シーズンレビュー

SL (1986 年度(昭和 61 年度))

- ・ 4 月 第 13 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 3 勝 3 負で 5 位
- ・ 6 月 第 2 回港北区サッカー協会大会 4 位入賞
- ・ 8 月 第 13 回関東団地少年サッカー大会 3 位入賞
- ・ 10 月 第 18 回横浜国際チビッ子サッカー大会 3 勝 4 負で 4 位
- ・ 11 月 第 6 回港北区ジュニアスポーツ大会

LL (1988 年度(昭和 63 年度))

- | | | | |
|--------|------------------------|-------------------------------------|---------------------|
| ・ 4 月 | 第 15 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 | 4 勝 1 負で 2 位
決勝トーナメント 1 回戦で敗退 | 予選リーグ 5 位
1 回戦敗退 |
| ・ 8 月 | 第 4 回港北区サッカー協会大会 | 2 回戦敗退 | 1 回戦敗退 |
| ・ 8 月 | 富士緑の休暇村で合宿 | | |
| ・ 8 月 | 第 15 回関東団地対抗少年サッカー大会 | 予選ブロック 3 位 | |
| ・ 9 月 | 創立 20 周年記念ガーデンフットボール大会 | 雨天の為、LL は中止 | |
| ・ 10 月 | 第 20 回横浜国際チビッ子サッカー大会 | 1 勝 2 負 2 分で 4 位
決勝トーナメント 2 回戦敗退 | 予選リーグ 1 位 |
| ・ 11 月 | 第 8 回港北区ジュニアスポーツ大会 | 3 回戦で敗退 | 1 回戦敗退 |
| ・ 1 月 | 第 15 回神奈川県少年サッカー大会 | 1 回戦敗退 | — |

L (1990 年度(平成 2 年度))

- | | | | |
|--------|------------------------|--|--------------|
| ・ 1 月 | 第 15 回横浜少年サッカー大会(新人戦) | 1 回戦敗退 | — |
| ・ 4 月 | 第 17 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 | 4 勝 2 敗で 3 位 | 1 勝 5 敗で 6 位 |
| ・ 5 月 | 第 14 回全日本少年サッカー神奈川県大会 | 予選ブロック優勝で中央大会へ
中央大会 1 回戦敗退
全日本大会の為棄権 | 1 回戦敗退 |
| ・ 6 月 | 第 6 回港北区サッカー協会大会 | 2 勝 3 敗 1 分で 4 位 | 2 勝 4 敗で 5 位 |
| ・ 8 月 | 富士緑の休暇村で合宿 | | |
| ・ 10 月 | 第 22 回横浜国際チビッ子サッカー大会 | 2 回戦で PK 戦負け | 2 回戦敗退 |
| ・ 11 月 | 第 10 回港北区ジュニアスポーツ大会 | 3 回戦敗退 | — |
| ・ 1 月 | 第 17 回神奈川県少年サッカー大会 | | |
| ・ 2 月 | 第 10 回セルジオ杯記念サッカー大会 | | |

チーム紹介 第 22 期生 佐藤 敏久の父(佐藤 敬)より

「たちばなキッカーズ」30 周年を迎え心からお慶び申し上げます。

22 期生 18 名はたちばなキッカーズを卒業して 7 年、20 歳になりそれぞれの道を一生懸命歩んでおります。22 期生程、秋元キャプテンを中心にまとまったチームはないと自負しております。その一番印象深く残っているのが卒業を間近に控えた第 17 回神奈川県少年サッカー選手権大会でした。文庫 FC との試合、体調の悪かった秋元が元気がなく前半はいいところなし、それでもイレブンがガンバリ 0 対 0 で引き分けました。だが後半は変わりました。応援のお父さんお母さん、サブそしてイレブンが一つになり相手を圧倒、終わってみれば 2 対 0 の圧勝でした。いつもこの時の気持ちを心の片隅に持っているのが 22 期生なのです。

心に残る楽しい思い出はやはり夏の合宿です。班別対抗で連帯感と対抗心が生まれ、SL から L まで優勝に向かってまっしぐら、優勝して喜びに浸る者、負けて悔し涙にくれる者、でもお昼のお父さんお母さんたちの心づくしのちよっぴりお焦げの入ったカレーライスとスイカ、又最後の夜の仮装大会とほんとうに楽しい合宿でした。

私たちが卒業して J リーグが生まれ、日本代表のワールドカップ出場、又日本でのワールドカップ開催、とますますサッカー熱は盛り上がるばかりです。「たちばなキッカーズ」の今後の益々の繁栄とご活躍をお祈り申し上げます。

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
MF	10	秋元 純	下田小	低学年の時からたちばなのエースとして皆から期待され、頼りにされてきた。ヘディング、胸トラップ、キック等の基本技やワンパスなどの基本動作は小学生段階を越えているが、ひざの痛みもあり、試合ではまだ力を出し切っていない。あせらず海外遠征の経験も生かして大選手への道を登れ！
MF	6	内田 耕平	下田小	5年生の時から、速さと思い切りのいいプレーとスローインのうまさで活躍したが、このところ状況判断が格段に進歩し、シュートもうまくなった。反射神経も筋力も素質は十分。持ち前の早い頭の回転と気力が一つになれば申し分ない。
DF	5	鈴木 悠介	下田小	手足がどんどん伸びる時期で、速いプレーがまだ出ないが、あの柔らかいボールさばきと素晴らしい得点感覚は将来に大きな期待を抱かせる。今のうちに基本技術をしっかりマスターしてほしい。
FW	9	佐藤 敏久		5年生の夏、6年の代役で出場、大活躍してから急速に力を付ける。たちばなのボイントゲッター、救世主。勝負所で機敏に敵のウラを突き冷静にシュートを決める。あのクバーなキッカーはあの丸顔からは想像し難い。早く大きくなれ！
MF	7	関 桂介	下田小	サッカーが楽しくてしょうがない。いつも自分のアイデアでサッカーをやる最もたちばならしい選手。強敵長津田トライアックスの攻撃の起点、俊足リキに仕事をさせなかったプレーは記憶に鮮やか。今後も自主性を失わずに大成を期待。
		井関 裕哉	井田小	
DF	2	春原 康之	下田小	「真ん中の守りは俺にまかせろ！」と相手FWに思い切り身体を寄せ、バリーで立ち向かう典型的スッパ。キックが強く、コーンキックも高く飛ぶ様になった。敵の攻撃をすばやく読み、次から次へと危ない場所をカバーする様になればDFとして最高。
DF	3	久保田 旭	下田小	足腰のしっかりした恵まれた体格。前でダッシュして相手ボールを奪い取るたくましさ特徴。キックの威力も抜群。あれを生かしてもっとシュートを打ってほしい。そのためにイングラントばりのドリブルで突進する技を磨け！
FW	12	松永 範導	下田小	合宿で出したスローインのたちばな記録にはびっくりした。君の筋力は素晴らしい。力の配分もよかったのだろう。蹴る、走るだけがサッカーではない。敵と競り合いながら反射神経を磨け、素質を生かせ！
MF	8	中野 貴宏		個性豊かなサッカーセンス。フリーでボールを持った時の無心のプレーは見ていて楽しい。得点感覚にも独特なものを持つ。肥り気味になってきたのが気になる。サッカー以外の運動も積極的に活発にやって体をしぼれ！
		小山 優		
DF	13	横山 正幸	下田小	距離の出るキック力とボールタッチの柔らかさが持ち味。絶妙なコーナーキックとピンチから一転カウンター攻撃への最大の武器となった。これから筋力がつけば軽快さが出てくるだろう。
FW	11	上江 亮	下田小	おとなしい、地味、得点力もいま一つ。それなのに君には存在感がある。大事な時に大事な所へ動き、やるべき事はちゃんとやっている。もっと思い切りのいいプレーができれば力が倍増する。沢山食べ、体もたくましくなりたいな。
		田尻 正和		
DF	4	田賀糸 朋		たちばな No.1 の明るい男。カッコよさはないが、すぐトップキアに入るスピードと抜群の集中力が売り物。本番の試合で力が出る。サッカーは足だけでなく、全身を巧妙に芸術的に使うスポーツである事を分かってくれば将来の大物。
DF	14	森木 智也	下田小	バリーを生かした厳しいマークで相手フォワードを恐れさせ、見ている物にまでその気迫が迫ってくる。オーバーラップからのロングシュートを打てる様になったら最高だ。
FW	15	田川 浩幸	下田小	直線的であるが、ライン沿いから相手ゴールに切り込んでいくドリブルは、相手DFを楽に振り切るスピードがある。練習熱心で、陸上選手のような大きなストライクの走り方が特徴だ。
DF	16	小松 弘典	下田小	体は小さいが、ゲームに集中している時は素晴らしい働きをする。特に、一対一の守りは絶対だ。6年の夏以降はキックもついて、スピードにバリーが加わり信頼度増した。
GK	1	小蒲 公太	下田小	クリリした眼がトレードマーク。あの眼でシュートを正確に読み、体を張って守る。やられた！と思った瞬間、体を投げ出して防ぐ。GKの要素として一番大切な勇敢さでたちばなの伝統を守った。ジャンプ力が付き、手がもう少し伸びれば言う事なし。
GK	17	平田 順基	下田小	「たちばなのバリー」瞬発力と反射神経が優れており、余裕のプレーか、必死なのか、ときどきドリブルで攻め上がる。見ている方はハラハラだが、本人は真面目にプレーしているようだ。
MF	31	高島 大輔	下田小	攻めてよし、守ってよしのオールラウンドプレーで、人一倍負けん気が強く、どんな試合でも最後まで動き回る。地をはうロングシュートはカッコいい。これからは、切れるフェイントの開発に努力してほしい。

1987年当時のLLメンバー



第22期生



第 23 期 1991 年度(平成 3 年度)卒業生

シーズンレビュー

SL (1987 年度(昭和 62 年度))

- ・ 4 月 第 14 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 4 勝 1 敗 2 分で得失点差で 3 位
- ・ 6 月 第 3 回港北区サッカー協会大会 3 位入賞
- ・ 10 月 第 19 回横浜国際チビッ子サッカー大会 3 勝 1 敗 1 分で 2 位
この年は 1 位しか決勝トーナメントに進出出来ず、涙をのむ
- ・ 11 月 第 7 回港北区ジュニアスポーツ大会 準優勝(優勝はつばさ)

LL (1989 年度(平成元年度))

- ・ 4 月 第 16 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 LL-A 4 勝 1 負で 2 位 LL-B 5 負で 6 位
決勝トーナメント 2 回戦敗退
- ・ 6 月 第 5 回港北区サッカー協会大会 1 回戦敗退 1 回戦敗退
- ・ 8 月 富士緑の休暇村で合宿
- ・ 10 月 第 21 回横浜国際チビッ子サッカー大会 5 負で 6 位 6 負で 7 位
- ・ 11 月 第 9 回港北区ジュニアスポーツ大会 4 回戦敗退 1 回戦敗退
- ・ 1 月 第 16 回神奈川県少年サッカー大会 2 回戦敗退 -

L (1991 年度(平成 3 年度))

- ・ 1 月 第 16 回横浜少年サッカー大会(新人戦) L-A 3 回戦で PK 戦負け L-B -
- ・ 4 月 第 18 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 4 勝 2 敗 1 分で 3 位
- ・ 5 月 第 15 回全日本少年サッカー神奈川県大会 予選 1 回戦敗退
- ・ 6 月 第 7 回港北区サッカー協会大会 2 回戦敗退 1 回戦敗退
- ・ 8 月 富士緑の休暇村で合宿
- ・ 10 月 第 23 回横浜国際チビッ子サッカー大会 4 勝 2 敗で 3 位 1 勝 5 敗で 7 位
- ・ 11 月 第 11 回港北区ジュニアスポーツ大会 準優勝
- ・ 1 月 第 18 回神奈川県少年サッカー大会 2 回戦敗退 -
- ・ 2 月 第 11 回セルジオ杯記念サッカー大会

チーム紹介 第 23 期生 木津 謙太郎

小学校時代の 6 年間で振り返ってみて思い出されるのが、まず第 1 にこのチームでサッカーをしていたと言う事だと思います。その位、今となってはなつかしい、いい思い出となっています。また、このチームでいろいろな人間関係を築きあげられた事にも感謝したいと思います。そして、SL、LL と思いおこしてみると、この頃はまだリフティングで 100 回を超す様な者もおらず、特にずば抜けた選手がいなかった様に思えますが、チーム一丸となって数々の勝利を手に入れてきた様に思えます。また、L 時代になると僕ら 6 年生は 11 人に満たないという状況の中、メンバー構成などに苦労しましたが、皆、それぞれ自分自身のポジションを責任を持ってこなしてくれてとても助かったし、大きな混乱もありませんでした。

この頃になると、皆それぞれの特徴を出してくれる様になり、チームとしてもまとまりが出てきた様に感じられました。得点パターンなどは、MF からのスルーパス、ロングパスなどにスピードあふれる FW 陣が決めるという形がほとんどでした。また、DF 陣も気合の入った守りで何度となく助けてくれ、とても頼り甲斐がありました。

今から考えてみると、小学校時代は何も考えずにただボールを蹴っているだけで、戦術などもなく、ただ単純にサッカーを楽しくやらせてくれたのが良かったと思います。監督、コーチも試合中は特に目立った指示も出さずに、僕らに自由にやらせてくれ、自分達で考えてプレーする事を学ばせてくれたのかなと思います。自分自身も、中学・高校とサッカーを続けていたのですが、それ位

の年代になってくると、今度は勝負にこだわる様になってきて、ただ楽しくやるだけではすまされなくなりました。そんな状況の中にあっても、何らかの形で小学校の時からやってきた事などが生かされていたのかなと思いました。

僕らの代は、小学校を卒業してから、半数以上の人間が違う中学に進学したので、皆バラバラになってしまったのですが、それぞれの中学でサッカーにたずさわってくれたのが嬉しく思えました。最後になりましたが、6 年間もの長い間面倒を見て下さった監督以下、コーチ、父母の方々には皆を代表して感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
GK	1	遠藤 崇	下田小	愛称「エンちゃん」 いつのまにか手足が逞しく伸びた。もやしの様ではなく針金の様。スローイン、キック共に抜群の No.1。性格も大らかで、鍛えがいのある素材。これから本当の意欲が出れば、理想の GK 像が浮かぶ。
DF	2	伊地知 俊行	下田小	愛称「フツ」 きゃしゃな体つきと温和な性格で目立たない存在だったが、6 年になり、右 DF として厳しい守りを会得した。本番に強く、頼りがいのある DF となった。最も進歩した選手の一人。
DF	4	荘司 一磨	下田小	愛称「マル」 ストップらしいハートな守りに徹する。気合の入った時のプレーは素晴らしい。DF の要としてファイト一杯の声をし出す。日頃ボールに触る回数を増やし、プレーに余裕が出れば格段の進歩が期待出来る。
DF	5	小橋 史和	下田小	愛称「かくん」 DF を希望しただけあり、守りに絶対の自信を持つ。危険地帯への帰りが早く、絶対的ピンチの瞬間には足が伸びてカットしている。味方 DF や MF に指示する声欲しい。
FW	6	藤本 康志	宮前小	愛称「フジモ」 左サイドから強引に突破して、強いシュートを打つ。破壊力で 5 年から頭角を表し、ジャンプヘッドも打点が高く空中戦にも強いので中盤の守りも頑張った。今後、大きなフェイントを覚え、キックが正確になればすごい選手になる!!
MF	7	小橋 史典	下田小	愛称「ソウジ」 プレーのスピードが素晴らしい。反射神経が豊か。こぼれ球を見逃さず素早く寄ってシュートする速さは最高の魅力。さらに相手のウラをつくフェイントとキープ力を身につければ鬼に金棒。
MF	8	金高 俊介	久末小	愛称「デカバシ」 5 年生までは休みも多く、頼りない感じがあったが、6 年で変身。別人の様に闘争心が出る。強敵相手にファイトが出る。相手ボールをカットする時の体の寄せ、危険を察知する読み、チャンスで上がる速さなど素晴らしい。日頃の練習で個人技を高めた。
FW	9	辻 剛史	下田小	愛称「ツジ」 ゴール前の鋭い動きとスピードが持味。日曜日はテストと重なり持てる素質を発揮出来なかったが、30m 走 No.1 の地位は誰にも譲らず。今後、思い切りのいいプレーを心掛け、サッカーを楽しんでほしい。
FW	10	木津 謙太郎	下田小	愛称「ケンちゃん」 たちばなのワマン。キープ力、フェイント、シュート共に抜群で、特に振り向きざまのハーフボレーシュートは天下一品。今後は判断力を肥やしスルーパスなど一段高いサッカーを目指せ。
FW	11	浜田 雄貴	下田小	愛称「ユキ」 5 年までは右ウイングとしてバランス良いフェイントでのドリブル突破が売り物だったが、6 年後半からフェイントが一段と柔らかくなり一皮むけた。ボールから目を離してキープし、ワンタックも通す。シュートも正確になった。今後は体力を付け、競り合いに強くなれば申し分ない。
		依田 剛	下田小	
		渡辺 哲平	下田小	
		沼田 拓也	下田小	
		横山 士朗	下田小	
		山本 玲		
		内山 寛基		
		上村 秀明		
		三井 周太郎		
		石井 崇暁		
		榎本 大輝		
		鶴田 智文		



第16回横浜少年サッカー大会
(新人戦) 横浜スタジアムにて

第11回港北区
ジュニアスポーツ大会
L-A 準優勝



第24期 1992年度(平成4年度)卒業生

シーズンレビュー

SL (1988年度(昭和63年度))

- ・ 4月 第15回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 5勝1分で7位
- ・ 8月 第4回港北区サッカー協会大会 1回戦敗退
- ・ 9月 創立20周年記念ガーデンフットボール大会 雨天であったが、SLはアムゼル、つばさ、大曾根、たちげなの4チームで実施
- ・ 10月 第20回横浜国際チビッ子サッカー大会 6勝2分で2位
決勝トーナメント1回戦敗退
- ・ 11月 第8回港北区ジュニアスポーツ大会 1回戦敗退

LL (1990年度(平成2年度))

- | | LL-A | LL-B |
|---------------------------|-----------------------------------|---------|
| ・ 4月 第17回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 | 1勝2負2分で5位 | 1勝5負で6位 |
| ・ 6月 第6回港北区サッカー協会大会 | 3位入賞 | 1回戦敗退 |
| ・ 8月 富士緑の休暇村で合宿 | | |
| ・ 10月 第22回横浜国際チビッ子サッカー大会 | 4勝1分で予選1位
優勝(決勝戦は緑少年少女に2対1で勝利) | |
| ・ 11月 第10回港北区ジュニアスポーツ大会 | 1回戦敗退 | 2回戦敗退 |
| ・ 1月 第17回神奈川県少年サッカー大会 | 3回戦敗退(準決勝に進出出来ず) | |

L (1992年度(平成4年度))

- | | L-A | L-B |
|--|---------------------------|-------|
| ・ 1月 第17回横浜少年サッカー大会(新人戦) | 1回戦敗退 | — |
| ・ 4月 本年度も昨年に続き下田小校庭が校舎建て替えの為使用出来ず | | |
| ・ 4月 第19回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 | 3勝3負1分で5位 | |
| ・ 5月 第16回全日本少年サッカー神奈川県大会 | 2回戦でPK戦負け | — |
| ・ 6月 第8回港北区サッカー協会大会 | 優勝 | 1回戦敗退 |
| ・ 8月 富士急河口湖ロッジで合宿
富士緑の休暇村で実施予定であったが、下田小の臨海学校(5年生)が重なり急きょ変更。 | | |
| ・ 10月 第24回横浜国際チビッ子サッカー大会 | 7戦全勝で予選1位
決勝トーナメント3位入賞 | 7負で8位 |
| ・ 11月 第12回港北区ジュニアスポーツ大会 | 優勝(春・秋初連覇) | 2回戦敗退 |
| ・ 1月 第19回神奈川県少年サッカー大会 | 2回戦敗退 | — |
| ・ 2月 第12回セルジオ杯記念サッカー大会 | | |

チーム紹介 第24期生 杉本 光広の母(杉本 由香子)より

なんといっても忘れられないのは、国際チビッ子大会準決勝と秋の港北大大会決勝に出場したあのタフな一日でしょう。大きな困難を乗り越えての出場でした。それは、国際チビッ子大会に勝ち進んでいる最中、空中戦に強い長身のストッパー春原君が両手首を骨折、それに追討ちをかける様に、我がチームの守護神 GK 浦田君が港北大大会途中で指を骨折してしまいました。

勝ち上がっていったある試合当日、監督から「今日の GK は突然だが DF の堀口君に交代する」と言う指示。堀口君は我がチームの LL の時に国際チビッ子大会で優勝を果たした時の GK でした。しかし、二年ぶりの GK という突然の指示に、堀口君と堀口母の動揺と不安は想像に余りあるもの

でした。そして彼は、その大役を三試合果たしてくれました。

あの日はそんな中で迎えられたのです。朝、車で常盤台公園での国際チビッ子大会へ、かつてのたちばなの大エースである DF 矢嶋君の兄もずっとコーチをして付いて来てくれました。その日、GK 浦田君は監督に「今日は僕がチームを守る」と言って、痛々しく巻いていた包帯を私達の目の前で取って、ゴールへ向って行きました。浦田君と浦田母の勇気に選手の団結も高まり、そして見事二試合こなし三位入賞、表彰式を終えそのまま買っておいた昼食を監督、コーチ、選手、父母、みんな車の移動中に済ませ、今度は港北大大会決勝戦へ、そしてドラマティックな PK 戦で優勝を手中に収めました。この年は春の港北大大会でも優勝し、二連覇を果たす事が出来たのです。まさにたちばなの気質を地でいっている様な、あまり欲があるとは思えない、どちらかと言うと仲良く楽しくといった感じの子供達とその父母達がこんな一年を経験出来たのは、大きな友情を通しての協調と団結だったと思っています。

書き出したらきりがない程子供達にとっても、父母達にとっても、色々な大切な思い出があります。小学校卒業後の母達のカラオケ集会。子供達もいまだに、集まれるメンバーで時々サッカーをしています。来年高校卒業後は、又みんなでチームを作ろうという話もあると最近耳にしました。こんなステキな仲間と出会えたたちばなキッカーズに、そして、あたたかく見守って下さった監督、コーチの皆様に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
GK	2	浦田 一毅	下田小	身長もぐんぐん伸びたが、精神的成長も素晴らしい。合宿の班対抗での優勝からまた一段と頼もしくなった。筋力が未発達で不安もあったが、精神力と冷静な読みで堂々とプレーし、数多くのピンチを救い、皆の期待に答えた。
DF	3	谷嶋 正樹	下田小	肥満タイプと思っていたのだが、6年で別人になった。たくましく速く、1対1に絶対強い。オフサイドトラップのリーダー。キックの強さ、スローインのうまさも中学生なみ。直接狙う CK もよく曲がり、GK を泣かす。肉体的にも精神的にも頭一つ出ているが、今はどのポジションもこなす意欲もほしい。
MF	4	小田 俊輔	下田小	練習ではふざけて皆を笑わす名人だが得点感覚は素晴らしい。キックも正確、合宿も班対抗で得点王になったし、対外試合でもよく貴重なゴールを奪った。もう一つたくましさが出て、敵との競り合いに強くなれば最高。
DF	5	春原 健司	下田小	たちばなのかけがえのないスター。長身を生かして空中戦にも強く、敵の攻めを寸断した。低い弾道のシュートも威力がある。国際チビッ子の決勝トナメントで負傷したのは、たちばなにとっても痛手であったが、休んでいる間、サッカーを見て学ぶ機会が多く、何かをつかんだはず。
DF	6	箕輪 亮佑	高田小	第一の特徴は重心が低い事。体をうまく預けて相手 FW のスピードを殺す。キープ力もあり、それを過信して突破されハラハラさせる愛嬌もある。概ねいい位置で守り、楽にボールを処理しているのは読みがいいから。キックの正確さが課題。
FW	7	竹原 石裕	下田小	しなやかな上半身を使った大きなフェイントが魅力。美しい体の線が崩れる事がない。下半身が強いせいか、センタリングも素晴らしい。近い将来、ここ一番という時、小刻みなステップで強引にバックラインを突破する爆発力が出てくるのを待ちたい。
MF	8	池野 遊	下田小	グラウンドいっぱい動き回るあの軽快した動きは最高に頼もしい。体が小さいのに競り合いで跳ね飛ばされる事がない。キックも速く、PK にも強い。その強い体と気性は適性十分。相手のウラを取る事に興味が出れば、格段の進歩が期待出来る。
FW	9	森 和也	下田小	体が大きく重そうになったのに、逆に細かい高度なテクニックが使える様になった。特にシュートを打つタイミングが抜群。キックも正確。これからうんと体を絞って、行動範囲も広くなれば申し分ない。

FW	10	杉本 光広	高田小	たちばなの攻撃のエース。細くて小さいのに、試合時のドリブル、キープ力、シュート力、気合、練習時のスタミナ、集中力、好奇心など抜群(サッカーが面白くてしょうがない!)。今後は、キープしないで一発で抜くフェイントなど速いプレー、スペースの使い方など、より高度な技術に挑戦してほしい。
FW	11	浜田 慶大	下田小	体に恵まれないが、ゴール前での嗅覚、スペース感覚は鋭い。リフティングなどボール扱いは自然でリズムもいい。スタミナもある。課題は突破力。持ち前の軽いステップで自由自在に動き、ワウを多様するなどして相手バックラインを突破して欲しい。
DF	12	中村 光伸	下田小	いつもニコニコ人柄が良く、チームメートの信頼も厚い。強力なインステップキックが武器。秋以降、中盤でプレッシャーをかけるのもきつくなり、厳しさが出て来た。最終ラインへの戻りが速くなれば言う事なし。
FW	13	小関 正浩	下田小	スピードなら L で No.1。合宿以降最高にバムアップし、相手ディフェンス陣を振り切って行く突破力は A チームで十分に通用するだけの力を身に付けた。空中戦に強くなってくれたらと思う。
FW	14	野崎 大輔	下田小	中盤の底で責任感のあるいい働きをしてくれたが、もともとは FW の選手、得点感覚は素晴らしい。練習量が増えれば目に見えて伸びる素質あり。さらに体を鍛えて自信を大きく持って欲しい。
MF	15	西田 圭吾	下田小	チームのキャプテンとして、1年間本当にご苦労さんでした。チームの全員によく気を配り、ケガ一つありませんでした。体格は恵まれたものがあり、キック力もあるが、一試合70分に動ける体力を身に付けて欲しい。
DF	16	村岡 健一	下田小	練習を休む事なく、6年生になってから精神的に大きく成長した。消極的なところがなくなり、試合にも積極的に出たいというようになり、事実粘り強い守りを見せてくれる様になった。
FW	17	小谷 剛史	下田小	5年生で入って来て、ベテランの練習にいきなりジャンプヘッドをやったのにはビックリした。この1年間チームから離れていたが、中学に行ったら目一杯体を動かしてほしい。
DF	18	堀口 勝	下田小	北海道からたくましく帰って来た。強い当たりと長い足で、相手 FW をサイドラインへと追い詰め、よくピンチを救ってくれた。長身をいかしたヘッドの競り合いにも強い。キックの正確さなど基礎技術が上達すれば FW でもやれそう。
FW	27	大鍛治 大介	下田小	チームの点取り屋で、ムードメーカー。どんな時でも精一杯のプレーをしてくれる。合宿の班対抗でも彼への声援が多かった。見ている者に何かを期待させてくれる選手である。
DF	30	染森 宏二	下田小	6年生の夏前に入ってきたのだが、体格、スピードなどに潜在的に恵まれており、せめて5年生からチーム入りしていたら、と悔やまれる。今後はゲームを経験しながら、試合が見える様になってほしい。
MF	31	石川 直樹	下田小	染森君と一緒に、チームに入ってきたのが遅く、練習ではさほど目立っているわけではないが、ゲームになるとハムする選手で、体をはったプレーを身上とし、時々スライディングタックルも見せてくれた。
MF	32	岩倉 聡	東横学園	秋の国際チビッ子大会中に大鍛治君の薦めでチーム入りし、学校が皆と異なっていたが、明るさで馴れてくれた。体は小さいがその分細かなドリブルは高度なものを持っている。



第24回横浜国際
チビッ子サッカー大会
L-A 3位入賞

第25期 1993年度(平成5年度)卒業生

シーズンレビュー

SL (1989年度(平成元年度))

- ・ 4月 第16回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 1勝3負2分で5位
- ・ 6月 第5回港北区サッカー協会大会 1回戦敗退
- ・ 10月 第21回横浜国際チビッ子サッカー大会 1勝3負4分で6位
- ・ 11月 第9回港北区ジュニアスポーツ大会 1回戦敗退

LL (1991年度(平成3年度))

- ・ 4月 第18回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 1勝4負1分で6位
- ・ 6月 第7回港北区サッカー協会大会 4位入賞(3位決定戦で駒林Bに敗退)
- ・ 8月 富士緑の休暇村で合宿
- ・ 10月 第23回横浜国際チビッ子サッカー大会 1勝4負1分で6位
- ・ 11月 第11回港北区ジュニアスポーツ大会 3回戦敗退
- ・ 1月 第18回神奈川県少年サッカー大会 2回戦敗退

LL (人数が少なく1チーム)

L (1993年度(平成5年度))

- | | L-A | L-B |
|---------------------------|-------------|-------|
| ・ 1月 第18回横浜少年サッカー大会(新人戦) | 1回戦敗退 | — |
| ・ 4月 第20回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 | 3勝4負で5位 | 7負で8位 |
| ・ 5月 第17回全日本少年サッカー神奈川県大会 | 1回戦敗退 | — |
| ・ 6月 第9回港北区サッカー協会大会 | 1回戦敗退(PK負け) | 2回戦敗退 |
| ・ 8月 富士緑の休暇村で合宿 | | |
| ・ 8月 第20回関東団地対抗少年サッカー大会 | 2回戦敗退 | — |
| ・ 10月 第25回横浜国際チビッ子サッカー大会 | 2勝3負1分で4位 | 5負1分 |
| ・ 11月 第13回港北区ジュニアスポーツ大会 | 1回戦敗退 | 1回戦敗退 |
| ・ 1月 第20回神奈川県少年サッカー大会 | 1回戦敗退 | — |
| ・ 2月 第13回セルジオ杯記念サッカー大会 | | |

チーム紹介 第25期生 渡辺 大策の父(渡辺 邦雄)より

LL時代に引き続き少人数で2チームに分けられるかどうかの瀬戸際だったが、6年生になって数名が入会し、A、B2チームに分けられた。この年初めて6年生が全員Aチームとなった。子供達にとっては、同学年としての仲間意識が高まったのではないかと思います。反面、競争心がなく、必死になって頑張るという姿は余りみられなかった。それが試合の結果となって表われ、勝つ事の経験を余り味わえなかったチームでもある。Jリーグが発足した年で、周りはJリーグで熱くなっていた。Jリーグの選手になりたいと胸をふくらませた子供も中にはいた事だろう。

あれから5年が経ち、今でもサッカーを続けている子は数少ない。だが、あの時一緒にサッカーをやっていた事は誰もが忘れず、みんなサッカーを愛した子供達である。ライバル意識は持たなかったけれども、仲間意識は強かったチームである。

今度、誰からともなく声をかけあって、またサッカーをして遊ぶに違いない。

第12回港北区ジュニアスポーツ大会 L-A 優勝(春・秋初連覇)



第24回横浜国際チビッ子サッカー大会 L-A 3位入賞



メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
GK/FW	2	真田 和宏	下田小	GK と FW のどちらでもやれる。決してあわてない。意外と長いリーチが相手を圧倒する。ファイトがのると、生き生きとしてびっくりする様なファインプレーが出る。いつも目の前の事に全力でぶつかり、持てる素質を全開せよ！
DF	3	塚本 伸男	下田小	DF としていつも集中して守り、体力の無さを十分カバーした。特に早めに相手を追い詰める時は好調で、思い切った上がりからの意外性のあるロングシュートもよかった。これから体づくりに心掛けよ！
GK	4	大八木 紘之	高田小	いつもはっきり自分の意思を表現する。さわやか！試合中大きい声で、皆に指示する役目の GK に最適。GK としては体格に恵まれないが、調子がいい時はゴールの方が小さく見える！
DF	5	松久保 信介	下田小	サッカーをやりながら、体が大きく強くなった。リフティングもキックも集中力の持続が素晴らしい。注意された事はすぐ実行出来る。ファイトも充分。あとはサッカーをみがくこと。いいプレーを見て盗め！
MF	6	阿南 誠	下田小	足首が柔らかく、インステップキックが素晴らしい。喘息で練習量が少なかったが、スポーツをやりながら体調と気力を高めていくのが最高。サッカーの楽しみ方を自分で工夫せよ！
MF	7	中川 綾	下田小	体が小さく、おとなしくて、目立たない存在であったが、5 年の後半から急速に上達した。体のバランスが良く、状況判断も良く動きもいい。あとは体力を付けて自信を持つ事。
FW	8	渡辺 大策	下田小	この一年、キャプテンとしてサッカーに集中してきた。合宿の班対抗では、逆転優勝をして自信を深めた。だが、チームをまとめる事がどんなに難しいかを体験した。サッカーは、自分のテクニックだけでは勝てない。中学ではもう一段高い戦術を覚えよう！
DF	9	長尾 健太郎	下田小	6 年になった FW から DF にコンバート、粘り強い頑張りと言面目さが生きたと思う。上背もあるシェディングも強い。後方から声もよく出る。チームを引っ張っていった一人である。もっと集中すればまだまだ上達する。目標を高く！
MF	10	持丸 純也	下田小	ゴールへ向って走り、何が何でもシュートする積極性が魅力。すばしっこさもスタミナも背筋も最高。だが、仲間とワークを決めたりする協調性と冷静さも必要。リカールの様な選手を目指せ！
FW	11	田端 祥太	下田小	ボールを持つ姿勢がよく、急発進、急停止、右に左に相手を抜き去る素質は十分。試合でもっとチャレンジせよ。リーダーの一人としていつもチームワークを心掛けている。あとは粘り強さと意欲だけ！
MF	27	九鬼 準	高田小	名前(はやぶさ)と一致するたくましいスピードの持ち主。トップギアに入ってもバランスが崩れない。反射神経も最高。サッカーに最適な素質をどの様に生かすか？もっとボールに親しみ、まず、ドリブルでは誰にも負けない力をつけよ！
DF	39	久保田 光	下田小	たちばなに入ってからまだやっとな半年。短距離は抜群に速いし、体格は大人なみ。性格も素直だ。遅れはすぐに取り戻せる。中学入学後も、この恵まれた素質を十分生かして、また試合を見て学び、しっかりサッカーを楽しんでほしい！



第7回港北区
サッカー協会大会
LL 4位入賞

1989年当時のSLメンバー



第25期生



第 26 期 1994 年度(平成 6 年度)卒業生

シーズンレビュー

SL (1990 年度(平成 2 年度))

- ・ 4 月 第 17 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 3 負 3 分
- ・ 6 月 第 6 回港北区サッカー協会大会 1 回戦敗退
- ・ 7 月 GP サッカーフェスティバル 2 年生大会 予選リーグ 4 位
- ・ 10 月 第 22 回横浜国際チビッ子サッカー大会 3 勝 3 負 1 分で 4 位
- ・ 11 月 第 10 回港北区ジュニアスポーツ大会 1 回戦敗退

LL (1992 年度(平成 4 年度))

- ・ 4 月 第 19 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 6 負で 7 位
- ・ 6 月 第 8 回港北区サッカー協会大会 2 回戦敗退
- ・ 8 月 富士急河口湖ロッジで合宿
富士緑の休暇村で実施予定であったが、下田小の臨海学校(5 年生)が重なり急きょ変更。
- ・ 10 月 第 24 回横浜国際チビッ子サッカー大会 4 勝 3 負で 4 位
- ・ 11 月 第 12 回港北区ジュニアスポーツ大会 1 回戦敗退
- ・ 1 月 第 19 回神奈川県少年サッカー大会 2 回戦敗退

LL-A

- 6 負で 7 位
- 2 回戦敗退
- 4 勝 3 負で 4 位
- 1 回戦敗退
- 2 回戦敗退

LL-B

- 6 負で 7 位
- 1 回戦敗退
- 7 負で 8 位
- 1 回戦敗退
-

L (1994 年度(平成 6 年度))

- ・ 1 月 第 19 回横浜少年サッカー大会(新人戦) 1 回戦敗退
- ・ 4 月 第 21 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 4 勝 1 負 1 分で 3 位
- ・ 5 月 第 18 回全日本少年サッカー神奈川県大会 予選準決勝で敗退
- ・ 6 月 第 10 回港北区サッカー協会大会 準優勝(城郷に完敗)
- ・ 8 月 富士緑の休暇村で合宿
- ・ 10 月 第 26 回横浜国際チビッ子サッカー大会 2 勝 2 負 2 分で 4 位
- ・ 11 月 第 14 回港北区ジュニアスポーツ大会 準々決勝で城郷に負
- ・ 11 月 第 14 回小田原カップフェスティバル グループ 2 位で決勝大会進出ならず
- ・ 1 月 第 21 回神奈川県少年サッカー大会 1 回戦 PK 戦で敗退
- ・ 2 月 第 14 回セルジオ杯記念サッカー大会 —

L-A

- 1 回戦敗退
- 4 勝 1 負 1 分で 3 位
- 予選準決勝で敗退
- 準優勝(城郷に完敗)
- 2 勝 2 負 2 分で 4 位
- 準々決勝で城郷に負
- グループ 2 位で決勝大会進出ならず
- 1 回戦 PK 戦で敗退
-

L-B

-
- 7 負で 8 位
-
- 1 回戦敗退
- 6 負で 7 位
- 1 回戦敗退
-
-
-

チーム紹介 第 26 期生 菅野 力鳴

僕等のチームメートは、個性豊かな仲間の集まりで、それぞれが自分らしさを発揮し、時にはぶつかる事もあったが、「みんなサッカー大好きだ」という点においては一致していた。

たちばなに SL から卒業までお世話になったのは、僕を含め 4 人で、ほとんどが 4、5 年からサッカーを始めた仲間、最初はチームワークがうまくいかなくて、出る試合負けてばかりだった様な気がする。それが最後の頃には息もぴったり合って、「僕達も結構強いんだな…」と思える様になって来て、一試合、一試合がとても楽しかった。

曾田監督はいつも僕等に自由にプレーをさせてくれて、見守っていてくれた。自分で考え、自分の思い通りにプレーが出来た時の満足感は今でも忘れられない。

現在、僕は高校生になりサッカーを続けているが、たちばなキッカーズで得た大切なもの……は、いつも僕の心の中にしまっている。

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
GK	1	大井 真作	下田小	低学年の時から GK に専心。テクニックは中学生なみ。6 年になって頭上を抜かれる不安も消える。「後ろの声は天の声」、もっと指示の声を聞かせれば最高。GK は守りだけでなく、攻撃の起点と思え！
DF	2	天野 順平	下田小	2 年前の春、L に入ってから来た時の印象が強い。ボールに向かう気持が常に一直線！ その前向きな姿勢があってこそその味方だ。今後は、それプラス「遊びごろのに入ったテクニック」でまた一段と楽しいサッカーをやる。
DF	3	九鬼 優士	高田小	背筋が真っ直ぐで、細かい事は気にしない超男性的。競り合いには上も下もめっぽう強い。たまにボールもあるが、当面の課題は、抜群に強いヘッドを攻撃に生かす事、相手 FW のストートを殺す守り。将来有望！
DF	4	岩田 和久	下田小	足の速さも、キックの強さも、フェイントも、これという武器(特徴)を持たないのにプレーにそつがない。サッカーセンスは最高。相手のスペース(危険地帯)をすばやくつぶす判断力と捨て身の動きは見事！
MF	5	杉山 満	下田小	6 年になりすっかり変身した。自分勝手なプレーから卒業？し、スルースのタイミングも覚えた。キックは正確になり、FK や CK を度々ものにした。ここきて守備にも意欲が見える。次々と向上するのは積極性があるから。このまま伸びて欲しい！
MF	6	山口 洋樹	駒林小	強気なレジスタンス精神と繊細な心を持て合わせ持ち、個性的なプレーが次々と出る。危ないとなればペナルティエリアまで下がって体を張るし、チャンスには牛若丸の様に相手ゴールに迫る。早く大きくなれ！
FW	7	松田 賢幸	下田小	足腰が強い上、すぐにストートに乗れるサッカー選手向きの恵まれた体質。思い切りのいいプレーが出る時、目覚ましい活躍をする。真面目で自分で自分を抑える傾向がある。いいプレーをイメージして自分のサッカーを追求せよ。
MF	8	佐野 正樹	高田小	練習量が少ないはずなのに、状況が読めるのか動きがよく、非力な体力を十分カバーしている。DF としても、体の寄せ方が速く、そつなく守る。今後もクラブなサッカーを目指せ！
FW	9	九鬼 優飛	高田小	5 年から入って来たが僅か 2 年足らずで恵まれた資質が見えてきた。背筋を立てたまの自然なフェイント、対敵動作中は膝も折れる。ジャンプヘッドもカッコいい。「俺が絶対入れてやる！」という執念はいつ出るか！
MF	10	菅野 力鳴	下田小	選手とコーチの両方の立場に目を向けるリーダー。集中力抜群で、スルースのドリブルもキックも No.1。しかし、サッカーは「遊び」もほしい。集中力+イメージ。自分の頭に浮かぶイメージで創造的なサッカーが出せれば最高！
DF	14	古川 貴浩	下田小	普段は真面目でおとなしいが、ゲームでは 1 対 1 の守りに強く、自分の出来ることを確実にゲームに出して行くなかなかの努力家である。大きな体を生かせばもっとスルースの大きなサッカー出来る。合宿後の膝痛のために、秋以降の大事な大会に参加出来なかったのが残念だ。
MF	15	福岡 聡	下田小	足の速さを生かし、左サイドからライン沿いのオーバーラップを期待してサイドバックにしたが、本人はフォワードが好きなんだ。しかし、どんな状況からでも、どの位置からでも攻守の切り替えを早くするには、足の速い、ボールの持てるディフェンダーが望まれているのである。
FW	16	山辺 恵一郎	下田小	一つ一つのプレーはカッコいいわけではないが、どんな試合でも精一杯のプレーをしてくれた。合宿での活躍を思い出せば分かるが、フリーな位置で味方からのパスが来ると、相手との間にスリと体を入れ、回転するだけで敵をかわしてドリブルからロングシュートを見せてくれた。
MF	17	篠原 啓輔	下田小	攻めてよし、守ってよしのオールラウンドプレイヤーで、技術的にも A チームでやれる力は十分あった。足の速さと前後半フルに動けるスタミナがあり、素質は十分だ。今後は敵を確実に振り切るフェイントを身に付け、もう一ランク上のサッカーを楽しめる様に努力してほしい。
DF	32	徳永 晋也	下田小	この一年間で成長を一番期待した。瞬発力、ジャンプ力など運動能力が抜群で選手としての素質は十分である。今後はどの道を選択しても、素質を生かすには、もっと積極性と研究心を持ってもらいたい。更に期待する。
FW	33	高杉 久志	高田小	6 年の合宿前に入った為に、サッカーのキャリアについては判らないが、個性的なサッカーセンスを持っている。中盤をやるとバスターク、トップをやれば正確なインテックキックと豊かな感性を持っており、今後は楽しみだが、肥り気味が気になる。サッカー以外の走る運動を積極的にやって体を絞れ。

第 27 期 1995 年度(平成 7 年度)卒業生

シーズンレビュー

SL (1991 年度(平成 3 年度))

- ・ 4 月 第 18 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 1 分け 3 負、2 不明
- ・ 6 月 第 7 回港北区サッカー協会大会 2 回戦敗退
- ・ 7 月 GP サッカーフェスティバル 2 年生大会 予選リーグ 3 位、3 位トーナメント 2 回戦で敗退
- ・ 10 月 第 23 回横浜国際チビッ子サッカー大会 2 勝 4 負 1 分け 1 不戦勝、1 不明
- ・ 11 月 第 11 回港北区ジュニアスポーツ大会 1 回戦敗退

LL (1993 年度(平成 5 年度))

- ・ 4 月 第 20 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 LL-A 3 勝 1 負 2 分で 3 位 LL-B 6 負で 7 位
- ・ 6 月 第 9 回港北区サッカー協会大会 準優勝(優勝は城郷) 1 回戦敗退
- ・ 8 月 93 年関東団地サッカー大会 2 回戦敗退 -
- ・ 8 月 富士緑の休暇村で合宿
- ・ 10 月 第 25 回横浜国際チビッ子サッカー大会 2 勝 2 負 2 分で 4 位 1 勝 5 負で 6 位
- ・ 11 月 第 13 回港北区ジュニアスポーツ大会 準々決勝で敗退 2 回戦敗退
- ・ 1 月 第 20 回神奈川県少年サッカー大会 準決勝で敗退 -

L (1995 年度(平成 7 年度))

- ・ 1 月 第 20 回横浜少年サッカー大会(新人戦) L-A 1 回戦敗退 L-B -
- ・ 4 月 第 22 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 4 勝 1 負 1 分で 2 位 1 勝 5 負で 6 位
- ・ 5 月 第 19 回全日本少年サッカー神奈川県大会 決勝トーナメント 1 回戦敗退(PK 戦負け)
- ・ 6 月 第 11 回港北区サッカー協会大会 グループ決勝で敗退 -
- ・ 8 月 富士緑の休暇村で合宿 3 位(準決勝で城郷に負) 2 回戦敗退
- ・ 10 月 第 27 回横浜国際チビッ子サッカー大会 3 勝 3 負で 4 位 5 負 1 分で 7 位
- ・ 11 月 第 15 回港北区ジュニアスポーツ大会 1 回戦敗退 1 回戦 PK 戦で敗退
- ・ 1 月 第 22 回神奈川県少年サッカー大会 1 回戦敗退 -
- ・ 2 月 第 15 回セルジオ杯記念サッカー大会

チーム紹介 第 27 期生 小瀬村 大亮

戦績としては、あまり良い結果が残せませんでした。A、B 共に仲良く、楽しくサッカーをする事が出来たと思います。しかし、時にはコーチ達をがっかりさせてしまう様な事もあったと思います。練習をふざけ半分でやっていたり、勝とうという気持ちが見られない試合をやったり、と色々ありました。それでも、チーム全体の気持ちを通い、それが一つになった時は良い結果が出せた事が多かったと思います。それでも負けてしまった時、それぞれ皆が、励まし合えたチームだったと思います。

何より、コーチ達が伸び伸びと、自由にサッカーをやらせてくれたので、皆生き生きと、自分のプレーが出来て、とても良かったと思います。

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
GK	1	渡辺 啓太	下田小	ボールに向かい、真正面を取る。あの気力はすごい。秋以降判断力が早くなり、守備範囲も広がる。ボールをこぼす癖は、練習を重ねて指が強くなれば少なくなる。体も大きくなりそう。GK の良いプレーを数多く見て、技を盗み、自分のものにしよう!
DF	2	北島 秀樹	下田小	思い切りのいい突進力でボールする。スローはたちばな No.1! ロングスローで度々チャンスを作る。早い攻撃参加も目立ち、MF もやれそう。課題は正確なパスと冷静な守り。これらをクリアすれば期待大。



第 10 回港北区
サッカー協会大会
L-A 準優勝



夏期合宿の各賞受賞者



第 14 回
セルジオ越後杯
サッカー大会

DF	3	阿南 慶	下田小	センターバック。守備力中心のチームの要であり、5年生の多いチームのキャプテンとして皆をよくまとめ頑張ってくれた。この経験を生かして欲しい。
DF	4	小蒲 文郎	下田小	無口で控え目、素直に指示に従うたちばなでは少ないタイプ。だが、内に秘めた力は十分。バックラインでのプレーは確実で、こぼれ球をキープし、落ち着いてパスを出す。ピンチには大きく切り替える。体格もいい。今後は体の芯を鍛え、堂々とプレーして欲しい!
FW	5	小谷 篤史	下田小	昔のマトーナの様に走り出したら止まらない。急停止するだけでフェイントが大きくなる。だが、ドリブルにも工夫が必要。相手との間合いを覚えれば何人でも抜けそう。ただマトーナはパスを出すのが最高にうまい。テレビで見てその場面をイメージせよ!
DF	6	小川 大武	高田小	ストッパー。サッカーは荒削りだが、強靱な背筋力と瞬発力は今後が大いに楽しみだ。精神的にも優しい顔に似合わず気が強く、何事にも挫けることなく向って行くタイプだ。
MF	7	成瀬 真一	下田小	サイドハーフ。6年生になって成長が目覚ましく、1対1の守りに強く、確実にポジジョンを取って思っていたが、体調を悪くして、大事な大会に出られなかったのが残念だ。ヘディングがうまく、ピンチを救う。
MF	8	内山 和也	下田小	5年から6年にかけて格段に進歩。来るパスを迎えに行く動きも速く、ワンパスの狙いもよく、キックの振りも速い。体のバランスも良くなった。これで自己満足する事なく、目標を高く持ちたい。精神的成長も期待する!
FW	9	松久保 直樹	下田小	立ち足の膝が柔らかで、ボールタッチに無理がない。方向転換がスムーズ、スピードもある。もっとシュートを失敗を恐れずガンガン打て。そうすれば逆サイドへのパスもうまくなる。4年生の時のサッカーの様な走りを出せ!
MF	10	小瀬村 大亮	下田小	こだわりのない性格。対外試合でもマイペースでプレーする。5年の後半から安定したキープ力を発揮。中盤の守備はしつこく、相手の攻撃を寸断する。最近はジャンプヘットも目立つ。あとは決定的なキープとゴロで合わずシュートを期待したい!
FW	11	小西 翼	高田小	低学年の時からNo.1のインテリゲンター。ゴールへの執念がすごい。ワンタッチで相手の裏を取る。ヘットシュートもうまい。体負けて動けない事もあるが、それをしのいで新しい技が生れる。反則で対応したら成長は止まる。技のスピードをみがけ!
FW	12	永田 勝利	高田小	5年生から入って来て、キリッは浅いが、ゲームの中心であるセンターハーフとして活躍した。サッカー選手として、その資質はかなり高い。今後は確実に相手を抜くフェイントを身に付ける事。
MF	13	羽田野 慶太	高田小	サイドハーフ。6年の後半になってから急激にキック力がついて、積極的になった。ディフェンス面が身につけば攻撃力にもっと幅が出てくると思う。今の気持で楽しくサッカーを続けて欲しい。
GK	14	坂川 光平	高田小	夏合宿からゴールキーパーにコンバートしたが、チームとしては勿論、本人にとってもプラスだったと思う。相手を恐れない勇気が一番で、体もガッツリしており、今後は楽しみだ。

第27期のL-Aメンバー



第28期 1996年度(平成8年度)卒業生

シーズンレビュー

SL (1992年度(平成4年度))

- ・4月 第19回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 予選8チーム中4位
 - ・6月 第8回港北区サッカー協会大会 3回戦敗退(4位)
 - ・7月 GPサッカーフェスティバル2年生大会 予選リーグ3位、3位グループで3位
 - ・8月 富士急河口湖ロッジで合宿 SLから小野、尾崎、昆、緒方、堀内、細井の6名が参加
- 富士緑の休暇村で実施予定であったが、下田小の臨海学校(5年生)が重なり急きょ変更。
- ・10月 第24回横浜国際チビッ子サッカー大会 予選リーグ2位、決勝トーナメント1回戦敗退
 - ・11月 第12回港北区ジュニアスポーツ大会 3位入賞(参加12チーム)

LL (1994年度(平成6年度))

- ・4月 第21回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 LL-A 4勝2負1分で4位 LL-B 6勝1分で8位
- ・6月 第10回港北区サッカー協会大会 LL-A 優勝 LL-B 1回戦敗退
- ・8月 富士緑の休暇村で合宿
- ・10月 第26回横浜国際チビッ子サッカー大会 LL-A 3勝1負2分で3位 LL-B 5勝1分で7位
- ・11月 第14回港北区ジュニアスポーツ大会 LL-A 1回戦PK戦で敗退 LL-B 1回戦敗退
- ・1月 第21回神奈川県少年サッカー大会 LL-A 1回戦PK戦で敗退 LL-B -

L (1996年度(平成8年度))

- ・1月 第21回横浜少年サッカー大会(新人戦) L-A 1回戦敗退 L-B -
- ・4月 第23回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 L-A 4勝1負で3位 L-B 5負で6位
- ・5月 第20回全日本少年サッカー神奈川県大会 L-A 1回戦敗退 L-B -
- ・6月 第12回港北区サッカー協会大会 L-A 1回戦PK戦で敗退 L-B 1回戦敗退
- ・8月 富士緑の休暇村で合宿
- ・10月 第28回横浜国際チビッ子サッカー大会 L-A 6戦全勝で1位 L-B 5勝1分で7位
- ・11月 第16回港北区ジュニアスポーツ大会 L-A 決勝トーナメント1回戦敗退 L-B 3位入賞 1回戦敗退
- ・1月 戸塚少年SC招待読売杯 L-A 準優勝(16チーム参加) L-B -
- ・1月 第23回神奈川県少年サッカー大会 L-A 1回戦敗退 L-B -
- ・2月 第16回セルジオ杯記念サッカー大会

チーム紹介 第28期生 横山 隆太郎

僕達の“たちばなキッカーズ”時代はちょうどJリーグが始まった時と重なって、日本でものすごいサッカーブームが起きました。僕達もSLの頃からプロのゲームを見に行き、サッカーのスピードや、体を激しくぶつけ合って、ボールを取り合うプレーにびっくりしました。「サッカーってすごいな」これが皆の感想でした。そして、自分達も朝早くから夜遅くまで、主に公園の中央公園に集って、ほこりまみれになってボールを追っていました(その頃、下田小学校は新校舎を建設中で校庭は使えなかった)。だから、たちばなの練習も高田小・中や新日鉄グラウンド、あすなろグラウンドを利用していました。

メンバーの入会の時期はバラバラですが、SLの終わってからLLに移る頃、ほぼチームの形が整っ

て来て、試合や練習に、僕達も親達もものすごく熱中しました。その時のコーチは、大島コーチ、村松コーチ、緒方コーチでした。コーチは優しく励ましてくれたり、誉めてくれる事もありましたが、試合中は大きな声で僕達を注意し続けていました。

「たちばなかたまるな!」「たちばな集中!集中しろ!」「逆サイドを使うんだ!」「オープンスペースを生かせ!」「こらこら!」

今でもコーチの大声が耳に残っています。初めはコーチの指示がよく分からない事が多く、皆どうやったら良いのか自信がなくて、足が止まってしまう事もありましたが、そのうちコーチから怒られる回数が増えるごとに僕達のプレーもだんだんサッカーらしくなって来た様で、試合が楽しくなりました。ここで僕達のチームメートで仲良くサッカーをした仲間のうち、飛び抜けて上手で、その頃Jリーグのサテライト組織(ジュニア)に移った二人を紹介します。

初めは、緒方隆人君。体も大きく、パワーも抜群で、数回のテストでヴェルディに入りました。たちばな SL 時代、すでにグラウンドではひととき目立つメンバーで、技術的にも相手のコーチ達を驚かせていました。もう一人は長尾慎二郎君。足が速くてボールさばきがうまい。MF や FW にぴったりのプレイヤーでフリューゲルスに入りました。彼も相手チームのコーチをうならせるセンスの持主で、のびのびとしたプレーが目立ちました。

僕達も5年生になるといよいよLで頑張る時が来ました。チームはかなりまとまった機動力のあるチームだったと思います。6年生に小西先輩というすごいストライカーがいたので、点が取れるチームでした。僕達とはとにかく先輩達の取ってくれる点を守ってがむしゃらに闘いました。試合では、大きな大会で勝利を得た事もあれば、意外な取りこぼしもあってサッカーの難しさも経験しました。

6年生になるといよいよ僕達のチームになり、責任も大きくなりました。たちばなの先輩達が残した記録を塗り変える様なチーム作りをしなければなりません、残念ながら得点力が弱くなり、厳しい試合が続きました。それでも試合運びを大切に、他のどこの強力なチームにも負けない位よく練習をしました。たちばなキッカーズでは勝つ喜びはもちろんですが、負けた悔し涙も思いっきり流してサッカーを楽しみました。

クラブ外でもチームメートは一緒でした。それだけ仲間意識が強く、先生やお母さん達からも「いつも一緒に、悪い事をしていても皆でかばい合うから困るわ」と言われる位、チームワークだけは抜群でした。

第24回横浜国際チビッ子サッカー大会にて (SL 当時)



メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
GK	1	長田 孟	下田小	ゲームをする度にキパー技術を身に付けて、チームを支えてくれた。長身、気が強く、負けず嫌い。
GK	2	佐藤 洸	下田小	難しいキパーの役目も黙々と努めてくれた。練習でキック力が強くなったし、フォームもすごくきれい。
MF	3	石井 智	高田小	チームの明るい男。練習や試合でも思いっきり走り廻って楽しくみんなを引っ張ってくれた。
DF	4	庄司 壮志	下田小	軽快な動きと、怪我を恐れないファイトで何度もチームのピンチを救った。足も速く、相手のマークをはずすのがうまい。
DF	5	鳥見 寛	下田小	性格はおとなしいけれどプレーは積極的。相手の動きを見て、走り廻ってチャンスを作ろうとがんばった。
MF	6	新井 健太郎	新吉田小	いつも一生懸命ボールを追って相手の勢いを止めようとした。サッカーの激しさに負けないファイトの持主。
MF	7	白石 健也	下田小	バックスの役目を誰よりもよく知っているチーム冷静な男。大きな体を器用に使って敵の突進をつぶした。
FW	8	昆 恵介	中川小	足が速く、SL から LL 時代は FW を務めた。途中で転校して参加出来なくなっても最後まで「たちばな」を忘れずにいてくれた。
FW	9	鈴木 健之	下田小	チームの俊足で、一気にゴール前に飛び込んでいくガッツのあるプレイヤー。負けず嫌いの性格はサッカーにぴったり。
MF	10	横山 隆太郎	下田小	サッカーが好きで無我夢中で練習や試合に参加した。強い相手に負けずに向っていくサッカーの大切さを身に付け様とした。
FW	11	小野 佑樹	高田小	すごいガッツのかたまりのプレイヤー。汗まみれになって、猛烈にボールを追っていく姿は本当のFW だ。
GK	12	金指 健太	下田小	SL の時代からキパーの厳しさに挑戦した。つらい役目だったけれど、黙々とやりとげてゴールを守った。
DF	13	菅田 堅之	下田小	どんな相手に対しても一生懸命バックスの役目を果たしてゲームを有利に運ぼうとがんばり続けた。
		緒方 隆人	下田小	L の時代にヴェルディに移籍。テクニック、パワー共に申し分なく、中盤のキーマンとして活躍した。
		長尾 慎二郎	下田小	LL の時代にフリューゲルスに移籍。スピードがあり、ボールコントロールが抜群。廻りがよく見えており、左足からのスルース、センタリングは絶妙。



1992 年当時の
SL メンバー



1994年当時の
LLメンバー



横浜スタジアムでの
横浜少年サッカー
大会(新人戦)



第28期生

第16回港北区ジュニアスポーツ大会 L-A 3位入賞

第29期 1997年度(平成9年度)卒業生

シーズンレビュー

SL (1993年度(平成5年度))

- | | | |
|-------|----------------------|--------------------|
| ・ 4月 | 第20回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 | 予選8チーム中6位 |
| ・ 6月 | 第9回港北区サッカー協会大会 | 4位入賞(参加17チーム) |
| ・ 7月 | GP サッカーフェスティバル2年生大会 | 大雨で到着が遅れ、初日に棄権 |
| ・ 8月 | 富士緑の休暇村で合宿 | SLから堀内、細井、鷺沢、矢戸が参加 |
| ・ 10月 | 第25回横浜国際チビッ子サッカー大会 | 予選7チーム中4位 |
| ・ 11月 | 第13回港北区ジュニアスポーツ大会 | 3位入賞(参加19チーム) |

LL (1995年度(平成7年度))

- | | | | |
|-------|----------------------|-----------------------|----------------|
| ・ 4月 | 第22回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 | LL-A 2勝2負2分で5位 | LL-B 1勝2負2分で4位 |
| ・ 6月 | 第11回港北区サッカー協会大会 | 優勝(2年連続優勝) | 1回戦敗退 |
| ・ 8月 | 富士緑の休暇村で合宿 | | |
| ・ 10月 | 第27回横浜国際チビッ子サッカー大会 | 4勝1分で1位 | 5負で6位 |
| ・ 11月 | 第15回港北区ジュニアスポーツ大会 | 決勝トーナメント準々決勝で帷子にPK戦負け | |
| ・ 1月 | 第22回神奈川県少年サッカー大会 | 準々決勝で城郷に負 | 1回戦PK戦で敗退 |
| ・ 4月 | 第1回東急カップちびっこフットサル大会 | 2回戦敗退 | — |
| | | 3位(参加32チーム) | — |

L (1997年度(平成9年度))

- | | | | |
|-------|--|---------------|---------|
| ・ 1月 | 第22回横浜少年サッカー大会(新人戦) | L-A 2回戦敗退 | L-B — |
| ・ 4月 | 第24回横浜市春季少年サッカー大会 | 4勝2負で3位 | 6負で7位 |
| | この年から大会の名称が変更となり、木村和司杯と副題も付く | | |
| ・ 5月 | 第21回全日本少年サッカー神奈川県大会 | 2回戦敗退 | — |
| ・ 6月 | 第13回港北区サッカー協会大会 | 3位入賞(参加17チーム) | 1回戦敗退 |
| ・ 7月 | 7月13日(日)に創立30周年記念式典資金集めの為にバザー開催、収益金約40万円 | | |
| ・ 8月 | 富士緑の休暇村で合宿 | | |
| ・ 10月 | 第29回横浜国際チビッ子サッカー大会 | 2勝2負2分で4位 | 3勝3負で4位 |
| ・ 11月 | 第1回港北区区民サッカー大会 | 2回戦敗退 | 1回戦敗退 |
| ・ 1月 | 戸塚少年SC招待読売杯 | | |
| ・ 1月 | 第24回神奈川県少年サッカー大会 | 1回戦敗退 | — |
| ・ 2月 | 創立30周年準備委員会組織発足、コーチが主体となり開催準備を実施する事とする | | |
| ・ 2月 | 第17回セルジオ杯記念サッカー大会 | | |

チーム紹介 第29期生 堀内 慶太の母(堀内 裕加子)より

我が29期の始まりは、たった9人でした(それも小粒ぞろい……笑)

幸か不幸か、SL、LL、Lと通してキャプテンという大役を頂いた事が、この29期のカラーを作ってしまったかもしれませんが、……何と言ってもお祭り好きの学年だった事は間違いありません。何かにつけてはみんなで集って、しかも母親だけではなく、父親の参加も本当に多かった事は今でも良い思い出であると共に、家族同士の付き合いが、子供達のチームワークにまで影響し、本当に感謝しています。父親参加が多い事は、この学年からコーチが3人も輩出されている事でおわかり

かと思ひます。

さて、そういう親達の子供ですから、チームワークの良さは No.1 と言っても過言ではないでしょう。2 年生の初めての遠征は、厚木の GP 戦でした。日頃の行ないが良すぎて大雨となり、車を何台か連ねてトランシーバーを各車に積んでワクワクして出かけたものの、途中で中止になる程で、そのことはパネルの写真が物語っています。3 年生では、一旦 A や B に分かれたものの、着実に練習を積んだのでしょう、4 年生で一つのチームに戻った春の港北大会は 6 年間を通して忘れられない試合の一つになりました。宿敵 駒林を相手に、取られて取っての 5-4 で優勝を飾ってくれたのです。この時とったビデオには、グラウンドの土と青い空しか写ってなくて、まるでラジオの様に親達の必死の声援のみで、今でも笑えるビデオです。延長戦で優勝が決まった瞬間、子供達の喜びと同じ位に親達が飛び上って喜んだのを思い出します。もちろん、この夜は祝賀会でした。

6 年生になった時は 9 人で始まったチームも 21 人になっていました。A も B も 6 年生で一杯です。でもそれがかえって 6 年生を一つにしてくれました。全員がスタッフとして自然に最後の年らしく盛り上げて頂いたおかげで、合宿も、バザーも、たちばな杯も良い思い出ばかりです。残り少なくなった年明けには、6 年のみの試合がずーっと続いて大変でしたけれども、最後までイヤな顔もせず協力して頂いた事に、この場を借りて感謝したいと思います。卒団式では、子供達との思い出を替え歌にして歌った、「♪夜空ノムコウ」は胸が一杯でした。おまけに、卒団記念旅行として、久能山へ行けた事も、お祭り好きチームには何よりの締めくくりでした。

不況だの、競争だのと暗い世の中で、たちばなを通して子供達だけでなく、家族同士が一つになり、親子共々二度と味わえない小学生時代を過ごせた事は最高の宝物です。監督ならびに、コーチの方々とこれからのたちばなキッカーズの御繁栄をたちばな OB として応援していきたいと思ひます。30 周年本当におめでとうございます。

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
GK	1	徳永 哲也	下田小	愛称“トク” 身長がすうりと伸び、もう大人を超えた。キックだけではなく 30m 走も No.1。1対1での前への飛び出しは抜群。驚くべき素質を開花させるのが楽しみ。
DF	2	高井 大輔	高田小	愛称“タカもんもん” 1対1の守りの強さは抜群。ボールを取った後、状況に応じてキープしたり、スピードに乗って攻め上がったりの判断が出来る。
DF	3	御手洗 匡史	下田小	愛称“ミタ” 守りの指令塔。大きな声で全員に指示を出す。オフサイドトラップをかけるのが上手い。ただ試合を見過ぎて1対1の対応が遅れる事があり、守りにもっと厳しさがほしい。
DF	4	松田 滋	高田小	愛称“まっちゃん” 体は小さいが運動能力も意欲も最高。攻め上がるスピードもいい。ユニークなキャラクターであり、宴会では一番の芸人。
DF	5	宍戸 将晃	下田小	愛称“シシ” 体が大きくなるにつれ、ストッパーとしての技術、守備力が付き安定してきた。ヘッドも強い。競り合いの強さをもっと前向きに。
MF	6	佐藤 奨	下田小	愛称“ショウ” 左ハーフとしてライン沿いに上がるスピードが見せ場で、左足のセンタリングも弾道が低くて早い。右足のシュートも強い。相手の裏を取る工夫がほしい。
MF	7	関口 亮	高田東	愛称“セキさん” 5年の時から右サイドで攻め上がるスピードが注目を集め、6年になってシュート力がついた。思い切りのいいヘッドシュートもよく決まる。
MF	8	白石 直人	下田小	愛称“ナオト” 相手が強くて激しい試合になればなるほど実力を発揮する。潜在能力が高いのは確か。集中が切れると落とし穴に入り、いいプレーが出来ない。
FW	9	細井 雄輔	下田小	愛称“ホソちゃん” ボールを持つと細い体がリズムに乗る。ボールタッチの柔らかさは最高。ボールを受ける前の速さや、パスした後の早い動きが今後の課題。

FW	10	堀内 慶太	下田小	愛称“ホリ” ドリブルとリフティングで画期的な記録を作った。意欲、集中力抜群なキャプテン。試合では、集中のあまりボールのとりこになる場合あり。
MF	11	宮川 克彦	高田小	愛称“ミッシェル” ボールを持つ姿勢がいい。腰の位置が下がり、常にルックアップして周囲がよく見える。6年ではパス出しに気を取られすぎ、持味のスピードが出ない。
DF	12	鷺沢 弘太	下田小	愛称“ワシ” インステップキックの強さ、うまさは No.1。恵まれた体、足腰の強さを生かして守りに徹する。もっと積極的なロングシュートがほしい。
DF	13	小林 孝資	高田小	愛称“コバ” LBキャプテンとしてチームをまとめあげた統率力は抜群。確実、しつこい守備には定評がある。これからはスピードが必要。
FW	14	片山 翔	下田小	愛称“ショウちゃん” LB一番の頑張り屋。ゴール前のポジショニングが良く、LB一の点取り屋。スピードで相手を抜ける様になれば本物だ。
MF	15	小野田 篤嗣	下田小	愛称“オノダ” 集中力と判断力があり、LBのゲームメーカー。敵の裏を突いたシュート、スルーパス、等多彩なプレーが出来る。テレビから脱皮し、もっと自分をアピールしよう。
DF	16	石川 紀良	下田小	愛称“キヨシ” どのポジションもこなすオールラウンドプレーヤー。GKも何気なくこなす。チーム一の明るい男。
DF	17	阿南 祐典	高田小	愛称“アナン” 足が速く、サッカーセンスは抜群。技術も進歩したが、センスだけでは物足りない。今後練習を積み重ねれば本物になれる。
MF	18	城田 貴之	高田小	愛称“シロちゃん” 本当にサッカーが好きな努力家。しつこいマークで敵に自由にプレーさせない。キック力もあり、フリーキックからのシュートがうまい。スピードが課題。
GK	19	古田 裕介	下田小	愛称“ふるちゃん” 厳しいシュートを何気なくキャッチする。ハンドキックは正確で飛距離も充分。ゴールキックはトゥキックで何処に行くかはボールまかせ。
DF	36	岳野 洸一郎	下田小	愛称“タケノ” 6年の時に引越して来て入会。足の速さとガッツなプレーは最高。LBのディフェンスのキーマンとして活躍。
DF	37	水島 瞬	下田小	愛称“ミズシー” 6年の時に引越して来て入会。普段はおとなしいが、ゲームでは1対1の守りに強く、堅実なプレーをモットーとしている。積極性がほしい。

第 13 回港北区ジュニアスポーツ大会 3 位入賞 (SL 時代)



1995 年当時の LL メンバー





L 最後の太尾招待試合 (準優勝)



卒団記念旅行 (久能山にて)



成熟期のたちばなキッカーズ

L 担当コーチ 南間 正次

たちばなキッカーズの第 20 期から 29 期までの 10 年間を考えるに、曾田監督の言葉を借りるならば、まさに地域スポーツクラブとしての活動が広がった 10 年ではなかったかと思われます。

それ以前からも川崎市の下田近隣地域から一人、二人と在籍しており、長く現在に至っても継続されておりますが、高田小学校の生徒が多数「たちばなキッカーズ」に入ってくるようになりました。それは、名前を思い出す事が出来ずに申し訳ないのですが、高田小学校に熱心にサッカーを指導された先生がおられ、交流試合を重ねて来た事が今日に大きく影響していると思われます。また、ご父兄の方々も非常によく協力していただいた事もあり、下田小学校の生徒もご父兄も、学校の枠をとりはらい、一緒になって盛り上げて下さった事も忘れられない事です。

社会的にも子供の人数そのものが減少傾向にあっただけに「たちばなキッカーズ」にとって大きな戦力となり、子供達も頑張って活躍してくれました。また、家庭の事情により遠方に転校された子供も少なくありませんでしたが、ほとんど退会する事なく最後のお別れ会まで通い続けてくれました。子供自身もそうですが、ご家族の方のご苦労は大変なものだったと思います。この頑張りがその子にとって、いつかきっと役立つ事があると感謝の気持ちを込めて切に願いたいと思います。

当時は各試合への遠征も、電車やバスを乗り継いで行く事が多く、自然に大人も子供も会話が多くなり、サッカーの事だけではなく、ふだんの子供達の学校での事や、遊びの事など「子供の世界」を知る事ができ、私にとって非常に参考になりました。東京の私立小学校に通っている 6 年生が合宿後に入ってきた時は私も少々驚きましたが、練習も休む事なく、秋の大会で立派に頑張ってくれました。

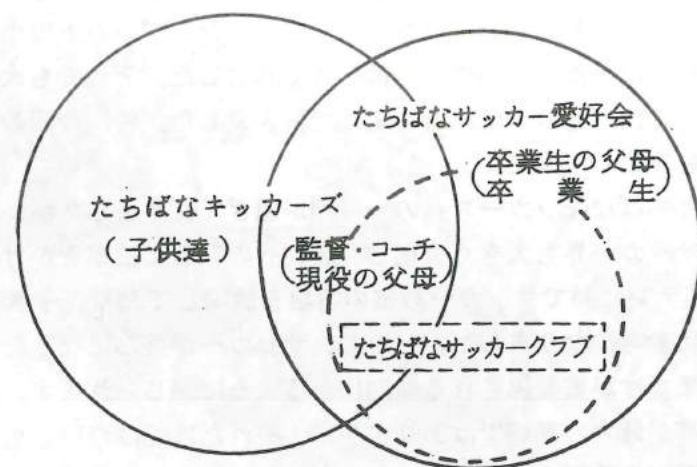
それと相い前後して、「たちばなキッカーズ」の活動の支援と会員である父兄の連帯と親睦、ならびに地域社会の発展に寄与する事を目的として発足した「たちばなサッカー愛好会」の活動も活発になり、夏の合宿にも多くの方が参加され、盛況を得ました。その後も、我々子供達のチームが大会で幹事チームとなった際には、グラウンドの設営から大会本部の運営において協力を頂き、さらには遠征試合には応援に駆けつけて頂くなど、さまざまな形で今日までご支援を頂いております。

チームの活動の場としても、下田小学校だけではなく、高田小学校、日吉台西中学校、新日鉄グラウンド、あすなろグラウンド、鶴見川河川敷グラウンド、後には竣工したばかりの高田中学校も借りられる様になりました。毎月グラウンド取りする当番のお母さんの苦労は大変だったと思いますが「たちばなキッカーズ」の活動はその努力により広範囲になり、ホームグラウンドである下田小学校のグラウンドが学校の立替え工事で使用出来なくなった時に効果を発揮してくれました。それでも大会の前は実践ゲームの練習に困り、近くのチームに無理を言って試合を組んで頂きました。特に今回の 30 周年記念試合に来て頂くチームには心から感謝申し上げます。

こうした状況の中で「たちばなキッカーズ」の一時期が過ぎて行きましたが、5 年前に発足した J リーグの影響により、少年サッカー界も大きく変化し、勝利への執着に拍車をかける結果となったと思われます。15 年位前には某テレビ局でサッカー教室の番組を放映しており、子供達にとっても私にとっても楽しみであり、大いに参考になりました。しかし、サッカーが盛んになった今日、J リーグの試合中継だけが増え、その結果だけが重要視される傾向にあるように感じられます。確かにサッカーは楽しいもので、ゲームに勝つ事が最大の喜びではありますが、それだけではないと思います。中学、高校と子供達が成長する中で飛躍する時期はそれぞれに違いがあり、一人一人の成長を見つめてあげたいと思います。

「たちばなキッカーズ」らしい指導方針を今後も続けていけたらと思います。OB をはじめ、父兄の方々のご協力とご理解を望むしだいです。

たちばなサッカー愛好会のメンバー (1988 年当時)



キッカーズと愛好会の関係

たちばなキッカーズと重なる思い出

旧 LL 担当コーチ 横川 芳江

「たちばな」で育ったわが家の子供たちも各々独立し、もう十分大人になっているのに、「たちばな」と聞くとボールを蹴っていたあの頃のままでの姿が思い出されます。私自身、昨年までコーチとしてお手伝いさせていただいて、思い出いっぱい、学んだこといっぱいあります。今でもボールを持っている子供を見ると一緒に遊びたくなります。

17、18 年前グランド当番で子供を見ているうちにサッカーの楽しさを覚え、曾田監督に紹介していただき「横浜女子サッカークラブ」(後に全日本サッカークラブ、今の横浜フリューゲルスの前身)に入会しました。ルールもボールの蹴りかたも知らずただ体力勝負でしたが、若いピチピチギャルの中で厳しく揉まれ、サッカー漬けになりました。

1984 年、卒業しても「たちばな」を応援したい、交流を続けよう、という父母達が「たちばな愛好会」を誕生させ、中でもサッカーの虜になったメンバーで「たちばなサッカークラブ」を作り、毎週土曜の夜にゲームを楽しむようになりました。OB が帰ってくる土台になったらと願っていましたが、川崎リーグで勝っていくうちにあまりにも強くなりすぎて、五十雀には少々遠くなり、今は忘年会での交流になっています。30 周年を機会に、新メンバーで新しいクラブを復活させて欲しいなと思います。

90 年ワールドカップ・イタリア大会ではブラジルの追っかけをしてイタリア中を駆け回りました。アフリカ旋風の時で、カメルーン戦を見ましたが強靱なパネとスピードが強烈に目に焼きついています。アジアの代表は韓国でしたが、韓国サポーターと「米国内移動よりも日本と韓国の距離の方が近いのだから共同開催すれば良いのに」と話をしていました。日本がワールドカップに出場できる日が来るなんてその時は夢のまた夢でした。「たちばな」の子供たちが出場する夢もいつか叶うと思います。

土日の練習に参加出来ず、ご迷惑をかけることが多くなって引退いたしましたが、多くの方々と巡り会い、仲間として受け入れていただき、心から感謝しております。練習毎に成長していく子供たちを見ることが楽しくて続けることが出来ました。子供たちがもっと主体的に、生き生きと、自由なプレーが出来るような「たちばな」であるよう、これからもサポーターとして応援したいと思っています。

たちばなサッカー愛好会 レディースのメンバー (1987 年当時)



港北区下田町の「たちばなサッカー同好会」はサッカーは初めてという人ばかり、男女約四十人の集まりです。メンバーのうち十人が女性で平均年齢は四十歳前後。下田小学校のサッカーチーム「たちばなキッカーズ」が母体となっていて、わが子を応援するだけでは物足りなくなってきた父母たちが五年前につくったチームです。

素人ばかりのチームのためいろいろなハプニングがあり、試合の流れの面白さより

(次回は日曜日に掲載)



ママがライバル



飛躍期 (30期～36期)

創部から 30 年、日本全体でサッカーは人気スポーツに成長しました。U23 日本代表チームはメキシコオリンピック以来のアトランタオリンピックに出場しブラジルに勝利、その勢いで、日本代表チームは悲願のフランスワールドカップに初出場を果たし、新たな1ページを刻みました。日本のサッカーレベルは確実に向上し、中田英寿選手がイタリアセリエ A に移籍し、世界レベルで活躍するまでになりました。

たちばなキッカーズは子供を主役としたサッカーを維持しつつ、「10 年先の完成期にいかに大きく成長させるか」をモットーに、チームの更なる発展を目指し、「飛躍期」を迎えました。

現在の現役チームの戦績、チームカラーを振り返ってみましょう。

第 30 期 1998 年度(平成 10 年度)卒業予定

シーズンレビュー

SL (1994 年度(平成 6 年度))

- ・ 4 月 第 21 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 予選 8 チーム中 7 位
- ・ 6 月 第 10 回港北区サッカー協会大会 2 回戦敗退(参加 20 チーム)
- ・ 7 月 GP サッカーフェスティバル 2 年生大会 予選 2 位で決勝進出、決勝 1 回戦敗退
- ・ 10 月 第 26 回横浜国際チビッ子サッカー大会 予選 7 チーム中 6 位
- ・ 11 月 第 14 回港北区ジュニアスポーツ大会 2 回戦敗退(参加 18 チーム)

LL (1996 年度(平成 8 年度))

- ・ 4 月 第 23 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 LL-A 3 勝 2 負で 3 位 LL-B 5 負で 6 位
- ・ 6 月 第 12 回港北区サッカー協会大会 2 回戦敗退 1 回戦敗退
- ・ 8 月 富士緑の休暇村で合宿
- ・ 10 月 第 28 回横浜国際チビッ子サッカー大会 3 勝 1 負 2 分で 2 位 3 勝 3 負で 4 位
決勝トーナメント 1 回戦敗退
- ・ 11 月 第 16 回港北区ジュニアスポーツ大会 準決勝：城郷 A に負 準決勝：つばめ B に負
3 位決定戦はたちばな同士となる 3 位入賞 4 位入賞
- ・ 1 月 第 23 回神奈川県少年サッカー大会 4 回戦(予選ブロック決勝)で南百合ヶ丘に敗退
- ・ 4 月 第 2 回東急カップちびっこフットサル大会 準優勝 (決勝で FC ゼブラ B に惜敗)

L (1998 年度(平成 10 年度))

- ・ 1 月 第 23 回横浜少年サッカー大会(新人戦) L-A 2 回戦敗退 L-B -
- ・ 4 月 第 25 回横浜市春季少年サッカー大会 4 勝 2 負で 3 位 2 勝 3 負 1 分で 5 位
- ・ 5 月 第 22 回全日本少年サッカー神奈川県大会 2 回戦敗退 -
- ・ 6 月 第 14 回港北区サッカー協会大会 準優勝 1 回戦敗退
- ・ 7 月 7 月 20 日(月)に創立 30 周年記念式典資金集めの為にバザー開催、収益金約 40 万円
- ・ 8 月 富士緑の休暇村で合宿
- ・ 10 月 第 30 回横浜国際チビッ子サッカー大会 1 勝 3 負 2 分で 7 位 6 負で 7 位
- ・ 11 月 第 2 回港北区区民サッカー大会 1 回戦敗退 1 回戦敗退

チーム紹介 第 30 期生 菊地 雄一郎の母(菊地 由美子)より

たちばなに入会してあっという間に 6 年目!とうとう最終学年になってしまいました。30 期生の息子達がたちばなでサッカーを始めた頃は J リーグが発足し、そのブームの影響か会員数もあっという間に増えたものですが、色々な理由で、1 人減り、2 人減り、6 年生ではとうとう 12 人になってしまいました。

SL の頃はと言えば、暑い 7 月の GP 戦、勝敗にはさほどこだわらず、遠足シートの上で親同士の話に花が咲き、差し入れのアイスクリームのおいしかった事!オフサイドの意味も私はよく知りませんでした。

LL では、初めて A と B にチームが分かれ、最初は複雑な思いもありました。

L になったら、これが 30 周年記念と重なり、最近グラウンドでは「あ〜でもない、こ〜でもない」と忙しそうな 6 年生のお母さん達……。3 月のお別れ会の頃はどうなってるかなあと最近思ったりしています。どの子を見ても入会当時に比べると、心も体もグリーンと成長してくれました。

人に誘われて入会したたちばなでしたが、始めてみると、サッカーは息子が一番一生懸命になれるものでした。必死に練習して自分に少しでも自信が持てる様になった子、自分の学校以外の子と友達になれた子、試合に負けて悔し涙を流した子……。サッカーを通して色々な体験や思い出を作る事が出来ました。これは、子供達だけでなく、親の私にとっても全く同じです。あと数ヶ月で卒業を迎え、それぞれの道を歩む事になるでしょうが、きっと何年たっても、たちばなを思い出し、フラッとグラウンドに現れる子もいると思います。その時にはどうかたちばなの仲間に入れてあげてください。

日本代表が初めてのワールドカップ本大会に出場した記念すべき年に、たちばなも 30 周年を迎える事になり、団員の一人として本当に嬉しく思っております。これからも“たちばなキッカーズ”の益々のご活躍、ご繁栄を祈っております。

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
GK	1	木虎 翔平	高田小	愛称“キトラ”レフティの GK。LL では FW であったが、GK にコンバート。秘めた闘志、安定したプレーでゴールを死守する。前に飛び出してのキックは正確。
MF	2	守山 大輝	下田小	愛称“タイキ”守備から攻撃まで諦めないプレーヤー。大きな声でチームメートに激を飛ばす。
DF	3	入月 誠也	川和小	愛称“ズキー”スピードに負けないしつこいプレーが身上。6 年になり急成長したが、もう少し廻りが見られる様にしたい。
DF	4	大井 薫	下田小	愛称“カオル”頼りになるリベロ。体格も大きく、競り合いにも強い。
DF	5	赤尾 健太郎	高田小	愛称“アカオ”堅実な守備をモットーとする。大きな相手に当り負けないガッツも欲しい。
FW	6	木村 寛	高田小	愛称“キムラ”右からのセンタリングでチャンスめくする。スルーパスも得意。前への突っ込みをもっと速くしたい。
DF	7	佐藤 敦	下田小	愛称“アッチー”敵の FW は自由にさせないストッパー。スタミナが課題だが、1 対 1 にはめっぽう強い。
DF	8	佐藤 貴紘	高田小	愛称“ターチャン”敵のチャンスは全てつぶすハードタックルが得意。怪我を恐れないハードな当りは時としてファウルを取られる。
MF	9	徐 森	高田小	愛称“ジョシン”左右両足が使える、リズム感あるプレーをする。常にゴールを狙い、前への突っ込みが鋭い。
FW	10	菊地 雄一郎	下田小	愛称“キクチ”チーム一のテクニシャン。抜群のセンスでゲームをコントロール。運動量が豊富で、ボールあるとこ常にキクチあり。
FW	11	佐藤 真	下田小	愛称“マコ”スピード抜群の点取り屋。ゴール奪取後のパフォーマンスはみんなの楽しみ。チームのお祭り男。
DF	12	飯田 雄介	下田小	愛称“イイダ”体を張ったプレーで敵をはね返す。スピードとスタミナが今後の課題。

試合に負けてしょんぼりの第 30 期生





SL 当時のメンバー

第14回港北区サッカー協会大会 L-A 準優勝



第16回港北区ジュニアスポーツ大会 LL-B 4位入賞

第31期 1999年度(平成11年度)卒業予定

シーズンレビュー

SL (1995年度(平成7年度))

- ・ 4月 第22回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 予選7チーム中3位
- ・ 6月 第11回港北区サッカー協会大会 2回戦敗退(参加15チーム)
- ・ 7月 GPサッカーフェスティバル2年生大会(20周年招待試合) 総合3位
- ・ 10月 第27回横浜国際チビッ子サッカー大会 予選7チーム中3位
- ・ 11月 第15回港北区ジュニアスポーツ大会 準優勝(参加15チーム)
- ・ 2月 第1回GPフットサル大会 決勝進出し4位(参加20チーム)

LL (1997年度(平成9年度))

LL-A

LL-B

- ・ 4月 第24回横浜市春季少年サッカー大会 4勝1分で1位 6負で7位
決勝トーナメント2回戦敗退

この年から大会の名称が変更となり、木村和司杯と副題も付く

- ・ 6月 第13回港北区サッカー協会大会 準優勝 1回戦敗退
- ・ 7月 7月13日(日)に創立30周年記念式典資金集めの為にバザー開催、収益金約40万円
- ・ 8月 富士緑の休暇村で合宿
- ・ 10月 第29回横浜国際チビッ子サッカー大会 4勝1負1分で3位 2勝4負で5位
- ・ 11月 第1回港北区区民サッカー大会 3位入賞 2回戦敗退
- ・ 1月 第24回神奈川県少年サッカー大会 予選ブロック2位 -
- ・ 2月 創立30周年準備委員会組織発足、コーチが主体となり開催準備を実施する事とする

チーム紹介 第31期生 庄司 政史の母(庄司 和子)より

93年にスタートしたJリーグの波に乗って、サッカーを始める子供達が多く、2年のGP戦には総勢20名のメンバーで参加し、総合3位入賞を果たす事が出来ました。この20名の中には、紅一点の堀内さんもいて、他の学年にはない明るく魅力あるチームとして活躍していました。しかし、3年生になると、テレビ番組「スラムダンク」の影響で、ミニバスケットに移籍する子供達も多く、4年生が終わる時には14名となり、寂しい5年生のスタートとなるどころでしたが、転校生など、3名の仲間が加わるなどして、人数も増えました。

このチームは目立ったスター選手はいないものの、それぞれの子供が、自分達の持ち味を生かしたプレーで、粘り強い試合をし、再三のピンチを乗り越えるパワーは強烈です。応援している父や母を感動させる程です。

来年は最終学年になります。さらなる感動をもう一年得られる事を期待しています。



第31期生

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
MF	13	庄司 政史	下田小	愛称“ショウちゃん”判断力、集中力抜群。皆からも信頼厚いキャプテン。試合も良く見えており、スルーパスによるチャンスを再三作る。もう少し体力を付ければもっと飛躍出来る。
MF	14	成田 秀平	高田小	愛称“シュウちゃん”体力も走力も抜群。左右どちらでも蹴れるキック力は魅力満点。ヘッドも強く、上での活躍が楽しみ。少しムラがあるのが欠点。これを直せば大いに飛躍出来る。
MF	15	箕輪 潔証	高田東小	愛称“キヨ”体は小さいがガッツは最高。運動能力も抜群でポジショニングが良く再三ピンチを防ぐ。小さな巨人といったところか。素質があり、積極性を出して頑張してほしい。
GK	16	五嶋 裕輝	高田東小	愛称“ゴトウ 2 号”SL 時代からゴールキーパー一筋。あの細い目で強烈なシュートを再三防ぐ。TKC の守護神といったところか。キック力、根性もあり、これからが楽しみ。
DF	17	小西 快	荏子田小	愛称“コニタン”右利きでありながら、左のバックを志願して来る程の根性の持主。カバーリングが抜群。積極性も出てきた。これからは、積極性プラス安定性を身に付けるともっと飛躍出来る。
DF	18	高井 将太	高田小	愛称“トータン”腰が低く、1 対 1 の守りは抜群。ヘッドに少し難があったが克服した。足もあり、ボールをカットした後の攻め上がりのスピードも見逃せない存在。キックの精度を上げて欲しい。
FW	19	鈴木 浩介	下田小	愛称“ナビーテルゼ”長髪をなびかせて走る姿は…？エンジンのかかりが少し遅いところがあったが後半はこれも克服し、スピードに乗ったドリブルでの攻め上がりは見事。シュートの正確性を身に付けよう。
MF	20	樋口 聖	下田小	愛称“ヒグチ”ドリブルでの攻め上がりは抜群。頭腦的なシュートも見事。少々個人プレーに走り過ぎる所があり、逆襲を受ける事があった。個性的なプレーはどんどん伸ばして欲しいが、周囲との連携も。
FW	21	金子 真育	黄国付属小	愛称“マイク”スピードに乗った二列目からの飛び出しは抜群。これからはスピードに加え、トラップ、ドリブル、キックに磨きを掛けて欲しい。5 年の途中で退部し、残念。
MF	22	深瀬 剛志	下田小	愛称“フカちゃん”言葉少なめ、秘めたる闘志はチーム一番！サイドハーフは俺しか出来ない。前のやつら俺を信じろ！ジャニーズ風の甘いマスクにお母さん達のファンも多い。
FW	23	高井 唯人	高田小	愛称“ユイト”スピードに乗った飛び出しと、相手に与えるプレッシャーは抜群。持味を生かしてフォワードの仕事をするにこなし、味方に信頼される。
DF	24	加藤 卓也	橘小	愛称“ゴトウ 1 号”ハデなプレーはないが、1 対 1 に強く、相手にとっては、しつこく、嫌がられるタイプ。右足のキック力とドリブルで攻め上がれる様になると楽しみである。
DF	25	若井 惇克	下田小	愛称“ワカイ”練習熱心で手を抜く事がない。ゲーム中のプレーでも自分の出来る精一杯の事をやろうとしているのが良く分かる。今後も努力を続けてくれれば 1 ステップも、2 ステップも上達して行くだらう。
DF	27	金 根洙	下田小	愛称“キムクン”まだ入ったばかりで、サッカーの経験も少ないようだが、今後が楽しみである。密かに今迄にない型破りなプレーヤーが生れると期待している。
DF	28	石原 敏史	下田小	愛称“ビッグ”一見体が重そうに見えるが、前に出るスピードはかなり速い。チームの仲間からも、まだ 3 ヶ月位しか経っていないのに、頼りにされている。今以上に積極的になってもらいたい。
MF	29	長田 真	下田小	愛称“シン”ボールを追い求めるというサッカーの基本にかなっている動きは天性なのか？楽しく思い切ってプレーをして欲しい。
MF	30	中川 領太	高田東	愛称“リョウタ”今年 11 月に入部したホカホカの新人。動きが速く、素質は有りそう。基本をしっかりとマスターして飛躍しよう。



第 32 期 2000 年度(平成 12 年度)卒業予定

シーズンレビュー

SL (1996 年度(平成 8 年度))

- ・ 4 月 第 23 回横浜市スポーツ少年団サッカー大会 4 勝 1 負 1 分で 1 位
決勝トーナメント 1 回戦敗退
- ・ 6 月 第 12 回港北区サッカー協会大会 準優勝(参加 15 チーム)
- ・ 7 月 GP サッカーフェスティバル 2 年生大会 予選リーグ 4 チーム中で 2 位
2 位リーグ順位決定戦は雨天中止
- ・ 10 月 第 28 回横浜国際チビッ子サッカー大会 4 勝 2 負で 3 位
- ・ 11 月 第 16 回港北区ジュニアスポーツ大会 2 回戦敗退(参加 16 チーム)
- ・ 1 月 第 2 回 GP フットサル大会 予選リーグ 2 勝 2 負で 3 位
3 位トーナメント 1 回戦敗退(黒滝に PK 戦負け)

LL (1998 年度(平成 10 年度))

- ・ 4 月 第 25 回横浜市春季少年サッカー大会 3 勝 2 負 1 分で 2 位 1 勝 4 負 1 分で 6 位
決勝トーナメント 1 回戦敗退
 - ・ 6 月 第 14 回港北区サッカー協会大会 予選 7 チーム中 2 位 予選 7 チーム中 7 位
決勝トーナメント 優勝
- 本年度から SL、LL は予選リーグ、決勝トーナメント方式に変更
- ・ 7 月 7 月 20 日(月)に創立 30 周年記念式典資金集めの為にバザー開催、収益金約 40 万円
 - ・ 8 月 富士緑の休暇村で合宿
 - ・ 10 月 第 30 回横浜国際チビッ子サッカー大会 4 勝 1 負 1 分で 2 位 5 勝 1 分で 7 位
決勝トーナメント 1 回戦敗退
 - ・ 11 月 第 2 回港北区区民サッカー大会

チーム紹介 第 32 期生 関崎 亮の母(関崎 昭子)より

SL、LL とキャプテンという大役を頂き、サッカー中心の日々を送っております。SL の頃は何か分からず初めての事ばかりで、子供達だけでなく私達も無我夢中でやっておりました。子供達もチームワークが良いのか、悪いのか? 試合中에서도集中力はあまりなく、大事な場面で思わず笑ってしまう様なプレーもありました。しかし、今考えてみると、とても楽しかったという思いです。試合を一つ一つこなして行くうちに、子供達も少しずつですが力を付けて、今までとは違うと感じた頃、春の港北大大会でこれまでに最高の準優勝という成績を収める事ができました。親子共々、そしてコーチの方々と喜んだ事を思い出します。

LL になって、今年の春の港北大大会は、SL、LL、L 全てが決勝に進む事ができ、とても嬉しく、ドキドキ、ワクワク、とした気持ちのまま LL の決勝戦が始まり、とうとう逆転優勝をもぎ取りました。あの時のチームワークと集中力は本当に素晴らしかったです。子供達の笑顔も最高、そして、応援してくれた子供達も最高、胸が熱くなり感動しました。

これからも子供達には、サッカー(たちばな)で色々な事を学んで、心も体も成長し、頑張ってもらいたいと思っています。

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
GK	1	中村 康輔	下田小	愛称“なっかー”途中から入り、最初は嫌がっていた GK も今ではチームの守護神。なくてはならない存在。大きな声で指示を出せる様になれば楽しみ。
DF	2	城戸 一祥	高田東小	愛称“かつちゃん”いつも笑顔だがあまりしゃべらず、シャイだが、サッカーをしている時は楽しそう。ボールを怖がらず、ボールに向かって行く。
MF	3	松田 誠	高田小	愛称“まっちゃん”チームで一番体が大きく元気。1 対 1 に強く、体を張ったプレーが目立つ。インステップキック、ロングスローが得意。今後は楽しみ。
DF	4	細井 大輔	下田小	愛称“ほそちゃん”DF として頑張っているが、1 対 1 にもっと強くなしてほしい。これからはドリブルなどを使って、積極的なプレーを目指そう。
FW	5	浅原 順	下田小	愛称“あさちゃん”FW から DF まで何でもこなすオールラウンドプレーヤー。ボールを持ての右サイドからの上りが速く、味方のシュートの後のツメが速い。試合中に声が出ればもっと良い。
	6	森口 駿	下田小	愛称“もりちゃん”4 年生で唯一の左利き。特にボールトラップの柔らかさが目立つ。以前は GK もこなし、器用なプレーヤー。
MF	7	木虎 宏影	高田小	愛称“きとちゃん”敵のマークに付くと、しつこい。攻撃的な面もあるが、もっと積極的にプレーして、アピールしてほしい。
MF	8	永嶋 裕一	下田小	愛称“ながちゃん”LL-B のキャプテンとしてよくコーチの話を聞いて、声を出し、チームをまとめる姿は素晴らしい。これからも頑張ってもらってチームの中心になってほしい。
FW	9	佐々木 秀一	下田小	愛称“しゅうちゃん”チームのエースストライカーとして頑張っている。特に足が速く、相手の DF を置き去りにするプレーが得意。ボールを受ける前の動きや、積極的なプレーが今後の課題。
FW	10	関崎 亮	下田小	愛称“せきちゃん”LL-A のキャプテン。良くチームをまとめている。ドリブルが得意で、ボールを持ち過ぎる所が難点。もっと周りの選手を使うプレーをしてほしい。
DF	11	本田 一光	下田小	愛称“いっこう”一生懸命プレーする姿が目立つ。周りに遠慮しないでもっと頑張ってもらいたい。

現在の LL-A メンバー





第 14 回港北区サッカー協会大会 LL-A 優勝 (SL とのアベック優勝)



第 33 期 2001 年度(平成 13 年度)卒業予定

シーズンレビュー

SL (1997 年度(平成 9 年度))

- ・ 4 月 第 24 回横浜市春季少年サッカー大会 5 勝 1 負で 2 位
決勝トーナメント 1 回戦敗退
この年から大会の名称が変更となり、木村和司杯と副題もつく
- ・ 6 月 第 13 回港北区サッカー協会大会 1 回戦敗退
- ・ 7 月 7 月 13 日(日)に創立 30 周年記念式典資金集めの為にバザー開催、収益金約 40 万円
- ・ 7 月 GP サッカーフェスティバル 2 年生大会 優勝(参加 24 チーム)
- ・ 10 月 第 29 回横浜国際チビッ子サッカー大会 5 勝 0 負で 1 位
決勝トーナメント 準決勝であざみ野に惜敗
3 位入賞 (決定戦で丸山台に PK 戦勝ち)
- ・ 11 月 第 1 回港北区区民サッカー大会 2 回戦敗退
- ・ 1 月 第 3 回 GP フットサル大会 3 位入賞
- ・ 2 月 創立 30 周年準備委員会組織発足、コーチが主体となり開催準備を実施する事とする

チーム紹介 第 33 期生 笹木 脩平の母(笹木 恵子)より

2 年生になると試合数が多くなり、練習試合等を含めて 1 年間で 80 試合以上を経験しました。

「3 月であるにもかかわらず、小雨の降っているせいかまるで真冬のような寒さの中での招待試合」に始まり、「金沢文庫までの遠征を 3 日間続けた春のスボ少」「朝 6 時 30 分に集合して望んだ GP 戦」「秋の国際チビッ子決勝トーナメントと港北大大会 2 回戦という大きな大会の試合日程が重なり、土日続けて行われたため、選手達の気持ちを切り換えるのが大変だった事」「新年 1 月 4 日に招待試合を頂いて驚いた事(結局、雪のため 3 月まで順延)」「雪の中でのフットサルの試合」「11 人そろわず 10 人で戦ったあざみ野杯」「2 月になり練習は新 LL の体制で行なわれつつ、アムゼルの招待試合は SL として参加した事」等、どの試合をとっても、とても印象深く忘れられないものです。

毎週のように続いた試合の中で、選手達は一戦一戦集中力を付け、気持ちを高め、チームワークを付けてきました。そして、応援してきた父兄も同じ時間を共有し、子供達の頑張りを見るにつけ大きな大きな感動を受けました。それも、ここまでチームを盛り上げて、熱心に御指導下さったコーチの方々のおかげだと、心から感謝しております。

3 年生になると今まで一緒だった仲間が 2 チームに分かれて行動する様になり、当初とまどいもありましたが、港北大大会あたりからそれぞれのチームにもなじんで来た様です。

初めての合宿等、これから多くの事を経験する事でしょう。コーチの御指導を仰ぎ、一人一人が楽しく充実した時間を過せる様、サッカーを通して大きく成長していく姿をこれからも見守って行きたいと思います。

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
DF/FW	13	笹木 脩平	子母口小	SL では点取り屋、LL では守備も経験中、戦況により最前線にも。チーム一番の練習熱心の頑張り屋さん。
MF	14	伊藤 輝紀	下田小	MF として攻守の中心の一人。身体の発育につれ、プレーに積極性と幅が出て来た。ボール扱い技術の向上に一層の注力を。
FW	15	新岡 義弘	下田小	SL での DF から FW にコンバート。最初は多少戸惑ったが、持前の強力キックを生かして活躍中。ボールコントロールの一段の向上に努力を。
FW	16	井上 敬介	下田小	スポーツ選手としての身体能力とセンスに恵まれている。FW の新岡と新コンビを形成中でその成長が楽しみ。
FW/MF	17	鈴木 祐介	下田小	チーム一番のファイター。練習中も常にファイト満々。貴重な左利き選手の一人。ボール扱いも一段と進歩。ゲームメーカーとしての活躍を期待。
FW	18	入月 祐斗	川和小	身体はまだ小さいが、ドリブルの名手。キック、トラップ等の向上にも努力し、小学生マラドーナを目指して欲しい。
MF/DF	19	小西 哉人	桂子田小	キック力、ボール扱い、攻守全てに互ってバランスのとれたプレーヤー。練習並びに試合では一段の積極性を期待したい。
DF	20	小沢 俊介	高田小	SL(2 年生)後半での DF としての成長及び頑張りは一歩だった。身体接触を恐れぬ積極的守備は頼もしい。基礎技術の向上に一層の努力を。
MF/DF	23	木村 卓	高田小	練習中は目立たぬが、試合では頑張り屋さん。集中力の持続が課題。今シーズン後半の成長を期待。
MF/DF	24	赤尾 祐次郎	高田小	SL 時代に比べてボール扱い技術、試合中の集中も格段の進歩。恵まれた身体を生かして積極的プレーを期待。
GK	25	鈴木 総司	下田小	昨シーズン後半の入会、GK を買って出てくれて秋季大会で大活躍。今は他のポジションにも意欲的。GK 技術の向上にもより一層の努力を。
FW	26	伊丹 淳記	下田小	今シーズン始めの入会、練習には皆勤。サッカー技術のレベルアップにもう一段の積極性が望まれる。
FW	27	松村 和典	高田小	3 年生からの入会。サッカー技術の習得にはある期間が必要だが、練習熱心で全体練習終了後の居残り特訓希望は頼もしい。
MF	28	三浦 拓	高田小	3 年生からの入会。短期間でボール扱い技術もかなり上達。運動能力も高いので、これからの成長が楽しみ。
DF	29	金 熙洙	下田小	3 年生からの入会。3 年生の中で一番の大柄選手。半年間でキック、ボールコントロールも上手になり、このままの進歩が望まれる。

SL 時代の輝かしい成績と共に (1997 年)



第 33 期生



おい、チョット来い



ナイスヘディング?



第34期 2002年度(平成14年度)卒業予定

シーズンレビュー

SL (1998年度(平成10年度))

- ・4月 第25回横浜市春季少年サッカー大会 5勝1分で1位
決勝トーナメント準々決勝で敗退(ベスト8)
(参加チーム総数57)
- ・6月 第14回港北区サッカー協会大会 予選5勝1負で1位
決勝トーナメント 優勝
本年度から SL、LL は予選リーグ、決勝トーナメント方式に変更
- ・7月 GP サッカーフェスティバル 2年生大会 優勝
- ・7月 7月20日(月)に創立30周年記念式典資金集めの為にバザー開催、収益金約40万円
- ・10月 第30回横浜国際チビッ子サッカー大会 4勝2負で2位
決勝トーナメント1回戦で駒林に敗退
- ・11月 第2回港北区区民サッカー大会

チーム紹介 第34期生 伊藤 光城の父(伊藤 直和)より

今年度のSLは、2年生9名、1年生3名の12名からのスタートでした。横浜市の春季サッカー大会が間近に迫り、「この人数での出場はどうしたものか?」堀内、五嶋、伊藤のSL担当コーチで会議を開くほどでした。というのは、サッカーは11人でプレーする競技で、12名で競技人数は満たしていますが、「SL時代は身体も小さく、試合当日に風邪などの理由で欠場する選手が複数いた場合、出場資格最低人数の8人までにならなくても、9~10人でサッカーとして試合が成り立つのか?」又、「出場を辞退した場合秋季の市大会の出場資格を失うため、新入部員が一人でも多く入部してくれる方法はないか?」という理由からでした。その後の新入部員体験練習には多くの子供達が加し、9名(H10.7.20現在)が入部してくれました。その中に元気な子が多く、市大会に期待が持てました。結果はシーズンレビューに記してありますが、ベスト8という好成績を収める事が出来ました。後の港北大会においても、優勝という素晴らしい結果を残す事が出来ました。

今年度のSLを今までの試合から振り返ってみますと、粘り強いチームであると思っています。市大会の予選リーグでは、終了間際に同点に迫りついたり、区大会でも逆転勝ちがありました。特に春の区大会の決勝では、0-1で迎えた後半、相手ペナルティーエリア前で得たフリーキックを決め、同点に迫りつき、その後、相手ゴール前での混戦から、こぼれ球を粘って押し込み、試合を決めました。

これからも、この強い粘りで暑い夏を乗り切り、選手、父母の方々、コーチ陣の皆が協力し合い、秋の数々の大会に向けて、春の成績に勝る結果を出せるように、ガンバっていききたいと思います。又、LL、Lと上のクラスまで、小学生時代のサッカーを全員が最後まで諦める事なく、楽しくプレーしてくれる事を望みます。

GP サッカーフェスティバル 2年生大会 優勝



メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
FW	2	城戸 寿朗	高田東小	1対1での勝負強さに定評がある。スピードとフィジカルで相手ゴールネットを揺らす。フィジカルが上達すれば、FWとしてワンランクアップする。試合ではDFとしてもプレーする。
MF	3	深瀬 貴晃	下田小	スペースを見つけてフリーのポジション取りが上手い。ドリブルに安定感があり、オーバーラップしてからのセンタリングも正確だ。もっと声を出せばプレーが目立つ。
FW	4	友澤 誠也	子母口小	JリーグやJFLのゲーム観戦をして、練習以外でもサッカーを勉強している。ドリブルを得意とする。スピードアップが課題。試合ではDFとしてもプレーする。
DF	5	伊藤 光城	下田小	どのポジションでもプレーするオールラウンダー。GKのハンドキックも何気なく飛ばす。試合中に声を出している姿勢が良い。FWでの積極性が課題。試合では、GK、MF、FWとしてもプレーする。
DF	6	小澤 賢人	子母口小	DFの要を守る。カーリングの巧さと力強いクリアで数々のピンチを救ってくれるプレーは安心出来る。試合中はもっと周りを見て味方に声を掛けられればDFの要としてワンランクアップする。
DF	7	井出 宗一郎	子母口小	どんな練習でも最後までやり遂げる姿勢が良い。スピードと積極的なプレーが課題。
FW	8	清水 貴之	子母口小	コーチの話によく質問して来る姿勢が良い。スピードと集中力が課題。
MF	9	永山 諒	下田小	細かい動きにスピードがあり、ここの一番の集中力がある。集中力が持続すればMFとしてワンランクアップする。試合ではFWとしてもプレーする。
MF	10	五嶋 健人	高田東小	ドリブル、パス、キック力、抜群なキャプテン。試合中の集中力も抜群だが、ボールだけに集中し過ぎてしまう時がある。常に廻りをよく見て、的確なプレーが出来れば中盤の要としてワンランクアップする。
DF	14	内田 竜二	下田小	1対1のプレーに自信が付き、積極的なプレーが見られる様になった。ボールの中心を正確に蹴る事が課題。
MF	15	村木 晃太	下田小	コーチの話をきちんと聞く姿勢が良い。プレーに自信が付いてきている。思い切りよくボールを蹴る事が課題。
FW	16	石黒 翔太	下田小	浮き球のトラップが上達した。自信を持ってプレーすれば、FWとしてワンランクアップする。
GK	19	遠藤 純輝	下田小	積極的にGKに取り組む姿勢が良い。キャッチング、ハンドキックがかなり上達した。前へ出るタイミングが課題。
MF	20	末次 匠吾	下田小	ドリブルが上達した。ボールに対してまっすぐ向かう事が課題。
MF	21	椎塚 健太	下田小	レギュラーポジションを獲得したキック力抜群の新入部員。サッカーセンスはあるが、慌ててプレーする時がある。冷静なプレーが課題。
	22	植木 陽也	下田小	入部間もないニューフェイス。まず、皆と一緒によにサッカーを楽しむことから始めよう。レギュラー獲得に向けてガンバ。
	23	光畑 勇樹	子母口小	11月に入部したピカピカのルーキー。力を付けて、レギュラー陣を脅かす存在になる様にガンバ。
	25	桑名 岳	下田小	11月に入部したピカピカのルーキー。基本をしっかりとマスターして、レギュラー目指してガンバ。

第14回港北区サッカー協会大会 優勝



第30回横浜国際チビ子サッカー大会 OBの大場さん(第11期生)と一緒に
(大場さんのサッカー経歴: 日産(JFL)→鹿島アントラーズ→柏レイゾル→川崎フロンターレ→現在コーチ)



試合開始直前に円陣を組んで気合を入れる

川崎フロンターレの選手と一緒に(@横浜国際総合競技場)



第35期 2003年度(平成15年度)卒業予定

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	小学校	紹介
FW	11	守山 健二	下田小	愛称“けんちゃん” 上級生と一緒に遊びのサッカーを楽しんでいる せいか、サッカーセンスは高いレベルにある。一年生ながら、SLのスタン 得選手。これからはボールへの寄りを速くする事が課題。
MF	12	堀内 大夢	下田小	愛称“ヒロム” フェイントをする時の腰の位置とバランスが良い。チームメ トからヒロムフェイントと呼ばれている。集中力を維持させる事がこれか らの課題。
FW	13	木村 晃	高田小	愛称“ピーちゃん” 35期の中で唯一のレフティ。冷静なプレーが試 合中によく見られる。これが持続出来れば、MFでの活躍にも期 待がもてる。
MF	17	園部 明	下田小	愛称“あきら” 今年度入部した新人選手。サッカーの楽しさを身体 で覚え、来年度のSLでの活躍に期待する。
MF	24	小林 惇	下田小	愛称“コバ” 幼稚園からサッカーボールに親しんでいたの、練習で のレベルの高さが目に付く。これからはサッカーの動きをマスターすれば、 次につながるレベルアップが望める。

第36期 2004年度(平成16年度)卒業予定

メンバー紹介

ポジション	背番号	名前	幼稚園	紹介
	18	中川 諒一	プリンス 幼稚園	愛称“ナカガワ” 年長からの入部は今年度唯一の選手。ボールに 親しみ、小学校時代のサッカーを最後まで諦める事なくガンバレ!!

チーム紹介 第35期生 堀内 大夢の母(堀内 裕加子)より

祝30周年の時に入部した我々6人の新人君達.....

もう先に“たちばな”で経験のある兄を持つ次男組3人と、初めて“たちばな”の仲間入りをし
た長男組3人との微妙な(?)コンビのSL1年生です。

今はまだボールを蹴る楽しさを覚えたばかりで、可能性を秘めて、これからどれだけ活躍出来る
か.....。祝30周年とフランスワールドカップ(日本予選突破)のラッキーな年に、サッカーと
いうスポーツを始める事が出来たのですから、ずーっとこのサッカーを愛し、続けていてもらい
たいと思います。

新しい“たちばな”の歴史を作るためにも、しっかり練習して、精神的にも強くなって、卒業す
る時に、良い思い出となる様、頑張ってもらいたいと思います。

OBの大場さん(第11期生)を囲んで



第35期生、第36期生の素顔



過去、現在そして未来に向かって

SL担当コーチ 伊藤 直和

たちばなキッカーズ創立30周年、おめでとうございます。

さて、30年前というと、私は少年サッカーのクラスではSL時代になります。その頃を思い出すと、ほとんどの少年がYGマークの野球帽を被り、空き地や公園で草野球をして遊んでいたという記憶が残っています。事実、私も少年野球チームに所属していました。そのような時代に、ボール一個あれば出来るスポーツとはいえ、11人(野球より2人多い)以上が揃い、練習や試合をしていたということは、或いは当時のサッカーに興味を持たない第三者には、珍しい光景として映っていたかもしれないと思います。このような時代から30年もの長い間、たちばなキッカーズが繁栄しているのも、曾田監督、永田代表をはじめ、諸先輩コーチ及び御父母の皆様のサッカーに対する、そして子供に対する努力と愛情があったからこそだと思います。

私は、中学と高校のクラブ活動でサッカーをしていましたが、サッカー人気というのは、現在に比べればかなり低かったと思います。そんな時代でも、メキシコオリンピックでの銅メダル獲得や『赤き血のイレブン』というテレビアニメの放映などがあったように記憶しています。現在でいえば、ワールドカップ初出場や『キャプテン翼』に当てはまるのでしょうか。

では、現在のサッカー人気の高さや少年サッカー人口増加の最大の理由を考えると、やはりJリーグの誕生が考えられます。それは、以前に比べてテレビ中継が増え、アニメやマンガの世界でしかなかった憧れの選手が実在するようになったことだと思います。一時期は、サッカーが野球を上回る人気スポーツにランクされましたが、最近では、景気低迷によるJリーグのチーム合併問題や、少子化現象に伴うチーム構成人数の減少など、これからの少年サッカーを取りまく環境も過渡期を迎えつつあります。こうした問題をクリアしていくためには、子供達がサッカーに興味を持ち、楽しくプレー出来る環境(チーム)作りが今後の課題だと思います。

私は、長男がSL(小学2年生)の昨年春に、永田コーチの勧めでコーチを始めて二年目を迎えたばかりですが、昨年、今年と、SLはファイトのある選手が多いということを感じました。昨年のSL(第33期)は、毎年夏に招待されるGPサッカーフェスティバル2年生大会での優勝をきっかけに、皆自信を持ったプレーが出来るようになったと思いました。春はポジションが決まらず、コーチ、選手共に戸惑いがあり、チームとしてはうまく機能していなかったようです。市大会では、予選リーグ2位の戦績で決勝トーナメントへ進出したものの緒戦敗退。区大会も緒戦敗退という結果でした。そして、GPサッカーフェスティバル優勝をきっかけに皆が一つにまとまり、国際チビッ子大会第3位、セルジオ越後杯第3位、そしてアムゼルサッカー大会優勝という好戦績を残すことが出来ました。なかでもいちばん印象に残っているのは、セルジオ越後杯です。この大会は、風邪で11人揃わず、1人少ない10人で予選リーグ、決勝トーナメントと戦い抜いたからです。特に決勝トーナメントでは、あざみ野FCに0対0(PK戦4対2)で勝利を収め、本郷FCに準決勝で0対0(PK戦3対4)で残念ながら敗れたものの、3位決定戦では、原FCに2対0で勝利するという内容でした。1人少ない人数でも、強豪チームを相手にこれだけの結果を残せたということは、上のクラスに行っても、そして大人になっても忘れないでほしいものです。

さて、今年のSLに次男が所属しているため、もう1年SLを担当していますが、今年も昨年同様、好戦績を収め頑張っています。(10月31日現在)春の市大会ベストエイト、区大会優勝、GPサッカーフェスティバルも昨年に続き優勝。そして、現在進行中の国際チビッ子大会や、これから始まる区大会での好戦績を目指して、練習で汗を流しています。これは特に、今年度から入部した新人の成長が、チームに良い結果をもたらしていると思います。

最後に、この節目の年に現役のこれからに対して願うことは、第30期(現小6)は、まさに記念の年に最上級生としてサッカーを学びました。たちばなキッカーズの練習や試合、そして合宿などで身につけたことを基本に、上のクラスでの活躍を期待します。また、第31期(現小5)から第36期(現年長)は、来年度は次の節目へ向かっての第一歩となる年になります。現役全員が、次の節目を迎える後輩達の良き手本となるように、更なる飛躍を期待します。特に第31期生は、最上級生の自覚を持ち、サッカー選手としてよりいっそうの飛躍を期待します。そして、我々指導者も、たちばなキッカーズが40周年、50周年と長い歳月が経っても発展し続けるように、御父母の皆様をはじめ、地域の皆様、愛好会やOBの方々の御協力と子供達の頑張りと共に飛躍していきたいと思ひます。

小学生におけるスポーツのあり方

L担当コーチ 宍戸 正人

たちばなキッカーズ創立30周年、おめでとうございます。

私は、6年前に息子が「たちばなキッカーズ」に入部して以来、現在まで何らかの形でお手伝いをさせてもらっています。息子がSL当初は、いわゆるお父さん応援団の一人であり、試合に勝っては喜び、負けては悔しみ、一喜一憂したものでした。ある意味では一番楽しく試合を観戦できた様に思えます。息子がLLになったタイミングで、お父さんコーチとしてスタッフの一人となりました。息子はLL-A、私はLL-Bに分かれ、一緒に行動出来ず日曜の対応が大変でした。息子のチームは上手い選手もあり、勝率も高く、勝つ事の楽しさを満喫していました。一方、私の方は、試合に勝つ事の難しさ、子供達の目標を何処に置くべきか等考えさせられる時期でありました。

息子がLに上がったタイミングで私もL担当となり、私がL-A、息子がL-Bとなり、今度は逆に息子が勝てない事の悔しさ、気合が乗らないもどかしさを味わっていました。親として、或いはコーチとして何と励ませば良いのか考えたものです。

小学校時代のサッカー、いえスポーツはどの様にあるべきなのでしょう？3年程前、私は横浜市サッカー協会少年委員会が主催した小野剛氏の講演に出席する事が出来、少年の指導/育成についての考え方が徐々に分かって来た様に思ひます。

スポーツにおいては勝負がつきものであり、勝つ事が全てと考えがちです。しかしこれは、プロスポーツレベル或いは大学生程度の話です。「子供は小さな大人ではありません」目先の勝負にこだわり、勝つ事だけを目標に指導/育成するのはどんなものでしょうか。小学生時代は人間の成長過程の中で最も重要な時期(人生で一回しか訪れないゴールデン・エイジ)であり、神経系の発達が最も進む時なのです。小学生時代に自転車乗りを会得するのは簡単ですが、大人になってからでは大変なのと同じ事です。この時期はサッカーで考えれば、全てのテクニックを身に付ける事が出来る時期であり、「如何に技術を上達させるか、豊かな発想を身に付けさせるか」に主眼をおいた育成に心掛けるべきでしょう。スピードとパワーにものをいわせて勝ち進むチーム、ベンチのコーチの指示にキッチリ従うチーム、があったとしても、それを羨む必要はありません。目指す必要もありません。

小学生のスポーツは、勝つ事が目標ではありません。とは言え、やはり「勝利」は嬉しく、「敗戦」は悔しいものです。「勝つ事」と「育てる事」には大きなミゾがあり、決して埋められるものではないでしょうが、これを埋める事は永遠のテーマであり、これが我々の使命でしょう。

「サッカーを楽しむ事が基本であり、その中で子供達の技術/発想レベルを高め、出来れば試合に勝ち、10年先に如何に大きく成長させるか」が我々の目標です。私も子供達に教えられ、成長しています。将来、皆が大きく成長し、活躍される事を楽しみにしています。

審判は何処へ行く？

ーワールドカップフランス大会を見てー

たちばなキッカーズ旧コーチ

旧二級審判員 中林 由行

15年程前に二人の息子たちが「たちばなキッカーズ」にお世話になって以来、私もすっかりサッカーにのめり込んでしまった。4級の審判員の資格をとって4年、3級で3年、2級になって8年、今は指導をしているが、約15年間審判をやってきたことになる。何とか一度はワールドカップを見に行きたいと思っていたが、このフランス大会でその夢を果たす事が出来た。

審判にとってもW杯に選ばれる事は大変な名誉であるが、一方でミスは許されないという大きなプレッシャーを受けるつらい立場でもある。近年の一連のルール改正、たとえば、GKへのバックパスの制限、オフサイドの解釈の変更、アドバンテージの積極的な採用、ダイビングへの警告、決定的な得点の機会を反則で阻止した場合の一発退場、後方からの危険なタックルの一発退場などは、サッカーをよりフェアで面白いものにするためであるが、一方で審判にとっては難しい判定が多くなり、大きな負担となりつつある。中でもレッドカードを出すことは、試合や選手に大きな影響があるために審判にとっても勇気のいることである。W杯では、準々決勝のオランダ対アルゼンチン戦の終盤にオルテガがペナルティーエリアの中で倒されたのをダイビングであると的確に判定し、その後の乱暴な行為で退場にしたカルテル主審(メキシコ)、また準決勝のフランス対クロアチア戦では、満員のフランス人観衆の前でブランを一発退場にしたアラランダ主審(スペイン)などの多くの勇気ある判定に感動したが、一次リーグではレッドをめぐるトラブルも多かった。スピードや技術がより高度になっていく現代サッカーの中で、審判の負担はこれからも増える一方であろうと思われる。日本でもこれからサッカーくじが導入され、勝敗が過熱してくると、真面目な人ほど審判を続けて行くのが難しくなるのではないかと心配である。全ての選手がフェアプレーに徹してくれれば審判の悩みの大部分はなくなるのであるが、そうでないとしたら、いずれは主審を両エンドに一人ずつ置くような事が必要になるのではないかと、というのが私の個人的感覚である。

振り返ってみると一番プレッシャーがなく楽しくできたのはチビッコサッカーの審判だったような気がするが、ここはここで審判技術の未熟さが常に問題になっている。チビッコサッカーの審判をやる人は恵まれた環境に甘えることなく審判技術をもっとみがいてほしいものである。

GKに頭突きをして退場を宣告されるオルテガ。(週間サッカーダイジェスト 98/8/23増刊号より)



楽しい夏期合宿

毎年、8月の第1週の土曜日から、富士緑の休暇村(山梨県南都留郡鳴沢村)で3泊4日のスケジュールで合宿を実施しています。1973年(昭和48年)に島根県大社町で初めての合宿を行ない、その後、1975年(昭和50年)から、ここ富士緑の休暇村で合宿を行っており、たちばなの年間行事の中では最大のイベントです。以下に現在の合宿の様子をまとめてみました。

1. 夏期合宿の目的

サッカーの技術向上、体力強化を目指した強化合宿ではない。即ち、きたえるのではなく、楽しむ事を主目的とした合宿である。楽しみの中で以下の様な取組をする。

- 一子供達が主体であり、出来るだけ子供達の自主性を尊重する。
- 一学校の修学旅行とは異なり、縦割りの班に分け、学年とは関係無く楽しむ。
- 一低学年の子は高学年の子から学ぶ、高学年の子は低学年の子の面倒を見る。
- 一スポーツテストを実施するが、今年(1989年)から日本サッカー協会が決めたスキルテストに変更し、全国レベルとの比較も出来る様にする。

2. 主要行事

合宿での主要スケジュールを下記表に示した。主要行事は以下の通りである。

一 班対抗戦

- ・3年生から6年生をまとめて6班に分けて班対抗戦(リーグ戦)を行う。
- ・合宿の最大のイベントであり、3日間で実施する。
- ・各班のキャプテンと副キャプテンはLのコーチが指導力を考慮して選出する。尚、各班のメンバーはドラフト方式でキャプテン/副キャプテンを選ぶ。
- ・勝ち点方式で順位を付ける。
- ・各試合の内容で、優秀選手賞、敢闘賞、努力賞、等の各賞を決める。

一 スポーツテスト

- ・到着した日の午後に実施する。
- ・今年から内容を変更し、日本サッカー協会が決めたスキルテストを実施する。
- ・内容はスキルの獲得を目的とした以下5種目であり、各種目のポイントの合計点で順位を競う。全国レベルとの比較も実施する。

ボールリフティング：3分間以内で出来た最高連続リフティング回数。

内通しシュート：ボードの2箇所に穴を開け、5m離れた場所からキックして穴を通す。

ボールコントロール：サーバーが5m離れた場所からボールを山なりに投げ、プレーヤーはショートバウンドでコントロールし、2タッチでサーバーにパスを返す。

ドリブル&パス：コーンに沿ってドリブルし、途中で壁にボールをぶつけ、返ってきたボールを再度ゴール地点までドリブルし、そのタイムを競う。

ターン：決められたコースで、パス・ターン・ドリブルを繰り返し、そのタイムを競う。

一 早朝散歩

- ・毎朝06時20分頃から約30分間、各班別に早朝の散歩を実施する。
- ・コースは自由であるが、07時からの朝食に遅刻しないようにする。

一 昼休み

- ・14時までは外に出ないで各部屋で昼寝をする。
- ・但し、2日目は飯盒炊飯があり、後片付けに時間がかかり昼寝が出来ない場合もある。

一 夜の練習

- ・初日の夜は体育館でミニサッカーを楽しむ。
- ・2日目以降はオーバーワークになる為、夜の練習は中止する。

一 他チームとの練習試合

- ・同じ休暇村に來ている他のチームとの試合は、スケジュールの合間に実施する。

一 飯盒炊飯

- ・例年通り2日目の昼にカレーで実施する。
- ・11時から、コーチは各班のメンバーと一緒に火を起し、自分達の班の御飯を炊く。
- ・カレーについては、お母さん方に調理していただく。
- ・後片づけも各班毎に実施し、14時までに完了させる。

一 お楽しみ会

- ・3日目の夜にキャンプファイヤー等を実施する。
- ・内容はお母さん方のアイデアによるが、過去は、キャンプファイヤー、寸劇等を実施した。
- ・各班の内容を採点し、得点を付ける。

一 グッドマナー

- ・合宿期間中の各班のマナーを採点し、得点を付ける。
- ・主要チェック項目は、部屋の整理/整頓、バス中での態度、集合時間厳守、就寝時間厳守、食後の後片づけ、配布物の管理、等とする。

一 総合成績

- ・班対抗戦、グッドマナー、お楽しみ会、の得点を合計して総合成績を決定する。

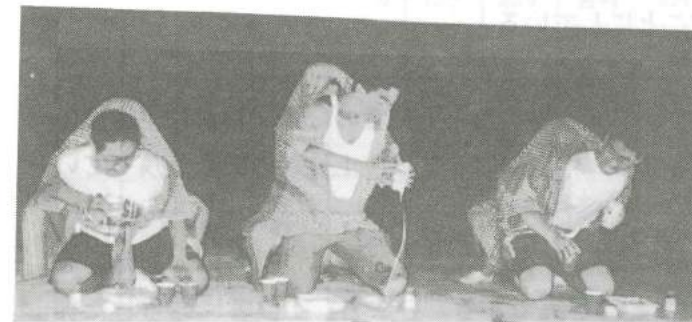
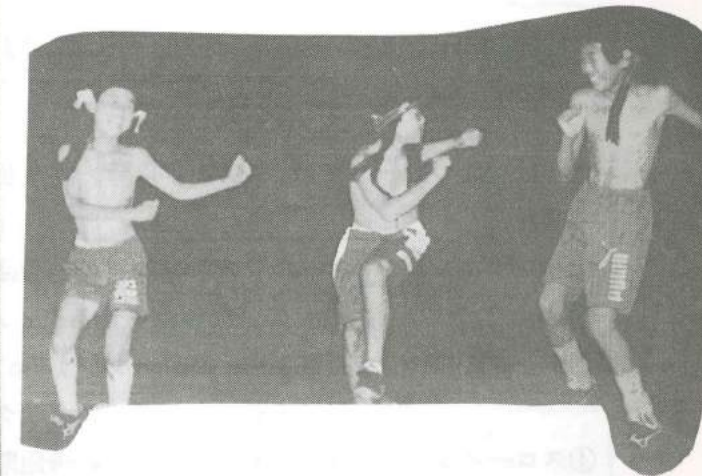
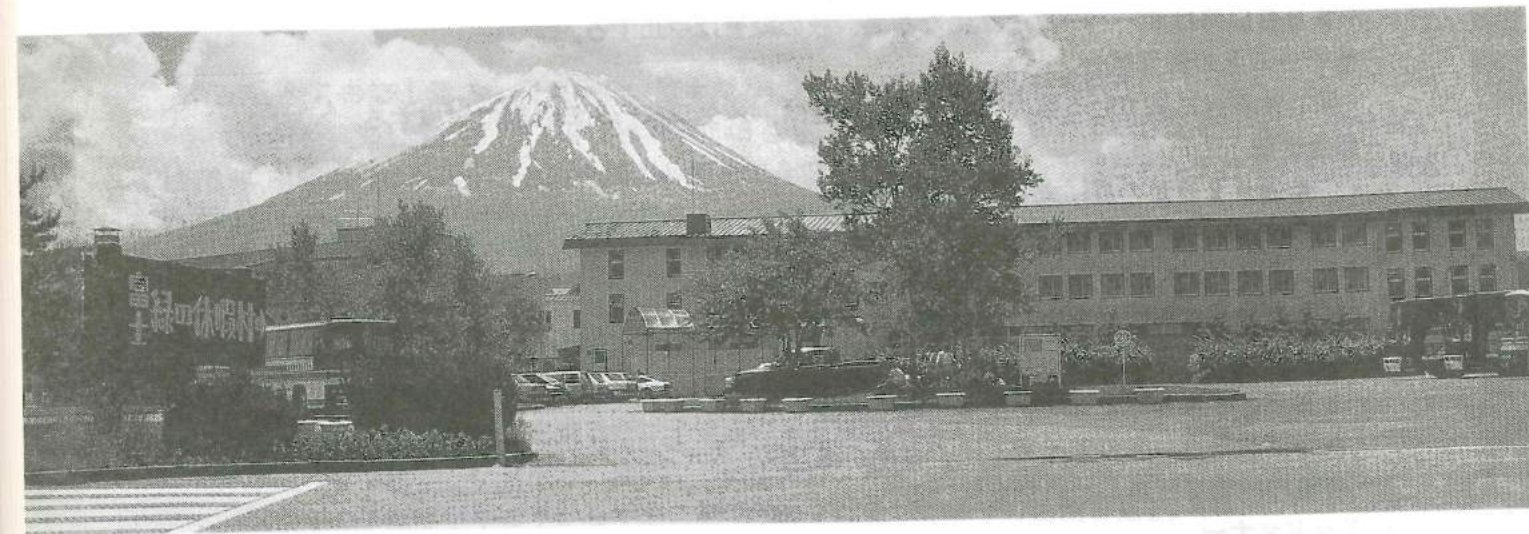
一 その他

- ・あいている時間に父母/コーチと子供の試合等で楽しむ。

夏期合宿スケジュール

第1日目	第2日目	第3日目	第4日目
07:00 下田小集合	06:00 起床	06:00 起床	06:00 起床
08:00 出発	06:20 散歩	06:20 散歩	06:20 散歩
	07:00 朝食	07:00 朝食	07:00 朝食
09:00 サービスエリア で休憩	08:30 グランド集合	08:30 グランド集合	08:30 グランド集合
	09:00 班対抗戦開始 AMに3試合	09:00 班対抗戦開始 AMに3試合	09:00 班対抗戦開始 最後の3試合
11:00 緑の休暇村到着			11:00 お風呂
	11:00 飯盒炊飯開始	12:00 昼食	12:00 昼食
12:00 昼食	12:00 昼食、後片付け 休憩(昼寝)	休憩(昼寝)	12:30 成績発表 表彰式
14:00 グランド集合 スキルテスト 実施	14:00 班対抗戦開始 PMに3試合	14:00 班対抗戦開始 PMに3試合	13:30 自由時間
17:00 スキルテスト 終了	その後練習等 実施	その後練習等 実施	14:30 出発
18:00 夕食	17:00 練習終了	17:00 練習終了	16:00 サービスエリア で休憩
	お風呂	お風呂	
19:00 ミニサッカー (体育館)	18:00 夕食	18:00 夕食	18:00 下田小到着 解散帰宅
21:00 お風呂	19:00 お風呂	19:00 お楽しみ会	
		お風呂	
21:30 就寝時刻	21:00 就寝時刻	21:30 就寝時刻	

合宿での各種スナップ写真



スポーツテスト記録

たちばなキッカーズでは、1978 年以降、年 1 回夏の合宿時に以下の 5 種類のスポーツテストを実施してきた。

- ①リフティング : ボールリフティングの連続回数を計測。体のどの部位を使っても良い。
 - ②30m 走 : 30m の直線距離を走るタイムを計測。
 - ③ドリブル : 高さ 1.5m のボールを 1.5m の間隔で 10 本立て、1 本目のボールから 5m の位置からスタートして、ジグザグドリブルで往復するタイムを計測。
 - ④スローイン : スローインのボールの飛距離を計測。
 - ⑤プレスキック : 15~20 度の角度の範囲内で、プレスキックのボールの飛距離を計測。
- それぞれのテストは 2 回行い、良い方の記録を残すことにしている。

次ページ以降に、L (5,6 年生)、LL (3,4 年生) の各年度の平均値と上位者の記録、および平均値の各年度の変化を示した。残念ながら 1982 年度以前と 1988 年度に関しては、上位者の記録が残っていない。また、歴代の最高記録を「たちばな記録」として示している。

このスポーツテストが、夏の合宿における子ども達の目標の 1 つであり、特に「たちばな記録」を更新することは、大きな目標であり、名誉であったことは事実である。いまでも、上位者に送られた楯とメダルを大切にしている OB も少なくないことと思う。

このように長い間行われ、また実際に効果も上げてきたスポーツテストであるが、ここ数年コーチの間から「よりスキルに重点を置いたテストにしたほうが良いのではないか」という意見が出され、そのようなテストの方法について、案を出して検討を加えていた。そのような時に、日本サッカー協会から「スキルテスト」が発表され、検討した結果、1998 年の合宿から、この「スキルテスト」を実施することに決定した。

「スキルテスト」の詳細については、日本サッカー協会からの刊行物などを参照していただきたい。以下に、1998 年度の平均値と、上位者の記録を示す。

	人数	ボールリフティング		内通しシュート			ボールコントロール			ドリブル & パス		ターン		合計得点
		回	点数	上	下	点数	トラップ	パス	点数	タイム (s)	点数	タイム (s)	点数	
L (5,6 年) 平均	18	63.5	8.6	0.9	0.7	3.6	4.7	4.2	8.9	15.1	5.4	6.9	6.7	33.1
LL (3,4 年) 平均	21	18.4	4.6	0.7	0.4	2.8	3.5	2.9	6.4	19.0	2.7	8.1	4.7	21.2
上位者														
菊地 雄一郎	6 年	100	10	3	0	7	5	5	10	11.3	9	5.5	10	46
樋口 聖	5 年	100	10	2	1	6	5	4	9	13.0	7	6.4	8	40
徐 森	6 年	58	9	1	2	5	5	4	9	13.3	7	6.3	8	38
守山 大輝	6 年	100	10	1	1	4	5	5	10	14.9	6	7.4	6	36
浅原 順	4 年	40	8	2	0	5	5	4	9	13.9	7	6.9	7	36

L(5年生、6年生)の記録

平均値							上位者の記録									
年度	人数	リフティング	30m走	ドリブル	スローイン	プレスキック	リフティング		30m走		ドリブル		スローイン		プレスキック	
1978	25	36	5.94	26.60	12.0	23.0							本間	19.7		
1979	28	66	5.94	26.61	11.2	21.5					村上	19.70				
1980	36	52	5.78	27.92	10.9	18.4			今野 大滝	5.00 5.00						
1981	45	48	5.76	25.38	11.5	18.9	中野	850								
1982	40	63	5.53	25.28	12.0	22.8									谷嶋	35.8
1983	37	32	5.70	24.76	11.5	23.2	河本充 伊藤 大村	205 189 127	辛 鈴木 山本	5.10 5.10 5.10	河本充 佐藤 田中	20.00 20.80 20.90	佐藤 河本充 田辺実 鈴木	18.2 17.3 15.3 15.3	鈴木 田辺実 内田	34.6 32.8 30.5
1984	36	84	5.61	25.19	11.9	20.0	内田 野里 田辺義	884 347 337	永長 笠原 田中	4.91 5.17 5.21	野里 配野 田中	19.98 20.00 21.12	小栗 野里 田中	16.3 15.8 15.3	樺沢 仁平 篠原雄	31.2 30.3 29.2
1985	28	36	5.68	25.50	12.5	22.9	吉村 田辺義 丸山	224 202 167	安士 大野 伊藤	5.17 5.22 5.30	伊藤 田辺義 草野	21.00 21.25 22.45	小栗 伊藤 福谷	19.9 16.6 15.2	箕輪 吉村 丸山	31.3 31.0 30.0
1986	32	68	5.70	25.63	12.6	23.0	吉村 越前 出口 十河	392 320 156 156	箕輪 伊藤 海野	4.98 5.17 5.20	草野 室伏 海野	21.08 21.92 21.97	伊藤 福谷 芳賀	18.1 17.3 15.9	箕輪 福谷 吉村	32.7 31.9 31.4
1987	39	35	5.53	24.50	12.2	22.9	十河 横山 薄木	211 105 91	青木 出口 世良	4.96 4.98 4.99	海野 出口 薄木	19.95 20.05 20.53	海野 田辺 田島	18.2 15.5 15.0	秋元 田中 海野	34.6 33.5 33.5
1988	39	102	5.56	23.53	12.3	22.9			秋元洋	4.74	佐々木	18.96			秋元洋	37.7
1989	27	69	5.53	23.50	13.0	25.1	阪本 今西 佐藤	257 225 219	内山 吉川 今西 沢田	5.06 5.11 5.13 5.13	阪本 三田 関	19.70 20.00 20.30	沢田 内田 内山 吉川	21.2 17.8 16.3 16.3	吉川 沢田 今西	33.3 33.0 32.3
1990	23	59	5.50	24.34	13.7	22.9	上江 秋元純 関	388 309 132	辻剛 木津 遠藤	4.97 5.05 5.07	佐藤 木津 上江	18.66 20.09 20.92	松永 内田 田賀糸 藤本	21.6 18.4 17.2 17.2	秋元純 鈴木 横山	33.5 31.9 31.8
1991	24	28	5.40	27.10	12.5	23.9	木津 杉本 池野	178 97 64	辻剛 遠藤 杉本	4.58 4.62 4.79	浜田 遠藤 杉本	20.12 22.23 22.33	遠藤 木津 藤本	18.6 17.7 17.4	遠藤 藤本 谷嶋	37.8 37.0 32.0
1992	25	42	5.47	25.91	11.8	22.7	杉本 池野 小田	216 109 102	杉本 小関 浜田	4.48 5.05 5.09	杉本 谷嶋 箕輪	19.96 20.19 22.00	谷嶋 春原 中村	18.2 15.2 14.5	谷嶋 浦田 堀口	35.0 31.0 31.0
1993	23	63	5.77	27.23	10.4	15.4	渡辺 松久保 菅野	532 241 109	九鬼 九鬼飛 福間	5.18 5.20 5.23	菅野 松久保 中田	20.00 22.48 22.52	菅野 中田 田端	13.0 12.7 12.7	増田 菅野 渡辺	22.3 21.8 21.0
1994	26	80	5.56	24.30	11.5	19.8	平井 菅野 松久保	426 366 265	篠原 菅野 九鬼飛	5.07 5.08 5.10	菅野 九鬼士 内山	18.81 19.86 20.22	杉山 菅野 北島	17.1 16.6 15.2	菅野 杉山 福間	31.1 29.9 25.3
1995	25	92	5.32	23.31	13.6	24.2	小西 長尾 松久保	423 406 392	永田 小瀬村 昆	4.76 4.79 4.99	小瀬村 横山 小西	17.92 20.01 20.31	北島 坂川 小西	18.5 17.9 17.1	白石健 長尾 小谷	33.5 31.8 29.1
1996	32	113	5.48	22.49	12.0	22.9	白石健 横山 新井	845 714 169	鳥見 鈴木 庄司	4.62 4.72 4.79	堀内 横山 鈴木	17.03 17.11 18.60	鈴木 庄司 白石健	18.6 17.9 17.5	白石健 庄司 古田	35.4 33.8 33.2
1997	33	189	5.42	22.51	13.0	23.0	堀内 菊地 白石直	2898 746 441	徳永 菊地 白石直	4.88 4.88 4.98	堀内 菊地 細井	17.46 18.04 18.17	松田 菊地 高井	16.5 16.2 15.0	徳永 鷺沢 菊地	38.8 30.2 29.9

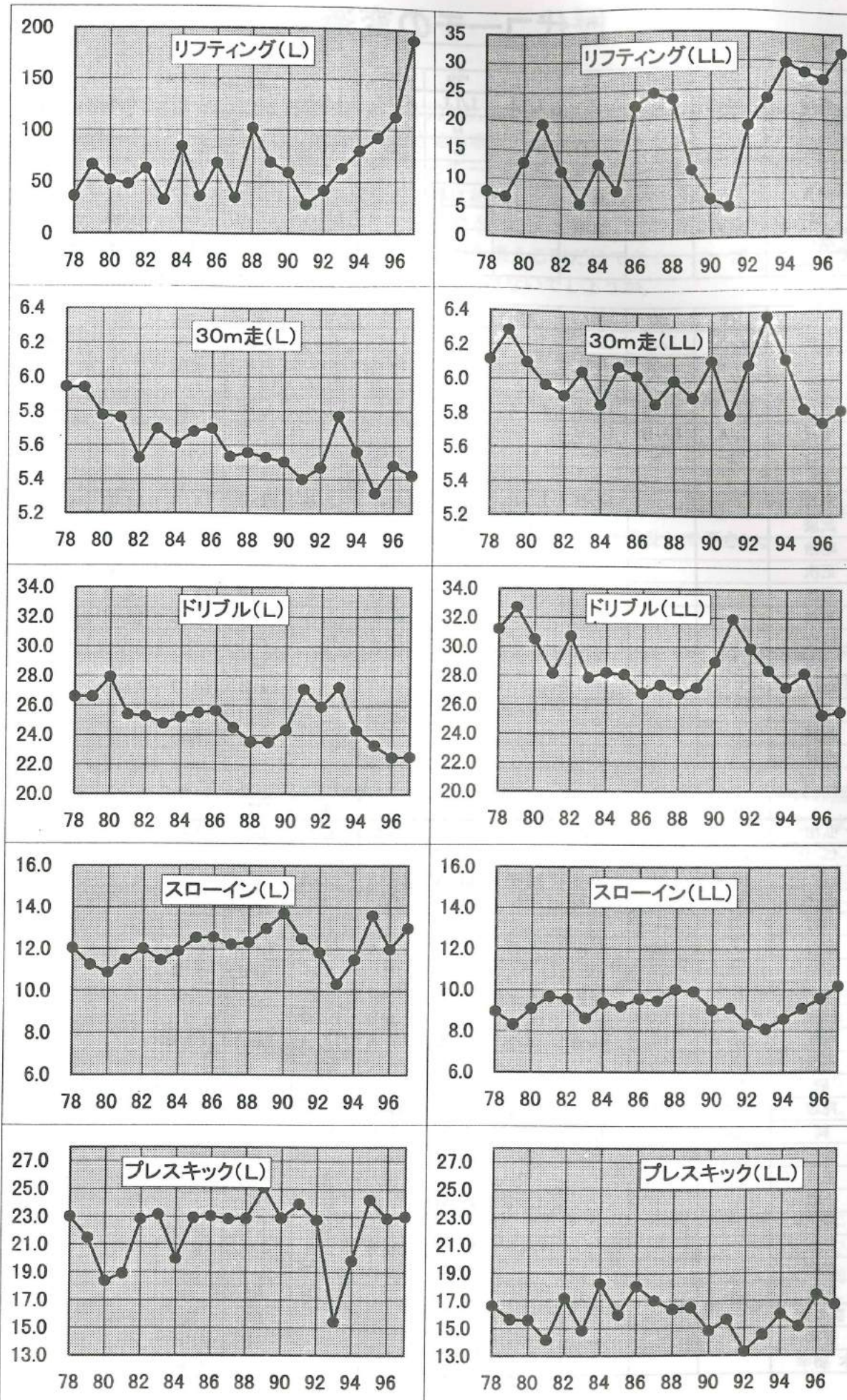
は、たちばな記録を示す。

LL(3年生、4年生)の記録

年度	人数	平均値					上位者の記録				
		リフティング	30m走	ドリブル	スローイン	プレスキック	リフティング	30m走	ドリブル	スローイン	プレスキック
1978	21	7.7	6.1	31.2	8.9	16.6					村上 30.5
1979	24	6.9	6.3	32.7	8.3	15.6					
1980	27	12.8	6.1	30.5	9.1	15.6					
1981	22	19.5	6.0	28.1	9.7	14.2	青木 178		河本充 22.00		
1982	22	11.4	5.9	30.7	9.6	17.2		織沢 5.30		内田 14.2	
1983	12	5.9	6.0	27.9	8.6	14.9	吉村 11	大野 5.80	田辺義 23.10	三橋 10.2	吉村 19.5
							田辺義 10	芳賀 5.80	前島 24.80	大野 10.0	田辺義 18.9
							大野 10	草野 5.80	吉村 26.00	前島 9.9	室伏 18.4
1984	24	12.7	5.9	28.2	9.4	18.3	吉村 109	松崎 5.29	吉村正 21.18	伊藤 13.5	吉村 25.6
							海野 32	箕輪 5.31	窪 23.56	福谷 13.0	福谷 24.1
							伊藤 18	海野 5.42	伊藤 23.64	芳賀 12.2	草野 22.9
							草野 18				
1985	28	8.1	6.1	28.1	9.2	16.0	海野 34	出口 5.47	海野 20.11	海野 11.8	内田 23.4
							出口 23	猪狩 5.51	十河 23.39	山口 11.6	田辺貴 20.9
							高木 13	武田 5.54	山口 24.50	中村 10.4	海野 20.9
							猪狩 13				
1986	36	22.3	6.0	26.8	9.6	18.1	秋元洋 94	辻 5.38	猪狩 22.47	中村 13.4	秋元洋 29.6
							猪狩 84	今西 5.38	勝田 23.17	佐々木 12.8	田島 28.2
							薄木 81	猪狩 5.42	大輪 24.19	秋元洋 12.6	青木 24.4
										田島 12.6	
1987	36	24.5	5.9	27.4	9.5	17.0	柴田淳 305	武貞 5.20	三田 20.79	鷺津 12.6	沢田 25.0
							吉川 83	沢田 5.32	森本 21.81	柴田淳 12.6	本原 23.7
							本原 81	中田 5.40	小山 21.98	吉川 12.4	鷺津 21.2
1988	29	23.4	6.0	26.7	10.0	16.4	秋本 143	森木 5.53	佐藤 22.41	内田耕 15.2	秋本 23.8
1989	19	11.5	5.9	27.2	9.9	16.5	小橋典 37	辻剛 5.09	小橋和 22.40	木津 13.5	池野 21.2
							浜田 24	木津 5.30	木津 24.00	遠藤 12.9	木津 20.8
							渡部雄 22	渡部哲 5.39	遠藤 24.30	依田 12.5	小橋典 20.5
1990	28	6.6	6.1	28.9	9.0	14.8	杉本 31	渡部 5.10	森 21.58	杉本 12.5	谷嶋 26.8
							渡部 21	杉本 5.23	谷嶋 24.26	森 12.4	堀口 25.5
							小田 15	池野 5.47	春原 24.42	小田 11.7	森 23.6
1991	12	5.2	5.8	31.9	9.1	15.6	菅野 14	真田 5.33	持丸 25.24	中田 12.0	増田 22.2
							真田 9	中田満 5.51	渡辺 28.48	中田満 10.6	中田満 18.9
							渡辺 8	中田 5.53	真田 28.64	真田 10.3	真田 18.7
							持丸 8				
1992	23	18.9	6.1	29.9	8.3	13.3	平井 122	菅野 5.38	中田 24.33	中田 12.4	菅野 20.5
							菅野 92	山口 5.56	小瀬村 24.97	菅野 12.0	増田 19.8
							小瀬村 57	中田 5.62	菅野 25.20	北島 10.7	中田 19.1
1993	33	23.6	6.4	28.3	8.1	14.5	横山 117	小瀬 5.55	小瀬村 21.38	北島 12.5	緒方 22.6
							長尾 93	昆 5.55	長尾 22.77	緒方 11.6	阿南 21.2
							平井 75	鈴木 5.76	横山 23.11	小西 10.0	北島 21.2
1994	37	29.8	6.1	27.2	8.6	16.0	長尾 270	昆 5.17	横山 21.15	緒方 12.0	緒方 28.3
							緒方 155	長尾 5.32	堀内 21.43	白石健 11.5	長尾 27.8
							堀内 105	鈴木 5.34	石井 21.62	鈴木 11.4	横山 24.1
1995	41	28.2	5.8	28.2	9.1	15.1	堀内 359	白石直 5.11	堀内 19.95	松田 14.1	古田 25.1
							菊地 96	菊地 5.18	菊地 21.34	古田 13.6	白石直 22.9
							宮川 93	高橋亮 5.25	白石直 22.04	白石直 13.3	菊地 21.5
1996	31	27.0	5.8	25.3	9.6	17.4	菊地 265	菊地 5.16	菊地 18.87	菊地 15.4	菊地 28.2
							大井 78	成田 5.16	樋口 20.76	森岡 13.4	大井 25.1
							森岡 78	樋口 5.19	徐 21.60	佐藤敦 12.9	徐 22.8
											森岡 22.8
1997	25	31.7	5.8	25.5	10.2	16.7	庄司 92	成田 5.13	樋口 20.41	森岡 15.8	金子 26.7
							小西 90	佐々木 5.25	森岡 20.58	成田 14.9	森岡 24.5
							森岡 88	庄司 5.30	庄司 20.60	松田 13.3	成田 23.6

は、たちばな記録を示す。

スポーツテスト平均値の推移



歴代コーチの変遷

	'68	'69	'70	'71	'72	'73	'74	'75	'76	'77	'78
曾田 弘治	L	L	L	L/LL	L/LL	L/LL	L/LL	L	L-A	L-A	L-A
池畑 健一郎			L	L	L	L					
杉崎 実			L	L	L	L	L	L	L-A		
佐野 仁							L	L	L-B	L-B	L-B
安沢 武芳							L	L	L	L	L
大島 勉							LL-A	LL-A	LL-A	LL-A	LL-A
永田 欣也									LL-B	LL-B	LL-B
末山 本村									LL-A	LL-A	L-A

	'79	'80	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87	'88	'89
曾田 弘治	L-A	L-A	L-A			L-A	L-A	L-A	L-A	L-A	L-A
佐野 仁	L-B	L-B	L-B	L-B	L-B	L-A	L-A	L-A	L-A	L-A	L-A
大島 勉	LL-A	LL-A	L-A	L-A	L-A	LL-A	LL-A	LL-A	LL-A	LL-A	LL-A
永田 欣也	LL-B	LL-B	LL-A	LL-A	LL-A	LL-B	LL-B	L-B	L-B	L-B	L-B
末山 本村	L-A	LL-B	LL-B								
中林 由行	フリー	フリー	フリー	フリー	フリー	フリー	フリー	フリー	フリー	フリー	フリー
佐藤 章			L	L	L						
前島 宏行			LL-B	LL-B	LL-B	LL-B	LL-B	LL-B	LL-B	LL-B	LL-B
吉村 武康				L	L	L	L	L			
田辺 昭治				SL	SL	SL	SL	SL	SL	SL	SL
南間 正次					LL-A	L-B	L-B	L-B	L-B	L-B	L-B
横川 芳江					SL	LL-B	LL-B	LL-B	LL-B	LL-B	LL-B
村松 理雄						LL-B	LL-B	LL-B	LL-B	LL-B	LL-B
田島 直樹						SL	SL	SL	SL	SL	
柴田 幸吉							SL	SL	SL	SL	
薄木 雄次								LL-B	LL-B	LL-B	LL-B
佐藤 敬									LL-A	LL-A	L-B
内山 義嗣									LL-B	L-B	L-B
渡辺 邦雄											SL

	'90	'91	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98
曾田 弘治	L-A	L-A	L-A	L-A	L-A	L-A	L-A	L-A	L-A
佐野 仁	L-B	L-B	逝去						
大島 勉	LL-A	LL	LL-A	LL-A	LL-A	LL-A	LL-A	LL-A	LL-B
永田 欣也	L-B	L-B	L-B	SL	SL	SL	SL	SL	LL-A
中林 由行	フリー	フリー	フリー						
前島 宏行	LL-A	LL	L-A	L-A	L-A	LL-A	LL-A	LL-A	LL-B
田辺 昭治	SL	SL	SL	SL	SL	SL	L-B	L-B	L-B
南間 正次	L-B	L-B	L-B	L-B	L-B	L-B	L-B	L-B	L-B
横川 芳江	LL-B	LL	LL-B	LL-B	LL-B	LL-B	LL-B		
村松 理雄	LL-B	LL	LL-A	LL-A	LL-A	LL-A	LL-A	LL-A	LL-B
薄木 雄次	LL-B	LL					逝去		
佐藤 敬	L-B								
渡辺 邦雄	SL	SL	LL-B	LL-B	L-B	L-A	L-A	LL-B	
中野 純	L-A	L-A	L-A	L-B	L-B	LL-B	L-B	フリー	
緒方 修一			SL	SL	LL-A	L-A	LL-B	LL-B	フリー
堀内 正一				SL	SL	SL	SL	L-A	SL
新井 一成				LL-B	LL-B	L-B	L-A	LL-B	L-B
細井 雄二					SL	SL	SL	L-A	LL-A
安戸 正人					LL-B	LL-B	L-A	L-A	L-A
木村 尚嗣						LL-B	LL-B	L-B	L-A
鈴木 彰浩							LL-B	SL	フリー
五嶋 喜久夫								SL	SL
伊藤 直和								SL	SL
佐々木 勝幸									LL-A

現役コーチ陣からのメッセージ

田辺 昭治……子供を鍛えることの大切さ

近頃の子供は、体格は良くなったが、体力は劣るとも言われています。体力をつける事は、身体各部分を効果的に働かせ、機能を向上させる事、つまりスポーツを通して体力の向上を図る事だと思います。運動(サッカー)をする事によって一つの事に情熱を注ぐ事は、自分自身が汗を流し、苦しい辛い事を何とかやり抜き、自分の限界に挑戦してみる事などにつながると思います。夏の暑い時の練習や、冬の寒い時の練習の苦しさや辛さに耐える事で、忍耐力や強固な意志をもった人間に成長する事になります。又、スポーツで体力を鍛える事だけでなく、知・情・意・体の調和のとれた子供に鍛えるのが我々コーチの役割、任務ではないでしょうか。

村松 理雄

たちばなキッカーズ 30 周年おめでとうございます。

監督、コーチ、先輩達の築いた 30 年の歴史と伝統、そして、たちばなの精神をこれからも 20 年、30 年と受け継がれる事を心より信じています。

緒方 修一

自転車でワールドカップを見に行ける 2002 年を楽しみに、日々サッカーを楽しんで下さい。サッカーを通して、成功、失敗を数多く経験し、ハートの強い人間に成長して下さい。

21 世紀は君達の時代です！

堀内 正一

ある日突然に 10 が出る様にはならない。一つ一つの積み重ねが 10 になる。何か壁にぶつかった時は、1 から始めよう。2、3、4、……と階段を上がり、立ち止まらず自分の中の無限の可能性に挑戦しよう。まずは 1 から始めよう。ゼロはゼロでしかないのだから。

新井 一成

たちばなキッカーズのコーチを始めて 6 年になります。30 年のたちばなキッカーズの歴史のたった 5 分の 1 ですが、それでもいろいろなことを経験させてもらい、また学ばせてもらいました。その中で、今でもいちばん難しいと思うことは“勝負へのこだわり”についてです。「勝つことだけが目的ではない」と口で言うのはたやすいのですが、それをどのように子どもたちに伝えるのか、特にゲームでなかなか勝つことのできないようなチームの子どもたちをどのように指導していけばよいのかは、コーチとしての永遠の課題なのではないでしょうか。

この 6 年の間にも、勝利至上主義ではなく、子どもたちのスキルの向上を重視するチームが増えてきているように思います。それでも一方で、体力トレーニングを積んで、外から蹴り込んで相手のミスを狙うようなチームも少なくはなく、しかし、そういったチームの子どもたちの持つ一種の“たくましさ”も魅力的ではあります。

こうやって考えてみると、少年サッカーチームのコーチという仕事も、なかなか難しく、しかも魅力的で、自分も含めていつまでも足を洗えない先輩方の多いこともうなづけるわけです。

細井 雄二

たちばなキッカーズ 30 周年おめでとうございます。

キッカーズと私の出会いは、長男がサッカーを始めキッカーズに入り、親もサッカーに夢中になり、次男が幼稚園の年長で入ったのをきっかけに、コーチを手伝う様になり、早いもので、5 年が過ぎようとしています。子供達との練習はとても楽しく、コーチ陣のアドバイスを良く聞き、一步一步確実に成長している事に喜びを感じます。これからもサッカーを通じて、数多くの子供達との出会いを楽しみにしています。

木村 尚嗣

創立 30 周年、おめでとうございます。

私は学生時代にサッカーをやっていましたが、暫くの間、サッカーから遠ざかっていました。自分の子供の影響でコーチとしてお手伝いすることになって、4 年目になります。私の時代から比較すると、あらゆる面で恵まれた環境でサッカーができるようになっていきます。特に子供達の技術の進歩は目を見張るばかりです。その反面、サッカーの本当の楽しさのほうである「ピッチの中では自分で判断し、自分でプレーを創造する」ということが薄れつつあるような気がします。言われたことだけができるということではない、たちばなの自由な環境から子供達が成長していくことが、たいへん楽しみだと思っています。

五嶋 喜久夫

SL を担当して 2 年目です。今の子供達は元気よく、練習に励み、みんながんばっています。今後、LL、L と上に上がるにつれて、悩む事も増えてくると思いますが、サッカーを続けていって欲しいと思います。

伊藤 直和

たちばなキッカーズ選手諸君！ 何事にも途中で諦める事なく、最後までしっかりと成し遂げる気持で、サッカーに打ち込め！！

佐々木 勝幸

たちばなキッカーズ 30 周年おめでとうございます。

息子が「川崎のモスラ(ラモス)って知ってる？」と言い出してサッカーを始めたのがきっかけとなり、SL から始めて 4 年が過ぎようとしています。

私自身がコーチとして関わったのは、この 30 年という長い歴史の中で、まだ 1 年間でしかありません。息子と共にサッカーを始めて、いつのまにかコーチまでやっている自分が不思議です。30 年の歴史は大きな区切りでもあります。今後、また大きく飛躍するために、息子と共に、そして多くの仲間達と共に、新たな歴史を築いていきたいと思っています。

佐野さんとたちばなキッカーズ

—1992 年 1 月 11 日に他界された佐野仁氏を偲んで—

たちばなキッカーズ監督 曾田 弘治

1992 年夏、その年で 18 回目の富士合宿が終わった。富士合宿と言えば佐野さん。いつも二ヶ月位前から気を使ってくれた佐野さんであったが、前年奥さん同伴で参加されたのが最後となった。1992 年は合宿間際になって日程変更があったため、いつもの「緑の休暇村」ではなく、河口湖畔での 4 日間となったが、長年にわたり敷かれたレールに乗って無事終える事が出来た。ここでしばし「佐野さんとたちばなキッカーズ」を振り返ってみたい。

佐野さんは少年サッカーのメッカ清水市の出身、しかも高校サッカーで名高い清水東高の OB、但し高校時代はバスケットボールの選手で、他に登山の経験も深く、社会人になってから登山で国体の選手に選ばれた事があるとか。この 10 数年間は、サッカーが佐野さんの郷土愛に結びついた。

たちばなの縁は、長男の祐一君(たちばな 8 期生)が入ってからで、昭和 49 年には父親コーチ第 1 号として、祐一君と同期の安沢芳生君のお父さんと共に、当時制定されたばかりの 4 級審判の資格を取得し、その後横浜サッカー協会の少年委員を引受け、深く少年サッカーにかかわる事になった。

昭和 49 年の年末に佐野さんは、日吉の社宅を出られ港南区の現住所に居を構えられたが、祐一君がたちばなでサッカーを続けたいという事で、その後は愛車ルーチェで、親子で下田小や試合会場を巡る事になった。当時下田町は元気一杯の子供が満ち溢れ、なかでもワンパクで名の知れた子は大体たちばなに入った。ふだんの日でもオレンジユニフォームや紺のたちばなジャージーが幅を利かせていた。当然入会希望者も多く、制限せざるを得ない時代であった。祐一君は昭和 52 年春卒業して離れたが、この様な状況で、佐野さんには引き続きコーチとして残ってもらった。

たちばなの最重要行事となった恒例の富士合宿は、昭和 50 年から始まったが、佐野さんは勿論第 1 回から参加。例のスポーツテスト等に使う鉄棒と台は、佐野さんが自分で考案し、つくり、運んできたものである(残念ながら、1991 年の下田小の工事で紛失し、現在のものは 2 代目)。

かつては合宿の 1 ヶ月位前から、会社の昼休みにランニングをしてコンディショニングづくりに万全の注意を払う佐野さんであった。富士山は、青春時代に数え切れないほど登った山でもあり、特別の思い出があったに違いない。1991 年の合宿前は、合宿スケジュールやスポーツテストの表の作成、個人記録の整理等を病床で仕上げ、「僕は何もする事がないから……」と謙遜して苦笑された姿が目につく。今後も富士合宿が続く限り、佐野さんの思い出も語り継がれていく事だろう。 合掌

(たちばなニュース No.72 平成 4 年 4・5・6 月号から抜粋)

薄木コーチを偲んで

—1996 年 10 月 6 日に他界された薄木雄次氏を偲んで—

たちばなキッカーズ LL コーチ 前島 宏行

薄木コーチがたちばなの LL コーチ陣に加わったのは、お嬢さんの愛ちゃんが LL を卒業し、雄君が替わりに入った頃だろうか。丁度、私が永田コーチと担当していた LL-B のメンバーが 60 名を越える規模になった頃である。コーチの絶対数が足りず、適任者を見つけるにも苦慮していた時、ミニバスケットのコーチとして指導にあたっていた薄木さんに、メンバーの親御さんであり、子供達の指導経験を生かしてもらおうとお願いしたところ、「わかりました、やりましょう」の有り難い一言で即決、たちばなのコーチとして参画して頂く事になったのである。実技の面でも、横への素早い動き、ダッシュの大切さなど、バスケットと相通ずるものがあり、コーチ間のチームワーク、信頼感も最高な頃であった。こうして薄木／村松／私の三人体制で臨む事になり、やがて LL-B の最盛期を迎える事になる。

私の思い出の中の薄木コーチは、バスケットボールで鍛えた長身でスリムなボディーと自慢の口ヒゲ

(我家の三男坊いわく「マカロニほうれん荘」のトシちゃんそっくり。ヒゲコーチ第1号)で、淡々と、時には熱っぽく子供達に語りかけ、わかり易い言葉で情熱をこめて子供達を納得させていく話術など、学ぶところが多かったものである。国際チビサッカー大会でブロック優勝したあと、三人で祝杯を挙げた時、私が「あのメンバーでは優勝してあたり前のような気がする」と言ったら、「前さんはカワイクナイ、もっと素直に喜べ」としかられた事も、彼の心情の発露であったと思う。なかなかの酒豪で、前夜のお酒がさめず、匂いで二人が酔ってしまうのではないかと思った事が何度かあり、これも楽しい思い出の一つである。

その後、サッカーとミニバスのコーチを兼任され、忙しい日々を過ごされていたが、やがてたちばなの子供達の減少と共に自ら望んでミニバスコーチ専任に戻り、我々も一抹の寂しさを感じていた矢先に、入退院の知らせ。そして、復帰後間もない再入院と別れへの旅立ちであった。本当に短い間ではあったが、多くの事を我々に残してくれた。

今でも夏の暑い日の練習の合間に涼しい風が吹き抜けて、熱くなった身体がホッと休まる時、ふと薄木さんと一緒に、汗だくになってグラウンドを走り廻っていた時の事が目に浮かび、在りし日を思い出すのである。今でも、立派に成長されたお子さん達を始め、ご家族をどこかで見守っていることだろう。

「おい、たまには遊びに来いよ、一杯やろーぜ、村松さんと待ってるよ!」

第18期卒業生と佐野コーチ、薄木コーチ（最後列の右から五人目と二人目）



昭和62年3月 第18期たちばなキッカーズ 卒業記念

クラブ規約の変遷

創立当初のたちばなキッカーズクラブ規約

たちばなキッカーズクラブ規約	
1. 本クラブは「たちばなキッカーズ」と称する。	8. クラブ員は次の会費を負担する。
2. 本クラブは、小学校3年生より6年生までの少年をもって正会員とし、中学生を準会員とする。入会希望者は所定のテストを受けた上入会できる。	(1) 会費 月額 300円
3. 本クラブは、サッカーの技術向上を通して、会員相互の親睦と心身の鍛錬をはかることを目的とする。	(2) 入会金 300円
4. 本クラブは、次の役員によって運営される。	(3) スポーツ安全部会傷害保険費 年間 300円
会長・監督 曾田 弘 治	9. 会費について
コーチ 杉 崎 実、大 島 勉	(1) 会費は3ヶ月分ずつまとめて4月、7月、10月、1月の第1日曜日に納める。
技術・戦術顧問 中山 昌 平	(2) 会費納入後を納入日の前週に課す。
会長はクラブを統括し、監督は試合を指揮する。コーチは監督を補佐する。	(3) 一度納めた会費は、その後脱退しても返納しない。
5. 本クラブは、クラブの目的を達成するため次のことを行う。	(4) 会費は、①試合参加費 ②通学交通費 ③用具代 ④クラブ行事(たちばな杯争奪、年2回実施)、贈証費などの諸費用に当てる。
(1) サッカー技術向上のため雨天の場合を除き次のような練習日を設ける。	(5) 会計に不足が生じた時は、臨時に会費を徴収することができる。
ただし試合等の事情により練習時間を変更することもある。	(6) 会費の収支はつねに明らかにし、年1回決算報告を行う。
① 毎日曜日 午前7時～11時	10. ユニフォームは会員個々の負担とし、下記規定のものを用いる。
② 毎土曜日 午後1時～4時(自主練習)	サッカーウェア オレンジ
(2) 神奈川県スポーツ少年団に加盟し、その主催する試合に参加する。	パンツ 紺
(3) 各地の少年サッカークラブとの交歓試合を行う。	スッキング オレンジ
6. 練習中、試合中を問わず、クラブ員としての活動の際のけがについては次の処置をとる。	(補足)
(1) 1週間以上の医師の治療を要するけがについては、主としてスポーツ安全部会傷害保険による。	・対外試合には全員出場めどすが、練習に参加し、積極的なプレーと、より正しいマナーを具る者を優先する。
(2) その他はクラブ内で処置する。	・連絡なく1ヶ月以上にわたって練習に参加しないものは、退会したものとみなす。
7. 本クラブの経費はクラブ員の納める会費をもってあてる。	・会員の人数の都合で、入金申し込みの受付を一時中止する場合もある。
	・会員は自主練習用ボールを各自で用意する。

昭和53年当時のたちばなキッカーズクラブ規約

たちばなキッカーズクラブ規約	
1. 本クラブは「たちばなキッカーズ」と称する。	7. 本クラブの経費はクラブ員の納める会費をもってあてる。
2. 本クラブは、小学校3年生より6年生までの少年をもって正会員とし、中学生を準会員とする。入会希望者は所定のテストを受けた上入会できる。	8. クラブ員は次の会費を負担する。
3. 本クラブは、サッカーの技術向上を通して、会員相互の親睦と心身の鍛錬をはかることを目的とする。	(1) 会費 500円(月額)
4. 本クラブは、次の役員によって運営される。	(2) 入会金 500円
会長・監督 曾田 弘 治	(3) スポーツ安全部会傷害保険費 550円 (年間)
コーチ 大 島 勉、永田 欣 也、 佐 野 仁、安 沢 武 芳	9. 会費について
技術・戦術顧問 中山 昌 平	(1) 会費は6ヶ月分ずつまとめて4月と10月に納める。
会長はクラブを統括し、監督は試合を指揮する。コーチは監督を補佐する。	(2) 会費納入後を納入日の前週に課す。
5. 本クラブは、クラブの目的を達成するため次のことを行う。	(3) 一度納めた会費は、その後脱退しても返納しない。
(1) サッカー技術向上のため雨天の場合を除き次のような練習日を設ける。	(4) 会費は、①試合参加費 ②通学交通費 ③用具費 ④スポーツ少年団加盟費 ⑤クラブ行事(たちばな杯争奪、年2回実施)、贈証費などの諸費用に当てる。
ただし試合等の事情により、練習時間を変更することもある。	(5) 会計に不足が生じた時は、臨時に会費を徴収することができる。
① 毎日曜日 午前7時～11時	(6) 会費の収支はつねに明らかにし、年1回決算報告を行う。
② 毎土曜日 午後1時～4時(自主練習)	10. ユニフォームは会員個々の負担とし、下記規定のものを用いる。
(2) 神奈川県スポーツ少年団に加盟し、その主催する試合に参加する。	サッカーウェア オレンジ、ブルー
(3) 各地の少年サッカークラブとの交歓試合を行う。	パンツ 紺、白
(4) 年1回以上スポーツテストを行う。	スッキング オレンジ
6. 練習中、試合中を問わず、クラブ員としての活動の際のけがについては次の処置をとる。	(補足)
(1) 1週間以上の医師の治療を要するけがについては、主としてスポーツ安全部会傷害保険による。	・対外試合には全員出場めどすが、練習に参加し、積極的なプレーと、より正しいマナーを具る者を優先する。
(2) 1週間以内の怪病については自己負担とする。	・連絡なく1ヶ月以上にわたって練習に参加しないものは、退会したものとみなす。
	・会員の人数の都合で、入金申し込みの受付を一時中止する場合もある。
	・会員は自主練習用ボールを各自で用意する。

たちばなキッカーズクラブ規約

- 1 本クラブは、たちばなキッカーズ・クラブと称する。(略称:TKC)
 - 2 本クラブは、原則として小学校1年生から6年生までの児童をもって正会員とする。
 - 3 入会希望者は入会にあたり所定の手続きを必要とする。
毎年、定例募集は2月末。
原則として、4月、7月、10月、1月を以て正式入会とする。
 - 4 本クラブは、サッカーの技術向上を通じて、会員相互の親睦を図る事を目的とする。
 - 5 本クラブは、クラブの目的を達成する為次のことを行なう。
 - (1) サッカー技術向上のため、次のような練習日を設置する。
 7. 毎日曜日・祭日 午前8時～12時 会場:下田小学校 他
 4. 毎土曜日 午後12時半～5時 会場:下田小学校 他
 - (2) 横浜スポーツ少年団に加盟し、その主催する試合に参加する。
 - (3) 近隣少年サッカー・クラブとの交歓試合を行なう。
 - (4) たちばな杯争奪戦(年2回程度)、その他(夏季合宿等)。
 - 6 練習中、試合中を問わずクラブ員としての活動の際のけがについては次の処置をとる。
 - (1) 1週間以上の医師の治療を要するけがについては、主としてスポーツ安全協会障害保険を適用する。
 - (2) 軽傷の場合は、クラブ内で応急処置をする。
 - 7 本クラブの経費は、クラブ員の納める会費を以て充当する。
 - 8 クラブ員は、次の会費を負担する。

(1) 会費	3ヶ月 4000円
	(中途入会の場合1ヶ月 1400円)
(2) 入会金	1000円
(3) スポーツ安全協会障害保険	年間 400円
(4) 雑費	年間 1000円
 - 9 会費等について
 - (1) 会費は3ヶ月まとめて前納する。
 - (2) 一旦納めた会費は、その後退会しても返却しない。
 - (3) 病気、その他やむを得ない事情により2ヶ月以上休む場合は会費を免除する。
 - (4) 遠征試合の交通費等は、その都度自己負担とする。
 - (5) 会費および入会金は原則として、第4項の行事に充当するものとする。
 会計に不足が生じた時は、臨時に会費を徴集することができる。
 - 10 ユニフォームは、会員ごとの負担とし、下記規定のものを用いる。

サッカーウェア	オレンジおよび青色
サッカーパンツ	紺色
ストッキング	オレンジ色

 ゴール・キーパー用のユニフォームはクラブで用意する。
- 補足
- ・対外試合には全員の出場をめざすが、常に練習に参加し、積極的なプレーと、より望ましいマナーを備えた者を優先する。
 - ・連絡なく1ヶ月以上にわたって練習に参加しない者は退会したものとみなす。
 - ・クラブ所有のユニフォームは試合時のみ着用とし、練習時は個人所有のものを着用のこと。

たちばなキッカーズ指導方針

昭和50年の朝日新聞に紹介された“たちばなキッカーズ”と曾田監督の指導理念

昭和50年(1975年)4月14日 月曜日 12版 スポーツ (8)

南東スポーツ



曾田弘治さん

「公団住宅、マンションに囲まれた横浜市港北区の下田小学校。校庭の敷も敷り、新学年がはじまつたある日曜日。朝の六時すぎはまだだんだん寒かったが、七時開始のチビ子サッカーには「待ち遠しく」といながら早々と七人もの集まり、シニート板はもろもろのこま、そこにあるかき、ベンチにボールをさかんにけり込んでいた。団地に住む杉崎美氏のフエで行われた紅白試合では、ゴールまへの混戦で、キーパーが相手と、激突し、しんじく泣きながら退場の一幕も。

曾田氏は旧制大社中学(島根県)と早大でサッカー部にいたが、「戦中、戦後の混乱でボールをけり足りなかつた」といふ。しかしサッカーの土壌のないあたりしい住宅街の下田町に、偶然の動きから始まり、チームという言葉やスポーツマンな二過性の

「でも多く」この六年間、日曜、休日は、朝七時から指導しているのが曾田弘治氏(日本住宅公団勤務、五十二歳)。

二人のお嬢さんを相手に、校庭でボールをけつた。そのときも「した」好きな人があれば教えてもいいよ」に、長女美奈さん(当時小学校五年)は同級生十二、三人を集めてきたのが四十三歳。これ

となるより、できる事から

「さういふ」(子供)、曾田氏が好きで仕方がない(父)年、高(五、六)学年とも優勝した。

その秋、来日したバレーに直々に「百五郎」は評判がよい。だが、T百貨店屋上で指導を受け、子供をまわすことが、曾田氏もバレーの「ボールは美女を扱うように」からと怒っている、サッカーにやさしく、また出来ることから

だが、クラブの本業生は「これにはあつてない。その理由が受難だ……」と、同氏の顔にはいまいましいさが……。

メモ 横浜市内小、中学校三百五校のうち、学校開放は二百八十六校。これらは一般校(校庭を年間五十日以上開放)二百九十九校、推進校(体育館、校庭を毎日以上百三十三、特別校(同)百四十四校)の三に分れる。市教委は一級校に約五万円、推進校に三十万円、特別校に五十万円を助金、施設維持、修繕費に支給する。

たちばなキッカーズ指導方針

1996.1制定

たちばなキッカーズは地域に根ざした少年サッカークラブであり、いわゆる一般のサッカースクールとは性格が異なる。指導方針は以下の通りとする。

1. 子供達の自主性を重んじ、型にはめる指導ではなく、出来るだけ楽しく、思い切り発散出来るスポーツ活動の場を作る。これにより、子供達でつくる『小社会』の中で、サッカー技術も、サッカー以外の事（仲間意識、規律等）も自分で会得するようにさせる。
2. 子供達が自分等でサッカーを楽しみ、生き生きとし、のびのびとしたサッカーが出来るように指導する。精神的にも技術的にもフェアプレーを遵守させることを基本とし、コーチは目先の勝負には出来るだけこだわらない様にする。
3. サッカーが好きになり、うまくなると、将来Jリーガーを目指す子も出てくるであろう。サッカー技術を身に付ける上で、小学生時代は非常に重要な時期である。従って、コーチは『10年先の完成期にいかにか大きく成長させるか』を念頭に置き、サッカー技術向上に向け、子供達を育成する。尚、各グループを同一技術レベルの小チームに分け、育成する事を基本とする。

そこで、TKCサッカートレーニング要綱に各グループ（SL、LL、L）の技術目標をまとめたが、各グループの基本的な育成方針を以下の通り設定する。

－SL

- ・この時期の子供にはボールに興味を持たせ、ボール遊びの楽しさを教える。
- ・また、豊富な運動経験を持たせることが重要である（たちばな以外で経験させる事も重要）。従って、反復練習よりも色々な練習を取り入れる（サッカー以外でも良い）。

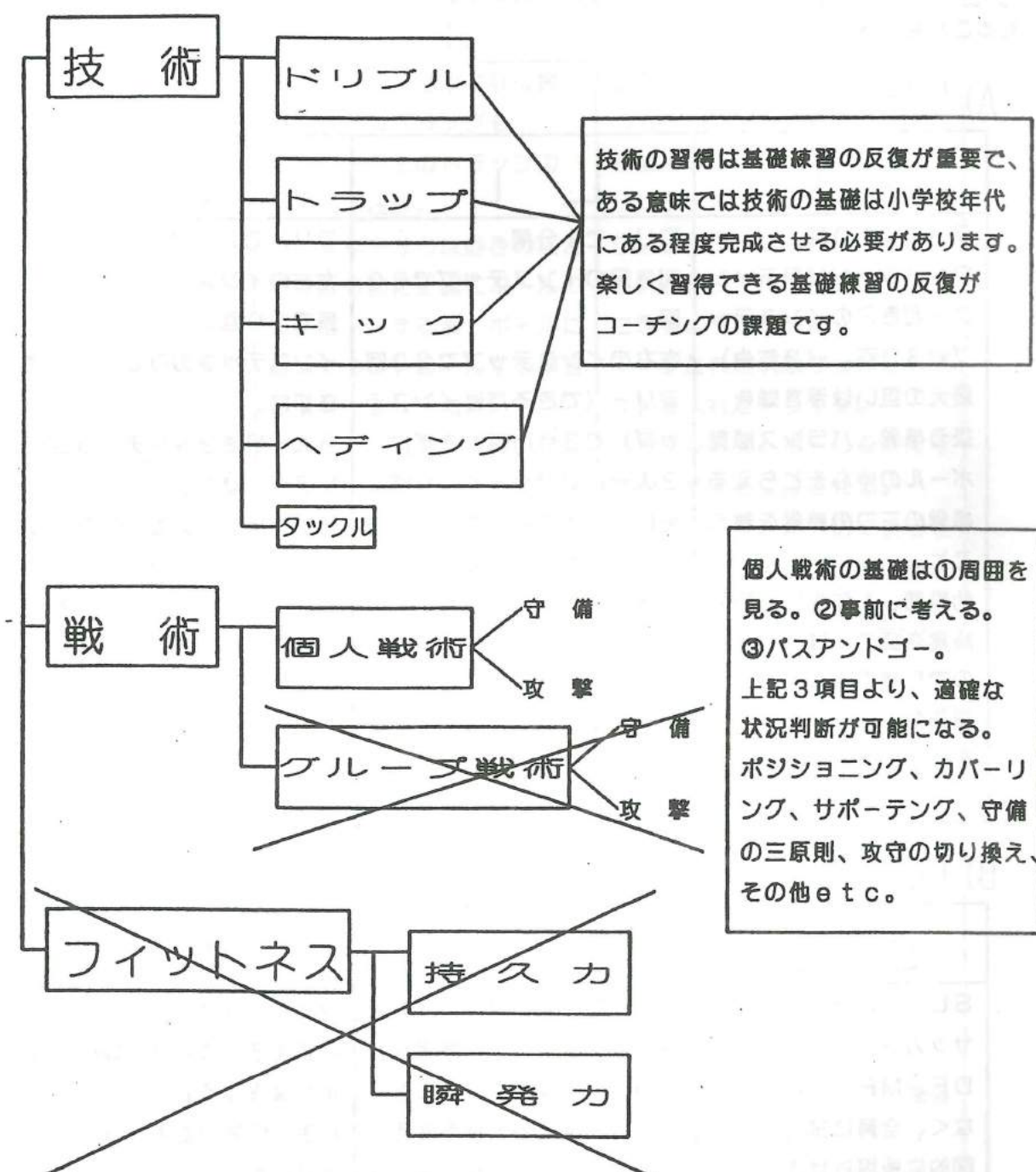
－LL

- ・全ての技術を身につける能力を持っている時期である。スピードやパワーを身につける事は出来ない。
- ・従って、テクニック、正確さ、等の上達に主眼を置き、反復練習によりスキルアップを図る。

－L

- ・LLと同様に、テクニックの上達に主眼を置く。
- ・ゲーム形式（ミニゲーム主体）により、個人戦術（状況把握、パスアンドゴー、等）のレベルアップを図る。
- ・個人戦術の上達により、グループ戦術が成り立つ事を教える。

サッカー上達のための3要素



上記の様にグループ（チーム）戦術及び、フィットネスは少年サッカーには必要なしと考えます。ただし、これはトレーニングについての見解であり、個人的に足が速い選手、パワーのある選手は評価すべきであります。

少年サッカーにおける年齢要素は①カレンダー年齢。(生後何年か)②肉体的年齢。(成長期の個人差)③精神的年齢。(集中力、協調性、その他の個人差)④サッカー年齢。(サッカーを始めてから何年か)の4大要素が考えられます。この4大要素を考慮し、大きな個人差があることを前提に考えていきたい。

A) リフティング

S L	L L	L
フリーで10回。 ワンバウンドリフティングを利き足のインステップで30回。(2年生) 最大の狙いは浮き球を扱う感覚、バランス感覚、ボールの中心をとらえる感覚の三つの感覚を養うこと。 幼稚園、1年生に上記の感覚を望むのは不可能なので目標設定は不要。 重要なのはリフティングを嫌いにさせない事。	フリーで1分間。 利き足のインステップで50回。 左右のインステップで20回。 フリー(できるだけインステップ)で30m落とさずに。 2人一組でフリーで10回。 特に4年生には左右でのインステップ感覚が必要。 注意しなくてはならないのは、モモでのリフティングは簡単なので回数はかせげるが、モモを使うクセがつくと、試合中のボールコントロールがワンタッチ多くなるため注意。	フリーで2分間。 左右のインステップで50回。 頭で10回。 インステップのみで50m落とさずに。 2人一組で2タッチのリフティングを20回。 特に6年生は回数の評価よりもインサイド、アウトサイド、頭など身体全部を使ってできる事、左右交互にできる事を評価すべきである。

B) ドリブル

S L	L L	L
SLに一番必要。 サッカーの出発点。 DF、MF、FWの区別なく、全員に試合中に意図的に多用させる。 技術的にはインサイド、アウトサイド、つま先を使い「けて進む」のではなく「押して進む」感覚を。左右に抜くフェイントをそれぞれ1つ覚え逆をとる楽しさを重視。	ボールだけを見ないで周囲を見ながらのドリブル感覚を。 足の裏を使ったドリブルを。 片足と両足での角度を変えたドリブル。(ジグザグドリブルをインサイド、アウトサイドで。) スピードの変化のドリブル。 キックフェイント、切り返し、引き技、またぎ、回転等の多様なフェイントの勉強。 1対1の強化。	身体を使ったキープのドリブルを覚えさせる。(突破のドリブルとは異なる。) 相手との間合を考えたフェイント感覚を。 常に目的(ドリブルして次はどのようなプレーに結びつけるのか)を意識させる。ドリブルそのものは目的ではない。 ドリブルの後、シュートなのかセンターリングなのか敵を引きつけてパスなのか……………。

C) トラップ(ボールコントロール)

S L	L L	L
幼稚園、1年生には浮き球のトラップは不可能。 ゴロのボールをインサイド、アウトサイドで止まった状態でコントロールする。 2年生は、浮き球をインサイド、アウトサイド、インステップで止まった状態でコントロールする。 バウンドしているボールを何度もバウンドさせず、早く押さえることに注意。 ワンバウンドリフティングで感覚を養わせる。	足のトラップだけでなく頭、胸、モモのトラップも。 ただし、モモのトラップの多用には注意。 特に4年生からは動きのなかで自分の前に正確にボールコントロールする事、ボールに寄ってコントロールする事を習慣づけるよう指導。 注意しなくてはならないのは空中でコントロールできるボールを何度もバウンドさせてしまうようなプレー。	次のプレーを考えたトラップ。(ボールコントロールの角度を変える。) ワンタッチコントロールを重視し、ツータッチ目でシュート、パス、ドリブルに移ることができるよう指導。 マークされた状態からのフェイントを入れたトラップ。 注意するのは、ボールを受ける前の判断力をつけさせる。 (前を向ける状況なのに後ろを向いたままトラップしている。ワンタッチで前を向く。)

D) キック

S L	L L	L
まずは、インステップキックから。2年生になったらインサイド、アウトサイドも。強いキックや遠くへ飛ばす必要はなく、正確さを第一に。 注意することは、①足首を固定レイバクトの位置を覚えさせる。②立ち足をボールの真横に踏み込み、ヒザを曲げる。③インバクトの間までボールを良く見て、ボールの中心をキック。 ④身体の全体のフォームに注意し腕の振り方、フォロースルーに注意。正確なキックをするためにはボールを「送り出す」イメージで。	3年生まではSL同じだが、パスとシュートの区別を考え練習インサイドのダイレクトパスができるように。 立ち足の踏み込む位置によってボールの飛び方が異なることも覚えさせる。 4年生になったらインフロントキックも練習、ボールのインバクトの位置の違いを覚えさせる。 ボレーキック(インサイド、インステップ、アウトサイド)の練習も。 あくまでも、基本中心で、正確さを第一に。	動いているボール(前後、左右等)をインサイド、インステップでダイレクトで正確にキックできるように。 アウトフロント、ヒールキック等のトリッキーなキックも遊びの中に自由に取り入れる。 状況によるキックの種類、強弱の判断ができるように。 身体の全体のフォームが固まったら、ヒザから下の振りの速さを覚えさせる。

主要大会の成績記録

E) ヘディング

S L	L L	L
幼稚園、1年生には必要なし。 ヘディングの最大の敵は恐怖心とケガである。 恐怖心を消し去る適切なコーチングが必要。2年生から構えをしっかりとつくるから、難易度を上げていく。その段階はA、スタンディング B、歩きながら C、スタンディングで方向を変える。 チェックポイントは①ボールが額の中心にまっすぐ当たっているか。②あごと首が固定できているかどうか。③目を開けているか。④ボールを恐れずまっすぐにアプローチしているか。	基本的には2年生の練習と同じ。D、走りながら E、ジャンプだけ F、走りながらジャンプのステップアップも必要。 ヘディングの場合、どうしても防衛本能が働くため、構えや形が悪くなる場合が多い。ヘディングが苦手な選手をじっくり観察してLLの段階で問題点を見つけ、構えや形が悪いのか、タイミングが悪いのか、心理的に問題があるのかを考え修正する必要がある。基本的にはAからFまでのステップの繰り返し。	難易度をアップしてG、相手と競り合いながら H、相手を立たせてジャンプの練習。ダイビングヘッド等のトリッキーなプレーは特別練習する必要はないが選手の希望でやる場合は砂場で十分ケガに注意して。 AからHまでのステップを繰り返し練習。

横浜少年サッカー大会 (新5・6年生による新人戦) : 1月開催

年度/実施年	回	優勝	準優勝	第3位	第4位	チーム数
S 50/51	1	山王谷	横浜東	たちばな	FC 本郷	23
51/52	2	山王谷	たちばな	駒林/クリッパーJ	—	27
52/53	3	たちばな	山王谷	横浜東	篠原つばめ	32
53/54	4	たちばな	横浜東	駒林	山王谷	39
54/55	5	トライスター	黒滝	山王谷	夏山	52
55/56	6	たちばな	港南台	FC 本郷	駒林	62
56/57	7	駒林	横浜東	山王谷	たちばな	61
57/58	8	山王谷	FC 本郷	たちばな	黒滝	66
58/59	9	FC 本郷	駒林	夏山	伊勢山	79
59/60	10	FC 奈良	あざみ野	駒林	FC 野庭	79
60/61	11	アムゼル	駒林	六浦少年	フローラ	86
61/62	12	勝田	FC 本郷	保土ヶ谷エムフィス*	文庫	93
62/63	13	日産 FC	FC 隼	若葉台	上星川	103
63/H 元年	14	日産 FC	野庭 KC	駒林	山王谷	105
元年/2	15	FC 本郷	あざみ野	横浜深園	若葉台	105
2/3	16	アムゼル	上中里	ハッ橋	上郷 FC	105
3/4	17	駒林	日産 FC	磯子	FC 緑	107
4/5	18	あざみ野	原 FC	FC 本郷	阿久和	112
5/6	19	日産 FC	駒林	新井	霧ヶ丘	118
6/7	20	あざみ野	FC 野庭	原 FC	日産 FC	131
7/8	21	あざみ野	駒林	日産 FC	長津田トランス*	139
8/9	22	あざみ野	日産マリノス	城郷	富岡	144
9/10	23	元石川	あざみ野	横浜フリューゲルス	SCH	140

横浜年春季少年サッカー大会 (第23回までは横浜市スポーツ少年団サッカー大会) : 4月開催

年度	回	クラス	優勝	準優勝	第3位	第4位	チーム数
S 49	1	LL	横浜東	たちばな	山王谷	FC 本郷	8
		SL	横浜東	銀嶺	篠原つばめ	富岡ひばりが丘	4
50	2	L	洋光台	山王谷	篠原つばめ	たちばな	19
		LL	横浜東	たちばな	山王谷	篠原つばめ	13
		SL	横浜東	銀嶺	篠原つばめ	黒滝	9
51	3	L	山王谷	たちばな	篠原つばめ	横浜東	25
		LL	たちばな	山王谷	公田	富岡ひばりが丘	25
		SL	黒滝	公田	富岡ひばりが丘	勝田	11
52	4	L	たちばな	横浜東	山王谷	公田	29
		LL	夏山	山王谷	たちばな	富岡	27
		SL	瀬ヶ崎	FC 本郷	黒滝	篠原つばめ	16
53	5	L	たちばな	駒林	山王谷	篠原つばめ	24
		LL	たちばな	夏山	瀬ヶ崎	駒林	25
		SL	黒滝	横浜東	山王谷	駒林	19
54	6	L	たちばな	横浜東	駒林	山王谷	32
		LL	篠原つばめ	夏山	瀬ヶ崎	FC 本郷	30
		SL	富岡	山王谷	FC 本郷	かながわ	20
55	7	L	港南台	公田	山王谷	横浜東	44
		LL	黒滝	山王谷 A	駒林	かながわ	37
		SL	山王谷	駒林 A	駒林 B	瀬ヶ崎	26
56	8	L	FC 本郷	山王谷	かながわ	横浜東	53
		LL	駒林 A	FC 本郷	山王谷 A	夏山	52
		SL	夏山	かながわ	駒林	野庭キッカーズ	31

57	9	L LL SL	FC 本郷 夏山 駒林	かながわ 山王谷 野庭キッカーズ	横浜東 駒林 山王谷	若葉台 港北 黒滝	58 67 33
58	10	L LL SL	FC 本郷 山王谷 夏山	奈良 FC 野庭 野庭キッカーズ	駒林 夏山 あざみ野	たちばな かながわ 港南台	63 61 39
59	11	L LL SL	FC 本郷 瀬ヶ崎 駒林	山王谷 公田 山王谷	野庭キッカーズ 山王谷 横浜東	港南台 駒林 野庭キッカーズ	68 72 40
60	12	L LL SL	野庭キッカーズ 駒林 横浜深園	篠原つばめ 港南台 A 黒滝	伊勢山 山王谷 夏山	山王谷 A 瀬ヶ崎 野庭キッカーズ	80 84 56
61	13	L LL SL	駒林 A 上郷 山王谷	アムゼル 山王谷 駒林	FC 本郷 磯子 夏山	フローラー 駒林 野庭キッカーズ	93 97 58
62	14	L LL SL	元石川 あざみ野 A 駒林	日産 FC 駒林 あざみ野 A	小山台 富岡 原 FC	駒林 FC 本郷 富岡	108 107 63
63	15	L LL SL	日産 FC 日産 FC あざみ野 A	かもめ 長津田ドラゴンズ 原 FC	あざみ野 A FC 隼 山王谷	上郷 上中里 浜北	116 106 63
H 元	16	L LL SL	富岡 FC 隼 原 FC	南戸塚 並木 A 長津田ドラゴンズ	公田 あざみ野 A 駒林	横浜深園 アムゼル A 山王谷	116 104 58
2	17	L LL SL	日産 FC FC 隼 文庫	FC 本郷 日産 FC 夏山	野庭キッカーズ 原 FC 原 FC	長津田ドラゴンズ 上郷 浜北	111 98 57
3	18	L LL SL	並木 SC 横浜深園 FC ゼブラ	FC 緑少年 並木 SC FC 緑少年	六浦少年 FC 本郷 駒林 SC	かもめ SC 六浦少年 六浦少年	115 103 57
4	19	L LL SL	駒林 A 日産 FC 駒林 SC	日産 FC 駒林 A あざみ野 SC	六浦少年 FC 本郷 駒林 SC	若葉台 SC FC 若北 原 FC	121 112 68
5	20	L LL SL	日産 FC あざみ野 A あざみ野 A	野庭キッカーズ 日産 FC 黒滝	北 YMCA 黒滝 駒林	並木 文庫 富岡	122 114 75
6	21	L LL SL	日産 FC 駒林 城郷	野庭キッカーズ 山王谷 元石川	駒林 城郷 山王谷	原 FC 今宿少年 富岡	135 124 78
7	22	L LL SL	原 FC あざみ野 A あざみ野 A	日産 FC 原 FC ゼブラ	ゼブラ 富岡 駒林	藤塚 城郷 FC80	137 127 77
8	23	L LL SL	日産 FC 日産 FC 瀬谷 FC	FC 本郷 山王谷 ゆたか	中央 YMCA 元石川 城郷	オフサイド 磯子 SC 黒滝	149 130 68
9	24	L LL SL	横浜マリノス GS ファイターズ あざみ野 FC	FC 本郷 あざみ野 FC 原 FC	若葉台 原 FC FC 本郷	駒林 SC FC 本郷 丸山台	152 132 52
10	25	L LL SL	横浜マリノス 横浜マリノス 原 FC	並木 ゆたか 夏山	元石川 A 瀬谷 FC 六ツ川	ゆりの木 今宿少年 駒林	146 123 57

全日本少年サッカー大会神奈川予選：5 月開催

年度	回	参加数	優勝	準優勝	第 3 位
S 52	1	96	善行 A	ゴールランダーズ	百合ヶ丘サッカー
53	2	143	いずみキッカーズ	たちばなキッカーズ	村岡 A
54	3	189	浜見 A	たちばなキッカーズ	村岡 A
55	4	240	大根ラディッシュ	北の台キックルブン	ゴールランダーズ
56	5	268	ゴールランダーズ	六会 A	中里 A
57	6	307	成瀬 A	大沼ファイターズ	六会 A
58	7	307	町田イレブン	下和田サッカー	大越 A
59	8	316	ゴールランダーズ	夏山 SC	FC 本郷
60	9	340	ゴールランダーズ	双葉キッカーズ	野庭キッカーズ
61	10	307	FC 六会フジサワ	FC 高坂	ゴールランダーズ
62	11	310	浜見平ジュニア FC	ゴールランダーズ	成瀬サッカー
63	12	311	ゴールランダーズ	綾南オレンジ	かもめ SC
H 元年	13	322	ゴールランダーズ	日産 FC フライヤー	FC 今宿茅ヶ崎
2	14	312	日産 FC フライヤー	中里 A	玉縄 SC
3	15	324	原 FC	FC 辻堂	高谷 04
4	16	326	大庭 FC	成瀬サッカー	今宿少年
5	17	329	ゴールランダーズ	日産 FC フライヤー	FC 六会藤沢
6	18	360	日産 FC フライヤー	ゴールランダーズ	ジュニアイレブン
7	19	363	南百合丘 SC	黒滝 SC	FC 六会藤沢
8	20	375	FC 本郷	立野台 FC	日産 FC 追浜
9	21	377	日産 FC フライヤー追浜	富岡 FC	あざみ野 FC
10	22	370	横浜フリューゲルス	あざみ野	早園 SC

横浜国際チビッ子サッカー大会（昭和 55 年度(第 12 回)大会から 1 部/2 部に分離）：10 月開催

年度	回	クラス	優勝	準優勝	第 3 位	第 4 位	チーム数
S 44	1	L	朝鮮学園	東戸塚	中区(ゴール)		
45	2	L	中区	St.ジョセフ	朝鮮学園	山王谷	
46	3	L LL SL	クスノ木 原 山王谷	原(アポロ) たちばな 横浜東	朝鮮学園 山王谷 原		12 6 6
47	4	L LL	G.ブランダーズ アポロ	たちばな G.ブランダーズ	St.ジョセフ 篠原つばめ	篠原つばめ 山王谷	9 8
48	5	L LL	アポロ St.ジョセフ	篠原つばめ	山王谷 St.ジョセフ 横浜東 たちばな		12 10
49	6	L LL SL	朝鮮学園 たちばな 横浜東	FC ゴール 山王谷 銀嶺	山王谷 横浜東 篠原つばめ	篠原つばめ St.ジョセフ 公田	15 15 6
50	7	L LL SL	朝鮮学園 横浜東 横浜東	篠原つばめ 山王谷 勝田	駒林 たちばな 朝鮮学園	洋光台 朝鮮学園 黒滝	21 18 17
51	8	L LL SL	横浜東 横浜東 黒滝	YMCA 横浜 たちばな 公田	たちばな 山王谷 横浜東	勝田 公田 勝田	27 30 19
52	9	L LL SL	たちばな たちばな 勝田	横浜東 公田 篠原つばめ	山王谷 駒林 瀬ヶ崎	勝田 横浜東 山王谷	29 33 26
53	10	L LL SL	たちばな 横浜東 黒滝	横浜東 篠原つばめ 山王谷	山王谷 公田 駒林	瀬ヶ崎 黒滝 FC 本郷	30 34 26
54	11	L LL SL	朝鮮学園 篠原つばめ 山王谷	横浜東 A 勝田 A かながわ	たちばな A 山王谷 A 港南台	YMCA 二俣川 たちばな A 瀬ヶ崎	39 40 25

55	12	L-1 LL-1 SL	たちばな 篠原つばめ 山王谷	黒滝 山王谷 A 駒林	勝田 黒滝 黒滝	夏山 洋光台 FC 本郷	22 42 29
56	13	L-1 LL-1 SL	FC 本郷 夏山 野庭 KC	港南台 FC 本郷 夏山	横浜東 山王谷 FC 野庭	山王谷 駒林 洋光台	27 28 36
57	14	L-1 LL-1 SL	FC 本郷 FC 本郷 駒林	奈良 山王谷 A 山王谷	駒林 瀬ヶ崎 野庭 KC	たちばな 夏山 夏山	30 28 37
58	15	L-1 LL-1 SL	野庭 KC 山王谷 駒林	元石川 かながわ 山王谷	FC 奈良 野庭 KC 夏山	山王谷 駒林 港南台	35 31 42
59	16	L-1 LL-1 SL	駒林 夏山 駒林	FC 本郷 たちばな A あざみ野 A	山王谷 FC 本郷 山王谷	元石川 野庭 KC 夏山	39 38 57
60	17	L-1 LL-1 SL	FC 奈良 駒林 駒林	野庭 KC 六浦少年 横浜深園	FC 本郷 公田 長津田ドラゴンズ	かもめ あざみ野 北 YMCA	45 44 62
61	18	L-1 LL-1 SL	FC 野庭 あざみ野 長津田ドラゴンズ	FC 隼 六浦少年 横浜深園	若葉台 上郷 夏山	元石川 ヨコハマ KC あざみ野	51 48 66
62	19	L-1 LL-1 SL	野庭 KC 駒林 並木	元石川 横浜深園 駒林	山王谷 FC 本郷 富岡	若葉台 山王谷 原 FC	50 49 69
63	20	L-1 LL-1 SL	あざみ野 日産 FC A 磯子	山王谷 駒林 A あざみ野	駒林 A あざみ野 A 横浜深園	かもめ 長津田ドラゴンズ 六浦少年	54 48 69
H 元年	21	L-1 LL-1 SL	横浜深園 原 FC あざみ野 A	FC 本郷 日産 FC A 駒林	FC 奈良 富岡 原 FC	つばめ 駒林 ゼブラ	56 47 68
2	22	L-1 LL-1 SL	日産 FC FC 隼 浜北	長津田ドラゴンズ 横浜深園 城郷	藤の木 六浦少年 駒林	横浜深園 浜北 原 FC	55 48 70
3	23	L-1 LL-1 SL	並木 横浜深園 城郷	日産 FC 駒林 A FC 緑	原 FC 富岡 FC 野庭	かもめ 上郷 あざみ野	55 53 73
4	24	L-1 LL-1 SL	日産 FC 日産 FC 駒林	FC 緑 駒林 FC 本郷	GS ファイターズ FC 本郷 あざみ野	横浜深園 若北 丸山台	63 55 82
5	25	L-1 LL-1 SL	日産 FC FC 本郷 アムゼル	北 YMCA あざみ野 城郷	駒林 六浦少年 駒林	長津田ドラゴンズ 上星川 原 FC	64 65 85
6	26	L-1 LL-1 SL	日産 FC 日産 FC 元石川	原 FC 港南台 文庫 FC	若北 A アムゼル 城郷	富岡 長津田ドラゴンズ SCH	70 64 94
7	27	L-1 LL-1 SL	日産マリノス アムゼル 城郷	原 FC あざみ野 A 並木	ゼブラ 富岡 あざみ野	黒滝 洋光台 白根	69 66 96
8	28	L-1 LL-1 SL	日産マリノス あざみ野 A ゆたか SC	FC 本郷 元石川 SC 野庭キッカーズ	中央 YMCA FC ゼブラ FC 本郷	フリーゲル ゆりのき 富岡 SC	84 63 87
9	29	L-1 LL-1 SL	日産マリノス FC 本郷 あざみ野 A	マリノス あざみ野 A 原 FC	若葉台 A 原 FC たちばな	アムゼル 駒林 丸山台	84 70 76

横浜国際テビツ子サッカー大会 2 部：10 月開催

年度	回	クラス	優勝	準優勝	第 3 位	第 4 位	チーム数
S 55	12	L-2	小菅ヶ谷	横浜東 B	YMCA 青葉台	洋光台	27
56	13	L-2 LL-2	上星川 たちばな	FC 隼 港北 FC	西 YMCA 上星川	フローラ トライスター	30 31
57	14	L-2 LL-2	富岡 駒林 B	大崎 黒滝	大曾根 富岡 A	野庭 KC かながわ	30 30
58	15	L-2 LL-2	文庫 FC FC 奈良	南戸塚 たちばな	寺尾小 アローズ	若北 SC 希望ヶ丘	35 34
59	16	L-2 LL-2	小山台 上郷	古河 藤の木	上中里 港南台	大崎 YMCA 北	41 36
60	17	L-2 LL-2	保土ヶ谷 文庫 FC	南戸塚 アムゼル	上中里 FC 奈良	北 YMCA FC 霧が丘	45 45
61	18	L-2 LL-2	伊勢山 若葉台	黒滝 長津田ドラゴンズ	FC すずき野 南戸塚	希望ヶ丘 FC 緑	50 58
62	19	L-2 LL-2	アローズ 洋光台	上中里 中央 YMCA	夏山 富岡 B	鶴ヶ峰 南戸塚	61 59
63	20	L-2 LL-2	つばさ 日産 FC B	若北 A 西 YMCA	駒林 B 大崎	ヨコハマ KC FC 西柴	64 60
H 元年	21	L-2 LL-2	FC 西柴 日産 FC B	長津田第 2 FC 若北	山田若竹 夏山	帷子 長津田第 2	61 58
2	22	L-2 LL-2	かもめ たちばな	フローラ FC 緑	黒滝 駒林	公田 篠原つばめ	59 48
3	23	L-2 LL-2	FC 西柴 今宿少年	伊勢山 阿久和	六ッ川 FC 緑	洋光台 A 六浦毎日	63 54
4	24	L-2 LL-2	長津田第 2 若葉台	瀬谷 上星川	たちばな コミュニティ ラグ	南ヶ丘 原 FC	60 63
5	25	L-2 LL-2	上郷 南ヶ丘	霧が丘 夏山	希望ヶ丘 FC 奈良	北方 藤の木	62 55
6	26	L-2 LL-2	アローズ 黒滝	いずみ野 フローラ	磯子 SC 藤の木	坂本 オフサイド	70 66
7	27	L-2 LL-2	並木 桜ヶ丘	洋光台 美晴	長津田第 2 帷子	フリーゲル 鶴見東	74 65
8	28	L-2 LL-2	FC 奈良 帷子 SC	あざみ野 B 保土ヶ谷エルフィンズ	コミュニティ 西本郷 FC	横浜 SC つばさ 鶴見東	67 63
9	29	L-2 LL-2	小菅ヶ谷 岩崎	GS コミュニティ	夏山 北 YMCA	瀬谷 B ゆたか	62 63

実施年	回	クラス	参加数	優勝	準優勝	第3位
S 50	1	高	12	明治	鶴南 A	ゴールブ・ラング・ーズ
51	2	高	83	鶴南 A	明治	善行 A
52	3	高低	99 56	鶴南 A たちばなキッカーズ	いずみキッカーズ いずみキッカーズ	明治ファイターズ 羽鳥 C
53	4	高低	132 80	善行 A 村岡 E	浜見平 夏山	俣野ホークス 山王谷
54	5	高低	159 96	酒匂あかつき 天台 C	村岡 A 篠原つばめ	ゴールブ・ラング・ーズ FC504 茅ヶ崎ベスト
55	6	高低	196 119	秋葉台 A 村岡 E	大庭 A ゴールブ・ラング・ーズ	村岡 A 天台 A
56	7	高低	237 154	天台 A 成瀬	浜見平 横浜東	善行 A 山王谷
57	8	高低	265 182	天台 A FC 本郷	小和田 A 六会 E	村岡 A 荻野 SC
58	9	高低	312 188	草柳 SC 山王谷	駒林 SC FC 本郷	羽鳥 A 夏山 SC
59	10	高低	318 217	小和田 A 山王谷	秋葉台 A 下福田ボルト Jr	上和田 A 野庭キッカーズ
60	11	高低	330 249	FC 本郷 綾南ジュニアオレンジ	中里 A 瀬ヶ崎	山王谷 下福田ボルト
61	12	高低	331 264	伊勢山少年 SC 中里 4E	国府津 FC 夏山 SC	ゴールブ・ラング・ーズ 小山台 SC
62	13	高低	314 266	FC 六会フジサワ 綾南 SC	ゴールブ・ラング・ーズ 上郷 FC	中里 6A 東原 SC
63	14	高低	298 267	高谷 O4 駒林 SC	浜見平ジュニア SC 深園 SC	FC 六会藤沢 日産 FC プライマー
H 元年	15	高低	329 290	綾南オレンジ 日産 FC プライマー	中里サッカー少年団 富岡 SC	立野台 FC あざみ野 FC
2	16	高低	325 290	日産 FC プライマー ゴールブ・ラング・ーズ	中里サッカー少年団 原 FC	横須賀シーガルズ 松延少年 SC 六浦少年 SC 鶴ヶ台スィーパース
3	17	高低	328 280	日産 FC プライマー FC 隼	深園 SC 日産 FC プライマー	中里 SC 荻野 SC
4	18	高低	329 276	六浦少年 SC FC 六浦藤沢 翼 SC	横須賀シーガルズ -	FC 緑少年少女 SC 駒林 SC
5	19	高低	335 305	日産 FC プライマー FC 若北	横須賀シーガルズ さぎぬま SC	六浦少年 SC ゴールブ・ラング・ーズ
6	20	高低	352 315	FC 六会藤沢 日産 FC プライマー	日産 FC プライマー 並木 SC	西鶴間 SC 南百合丘少年 SC 相武台ニューグリーン FC 本郷
7	21	高低	374 339	相武台ニューグリーン 日産 FC プライマー	六会藤沢 FC 城郷 SC	日産追浜 成瀬サッカー
8	22	高低	386 351	あざみ野 FC あざみ野 FC	JESC 林間 SC	柏ヶ谷 SC 名向 FC
9	23	高低	396 345	横浜マリノス プライマー 横浜マリノス プライマー	横浜マリノス プライマー追浜 成瀬サッカー	大沢 FC あざみ野 FC
10	24	高低	404 352	あざみ野 あざみ野	原 FC 若宮	湘南辻堂 原 FC

一編集後記一

たちばなキッカーズ創立 30 周年を記念して、式典を実施し、記念誌を発行したいとの話題が出たのが、1996 年の 1 月。しかしながら、具体的な作業は一向に進まず、約 2 年が経過しました。そして、本年 2 月に、下記の創立 30 周年記念行事準備委員会組織を発足させ、実作業を開始しました。記念誌編集に際しまして、横浜サッカー協会少年委員会及びサッカーチームの方々、地元で校庭を提供して下さる小学校、中学校の校長先生方々、地元地域の自治会/スポーツチームの方々から御祝辞を頂き、誠にありがとうございました。この場をおかりして厚く御礼申し上げます。

今回の記念誌につきましては、出来る限り過去のチーム成績、メンバー紹介、トピックス等を深く掘り下げ、30 年史とする事をコンセプトとし、まずは OB 名簿の整備から開始しました。

歴代キャプテンへのチームメートの住所録整備依頼(4 月)、歴代キャプテン或いはキーマンへのチーム/成績/メンバー/トピックス紹介の原稿依頼(6 月)等を行ないました。なにぶんにも、30 年もの歳月を経過しているため、連絡のつかない方、記憶が薄れてしまった方等も多く、作業は遅々として進まず、15 周年記念誌、20 周年記念誌、の内容も引用させて頂き何とか今回の発行にこぎつける事が出来ました。数多くの方々から、原稿、写真等の資料を提出して頂き、ご多忙中にもかかわらず御協力頂き、誠にありがとうございました。一方、年代によりましては充分な資料が揃わず、戦績、メンバー紹介等の内容が不充分となってしまいました事を深くお詫び申し上げます。

今回の編集に当り、強く感じた事は、「昔は本当にサッカーが好きな少年達が多く、暇さえあればサッカーをやり、サッカーを心から楽しんでいた」と言う事です。これはたちばなキッカーズの育成方針である「のびのびサッカー」に起因するところが大きいのですが、今日の様に多種の遊びが氾濫していなかった事にも起因している様に思えます。現在の子供達は、ビデオ、テレビゲーム等色々な遊びがあり、外で遊ぶ子供達も減少傾向にあります。一方で、受験勉強、成績重視の世の中で、サッカーを一種の習い事の様にとらえている親御さんも多く、子供達が自分から進んでサッカーを楽しんでいると言うよりは、やらされているといった子供達も見うけられます。

今後、たちばなが 20 年、30 年と歴史を刻む上では、本来の目標である「子供が主役のたちばなサッカー」の意味を改めて認識し、サッカーの、或いはスポーツの楽しさを教える事が重要であると痛感しました。

最後に、記念誌編集に際しまして、編集委員の皆様をはじめ、たちばなキッカーズ関係者の皆様のご協力に感謝すると共に、印刷/製本をして頂きました東京写真工業株式会社の皆様に深く感謝する次第であります。紙面をおかりして厚く御礼申し上げます。

(矢戸)

たちばなキッカーズ創立 30 周年記念行事準備委員会組織

事務局	*永田欣也	*印はリーダー
式典、祝賀会	*前島宏行、永田欣也、田辺昭治、村松理雄、木村尚嗣	
記念誌	*矢戸正人、曾田弘治、南間正次、新井一成、堀内正一、伊藤直和	
招待試合	*大島勉、村松理雄、緒方修一、鈴木彰浩、五嶋喜久夫	
資金	*田辺昭治、永田欣也、南間正次、細井雄二、佐々木勝幸	

たちばなキッカーズ創立 30 周年記念誌

発行	たちばなキッカーズ 創立 30 周年記念行事実行委員会
編集	30 周年記念誌編集委員会
印刷所	東京写真工業株式会社
発行日	平成 10 年 12 月 13 日

1. 凡そ、この世に於けるものは、
皆、神の御業によるものである。
2. 神の御業は、常に、
我々のために、
行はれてゐる。
3. 我々は、神の御業に、
感謝するべきである。
4. 神の御業は、
我々のために、
行はれてゐる。
5. 我々は、神の御業に、
感謝するべきである。

6. 神の御業は、
我々のために、
行はれてゐる。
7. 我々は、神の御業に、
感謝するべきである。
8. 神の御業は、
我々のために、
行はれてゐる。
9. 我々は、神の御業に、
感謝するべきである。

10. 神の御業は、
我々のために、
行はれてゐる。
11. 我々は、神の御業に、
感謝するべきである。
12. 神の御業は、
我々のために、
行はれてゐる。
13. 我々は、神の御業に、
感謝するべきである。
14. 神の御業は、
我々のために、
行はれてゐる。
15. 我々は、神の御業に、
感謝するべきである。

